

文部科学省指定

平成27年度指定スーパーグローバルハイスクール

研究報告書 第5年次



学校法人 京都光楠学園

京都学園中学高等学校

目次

ご挨拶	3
構想調書の概要	5
研究開発完了報告書	7
研究開発の経緯	20
組織図	21
3年間の流れ	22
KOA Global Studies I 授業実施報告書	23
KOA Global Studies II 授業実施報告書	26
KOA Global Studies III 授業実施報告書	27
SGH サーベイ	28
Framework of Assessment and Evaluation	31
令和元年度 SGH 研究発表会兼リトリート大会	65
地球学の可能性	67
SGS の取り組み	72
2019年度公開研究授業大会	83

SGH 事業研究開発実施最終報告

ご挨拶

学校長 佐々井 宏平

「21.3 世紀の日本を牽引するグローバルナビゲーターの育成」を掲げ、2015 年 4 月より本校 SGH 特別顧問 故西本昌二先生、宮口貴彰先生をはじめ産業界並びに大学の各分野のご専門の先生方、そしてご縁をいただきました世界中の教育関係者の皆様からのご指導を賜り、この度 2019 年度研究開発実施最終報告を申し上げることとなりました。5 年間を通して、先生方のご経験に基づいた貴重なご教示を頂き、生徒たちは主体的に学ぶことの大切さを日々体感して参りました。心からご指導いただきました先生方に深謝申し上げます。

本校では、これから 10 年後の日本を牽引するグローバルナビゲーター、すなわち批判的思考力・問題解決力をはじめとする 8 つのスキルを兼ね備えた人を育てる、をテーマとして探究学習に積極的に取り組んで参りました。また、同時に指導する教員自身も実際に世界に飛び出し、生徒と共に現地に赴き、現地の人々の生活を肌で感じることで、そして、現地の方々からお話を聞かせていただくことを通して、さまざまな課題を発見し、それを解決する姿勢を築くことも本校にとって重要な事業として位置づけておりました。

本校は、今年創立 95 周年を迎えます。創立者が 1898 年に 15 歳で渡米した経験から、「世界的視野で主体的に行動する人間の育成」という建学の精神が生まれ、建学の精神を体现するために、生徒全員に海外研修を課しています。これまでの 30 年間でアメリカ、イギリス、カナダの学校と教育連携を築いて参りました。そして、この事業を機にさらなる海外連携に努めようと、全教職員あげて新たな教育連携の構築を積極的に進めました。アジアではフィリピン、ベトナム、またヨーロッパではフィンランド、スウェーデン、ドイツ、スイス、イタリア、スペイン、そしてアフリカではザンビアの教育関係者の皆様が、本校の SGH 事業にご賛同をいただき、現地でのフィールドトリップが実現しました。その経験が、本校生徒とともに教職員の世界観の広がり大きな影響を与えました。

中でも私は 2016 年 2 月にフィリピン・マニラのセント・ペドロ・ポベタカレッジとの教育連携締結式に、SGH 特別顧問としてご指導頂いていた元 UNDP 部長の西本先生と訪問した際に、先生からいただいたお言葉が忘れられません。

西本先生は「京都学園の生徒さんをここに連れてくる目的は、現地の厳しい状況を自分の目で直接見て、そして現地の方々と話す中で、課題を克服するためには個人の力には限界があるということ、だからこそ、組織が必要だ、ということを実感して欲しいのです」と、私にご教示してくださいました。先生とご同行させて頂き、現地の方々と話し、そして現場を見て、「個人の力には限界がある。志を同じくした人間が、組織を作り問題解決のために力を結集することが大事なのです」という、UNDP での活動を経験されてきたからこそ西本先生のこのお言葉を踏まえて、SGH 事業を通して私が次世代の生徒の皆さんに、組織力でより良い社会を築くことを伝えていかねばならない、と心底思いました。

本校の SGH 事業は、国際コースが研究対象コースでしたが、毎年年度末に開催されました SGH 事業研究発表大会では、国際コースの研究発表と共に、特進 ADVANVED コース、特進 BASIC

コース、進学コースの生徒にも探究学習や海外研修の成果を英語で発表する機会が与えられました。

このように SGH 事業を通して、本校は国内外の皆様からご縁と多くの知見を授けていただく機会を得ました。そして、同時に生徒の皆さんに深い学びの場を提供できました。来年度 2020 年度学校スローガンは「21.3 世紀の Global Navigator の育成 ～科学と芸術の調和～」です。この 5 年間の事業の成果をもとに、今後本校教育の実践で生かし、教育力の向上に努めて参りますこととお誓い申し上げご挨拶といたします。

結びにあたりまして、各研究報告会では京都府文化スポーツ部文教課、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会をはじめ全国から多くの先生方にご臨席を賜り貴重なご教示を頂きました。ここに感謝申し上げ、今後ともご指導賜りますよう心よりお願い申し上げます。



平成 27 年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要 (申請時)

指定期間	ふりがな	きょうとこうなんがくえん きょうとがくえんこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府
27~31	①学校名	京都光楠学園 京都学園高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	国際 201名	特進 ADVANCED 264名
普通科	73	57	71		155	特進 BASIC 409名	進学 464名
国際コース							計 1338名
⑥研究開発構想名	「21.3 世紀のグローバルナビゲーター育成プログラム」						
⑦研究開発の概要	グローバル・リーダーに不可欠な 8 つのスキル (=コア・グローバルスキル) 育成のため、人間存在に包括的に連関する「食」をテーマに、アフリカ・アジア地域における国際開発協力モデル開発・ビジネスモデル開発を目指し、国際機関や国内外の企業、国内外の高校・大学との協働で実践する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>〈目的〉 2030 年の日本を牽引するグローバルナビゲーター、すなわち豊かな創造性と旺盛な好奇心を有し、多種多様な国や文化を乗り越え協働でき、多角的な視野をもって現象と専門的知識とを関連付け、常に失敗を恐れず、実験し行動し続けることができる人材の育成。</p> <p>〈目標〉 グローバルナビゲーター育成に資するカリキュラムの研究・開発・実践を行う。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>〈現状分析〉</p> <ol style="list-style-type: none"> SGH アソシエイト校として、「KOA(=幸せ)を世界に広めることができる人材」という目標を設定したが、生徒に身につけさせるべき具体的な能力の明確な共通認識を形成できていなかった。 その共通認識がなされていなかったため、SGH アソシエイト校としてのプログラム全体を貫く理念が希薄となり、統合性に欠けるところが散見された。 プログラムに参加した生徒は、批判的思考力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力を一定高めることができたが、主体的行動者としてそれらのスキルを統合することが困難であった。 2006 年以来、様々な国際コラボレーション事業に取り組んできたが、結局、交流それ自体が目的化していた。 英語を母語とする生徒たちとのコミュニケーションを考えた時に、CEFR B1、B2 ではまだまだ不足である。 <p>〈仮説〉</p> <p>「食」をテーマに、アフリカ・アジア地域における「国際開発協力モデル」「ビジネスモデル」を内外の大学、企業、国際機関と共に研究するコアグローバル講座を通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒は、ワグナーの 7 つのスキルに英語運用能力を加えた 8 つのスキルを身につけることで、「解のない世界」に慣れ親しみ、世界的視野で考え主体的に行動するグローバルナビゲーターへと成長することができる。 既存のすべての教科に影響を与え、すべての教員がそれらのスキルを育むアクティビティの開発に取り組むことができる。 <p>(3) 成果の普及</p> <p>①課題研究発表 成果発表を、国際機関、国内外企業、国内外高校・大学、地域などに対して行う。</p> <p>②Global Simulation Gaming 大会を開催し、全国の高校・大学、保護者へ公開。</p>					

	<p>③課題研究授業などを全国の高校・大学へ公開・普及にあたる。 ④保護者対象ワークショップ開催 ⑤課題研究授業、発表、研究会に対するエバリュエーションシートの作成 ⑥バイリンガルホームページの更なる発展</p>
<p>⑧-2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 「食」をテーマに、アフリカ・アジア地域における国際開発協力モデル開発・ビジネスモデル開発を目指し、国際機関や国内外の企業、国内外の高校・大学との協働で実践する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 〈実施方法〉 本校のSGHの取り組みは、2015年度においては高校1年・2年の国際コース在籍者生全員および、高3生の希望者を対象とし、2016年度で国際コース3学年全生徒対象のプログラムを完成する。2015年度における国際コース3年生対象プログラムは英語科の授業の中で、希望者25名を対象に、食をテーマとする課題研究を実施する。また教科横断的なプロジェクトを随時実施することで、8つのスキルの習得を深化させる。</p> <p>国際生対象プログラム 国際機関職員、企業の方々、国内外の高校や大学、関連機関との連携を通し、2015年度においては高校1年～2年での、2016年度においては高校全学年で「総合的な学習の時間」及び英語、国語、社会、理科、家庭科、情報、保健で、講義、討議、グループワーク、課題研究、発表などを通し、8つのスキルを身につけるためのプログラムを実施する。</p> <p>〈フィールドトリップ〉 課題研究の深化のために、高2の夏期休暇を利用してアジア・アフリカ地域へのフィールドトリップを実施する。</p> <p>〈検証評価〉 検証評価として、8つのスキルそれぞれのルーブリックを作成し評価する。また、本校生徒、本校教員に対してアンケートの実施やSGH運営指導員による指導・助言をいただく。さらに3年次の成果検証として国内外のコンペや東京大学と立命館大学国際関係学部が共同で開発したグローバルシミュレーションゲーミング（GSG）を本学において実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧-3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 〈ルーブリック研究会〉SGH対象コース以外の教員とも吟味し、成果を私学研究大会他で発表する。 〈留学〉高2の8月～高3の6月対象生徒はイギリスもしくはカナダに留学するが、留学先においても食をテーマとする課題研究に継続的に取り組む。 〈English Website Competition〉マーケティング調査をターゲットごとに行い、英語でブログを作成する。訪問者数が一番多いグループが優勝 〈オープンプログラム〉全校の希望者を対象として、平日放課後や授業のない土曜日を利用して、国際機関職員や企業の方々を招いてのワークショップや協働プログラムを実施する。これにより国際開発協力モデルや世界的規模で展開するビジネスモデルの現状とその課題を理解するとともに、自分の将来につながるヒントを獲得する。</p> <p>(2) 〈課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>

(別紙様式3)

令和2年3月30日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 京都府京都市右京区花園寺ノ中町8
管理機関名 学校法人光楠学園
代表者名 佐々井 宏平 印

2019年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成31年4月1日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名

学校名 京都学園高等学校

学校長名 佐々井 宏平

3 研究開発名

21. 3世紀のグローバルナビゲーター育成プログラム

4 研究開発概要

今年度は、ザンビア共和国の Crested Crane Academy の生徒10人、教員2人を本校に迎え、またスウェーデンの Viktor Rydbergs School と教育連携を結び、生徒10人、教員3人を派遣し、様々な交流活動を通して国際理解教育の深化をはかることができた。また、昨年度に引き続き、課題研究授業の根幹である総合的学習の時間「コアグローバルスタディーズ」（以下「KOA学」）の3学年分の教材・資料を Google Classroom 上に整備し、本校教員が主として課題研究の指導に当たる体制を整えた。さらに、課題研究の成果検証の場としてのフィールドトリップの意義をより明確にすべく、今年度からフィリピンの貧困層のコミュニティ、スモーキーマウンテンの自治会組織との交流の場を設け、国際開発協力モデル、そしてビジネスモデルの開発に資する体制を整備した。生徒ばかりでなく教員の英語運用能力を高めることをねらい、高校の海外研修旅行引率者の語学研修を導入した。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公開研究授業大会								○				
運営指導委員会										○		
海外研修旅行		○	○	○	○		○	○	○	○	○	

(2) 実績の説明

① 職員体制に関する支援

- (ア) ネイティブ教員（計8名）及び海外留学経験を有する優秀な教員の配備
- (イ) SGH活動のための事務員配置（1名）（SGH活動のための事務作業）
- (ウ) 外国語科以外の教員に対する海外英語研修の支援

② 取組内容に関する支援

- (ア) フィリピン、フィンランドへのフィールドトリップ引率教員経費負担（延べ4名）
- (イ) Super Global Congress 参加のフィリピンの姉妹校生徒国内移動費用負担
- (ウ) SGH 委員会の設置および開催

SGH 事業対象コースである国際コースの教科担当者および教務部長、国際部長で SGH 委員会を設置。毎週1度中核メンバーによるミーティングを持ち、SGH 事業における課題研究の仮説の検証および成果に基づいた指導法の確立をはかった。

(エ) SGH 事業対象コース以外のコースでの探究学習の推進

2017年より導入した2年特進 BASIC コース（以下「特B」）・進学コース（以下「進学」）対象の「光楠スピリッツスタディーズ」に深さと広がりを持たせるため、今年度から1年特B・進学に「教育と探求社」の「クエストエデュケーション コーポレートアクセス」、2年特B・進学に同じく「クエストエデュケーション ソーシャルチャレンジ English」を導入した。

(オ) SGH 事業対象以外のコースの海外研修実施

5月24日～6月4日 カナダ・ノバスコシア州 Chignecto-Central 教育委員会傘下の5校へ中学3年生51名、教員5名派遣

6月30日～7月17日 イギリス姉妹校2校（Chichester College と East Sussex College の3キャンパス）へ高校2年生90名、教員5名派遣（語学研修と英国の歴史文化に関する課題研究）

7月16日～7月30日 Cardiff Metropolitan University へ高校生16名、教員1名派遣（語学研修）

10月9日～10月18日 アメリカ姉妹校8校へ高校生294人、教員15名派遣（異文化交流、アグリビジネス課題研究（光楠スピリッツスタディーズ））

10月20日～26日 スウェーデン Viktor Rydberg School-Djursholm 中学校へ中学生10名、教員3名派遣。

1月8日～1月11日 京都大学 iCeMS キャラバン in 瀋陽へ高校生14名、教員2名派遣。東北 育才学校の生徒14名とアクティブラーニング型体験授業に参加。さらに京都大学と瀋陽薬科大学とのシンポジウムに参加し、ポスター発表を行う。

(カ) 教職員研修会・生徒研究発表会

8月10日第1回 SGH 生徒課題研究発表会兼海外フィールドトリップ報告会

8月20日第1回教職員研修会（リトリート大会）兼第2回 SGH 海外フィールドトリップ報告会

1月19日 公開研究授業大会・教職員研修会：

講演会・ワークショップ 「SDGs を題材にした探究学習」講師 近畿大学保本正芳氏

1月27日～1月29日 Super Global Congress 開催

1月29日 第2回 SGH 研究成果発表会

(キ) 保護者対象講演会

4月20日 教養講座「自然の宝庫 深泥池」

4月27日 講演会「これからの時代に持つべきスキル」講師 本校 SGH 事業特別顧問 福原正大氏

5月11日 講演会「”先が見えない”という楽しさを ～旅と吃音と、書くことと生きること～」講師 本校 SGH 事業運営指導委員 近藤雄生氏

③ 関係機関との連絡調整等

(ア) 高大連携プログラム等を円滑に実施するため、大学、企業、NPO 法人との連携支援

(イ) ザンビアの Crested Crane Academy 生徒・教職員来校時の在東京ザンビア大使館、在ザンビア日本大使館との交渉他

④ 運営に関する支援

運営指導委員会の開催（1月29日）

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コア学 III (Global Simulation Gaming)												
コア学 II												
コア学 I												
Field Trip (SGH 対象)		○			○				○		○	
Overseas Writing (留学中)												
評価法フレイム ワーク開発												
英語資格試験 によるコミュニケーション 能力の評価に 関する研究												

(2) 実績の説明

【コア学Ⅰ～Ⅲ】

コア学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲともオンラインの Google Classroom 上に年間を通年の教材、参考資料を整備した。

- ① コア学Ⅰ（毎週木曜日2時間、20回の土曜日4時間）カリキュラム監修：本校 SGH 事業特別顧問宮口貴彰京都外国語大学准教授、授業担当：本校教員6名、SGH 対象生徒40名。

[4月～6月] [日本食を通してみる日本の心]

外部講師による課題研究のテーマの提示及びワークショップ、学内教員による課題研究指導。

4月11日 本校 SGH 事業特別顧問宮口貴彰氏「21. 3世紀のNo.1、Only 1とは」

4月27日 本校 SGH 事業特別顧問福原正大氏「これからの時代に持つべきスキル」

5月16日 京都の老舗料亭「山ばな平八茶屋」当主園部晋吾氏「和食の未来」

6月1日 全農京都元副本部長藤田正氏「京野菜のブランド化」

6月8日 園部晋吾氏「和食の未来」課題研究発表会

[6月～8月] [アフリカ・アジアの食料問題に関する国際開発協力]

特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International 代表理事安東迪子氏によるワークショップ（アフリカ・アジアの食料問題の提示）。その後学内教員による課題研究指導。

7月 夏休み中の課題：

アマルティア・センの『人間の安全保障』を読み、「①『人間の安全保障』で語られている「貧困」とは何か。②世界においてそのような「貧困」をなくさなければならないと貴方は感じるか、それはなぜか」、さらに「そもそも我々人類はこのSDGs（1～6）を実現しなくてはいけないのか？」をテーマとする課題研究。

8月10日 第1回 SGH 生徒課題研究発表会（代表2グループ8人による生徒・保護者に対する口頭発表）

[8月～1月] [食料問題に関する国際開発協力] ～長期課題研究～

SDGs 1～6に関するグループ単位（10グループ40人）での長期課題研究。

8月31日 認定NPO法人 難民支援協会事務局長吉山昌氏「難民問題から迫る人間の安全保障」

11月9日 清風南海高校発表会でポスター発表（代表3グループ12人）

11月15日 関西学院大学総合政策学部主催「リサーチフェア」に SGH 対象コース1年生40人全員参加、4グループ16人発表。

1月29日 第2回 SGH 生徒課題研究発表会（ポスター発表10グループ42人、口頭発表6グループ22人）

[1月～3月] [食を取り巻く環境とビジネス]

ビジネスにおける情報収集のあり方及びビジネスモデルキャンバス（BMC）に関する講義を皮切りに、アジアへのフィールドトリップで検証可能なビジネス企画の作成に取り組む。

1月30日 （株）堀場製作所総務部長堀井愛士氏による講演「PEST 分析と BMC」

- 2月1日 WFP 日本事務所広報官上野きより氏による講演「SDG 2（飢餓をゼロに）を軸に」
- 2月11日 兵庫県教育委員会主催「高校生国際問題を考える日」で2グループ8人発表
- 3月13日 アジアへのフィールドトリップで検証可能なBMC発表会（新型コロナウイルス対策のため書面による発表会とした。また、3月末に（株）堀場製作所の琵琶湖工場見学を予定していたが、新型コロナウイルス対策のために、4月以降に延期とした。
- 3月21日 WWL・SGH x 探究甲子園に口頭発表1グループ、ポスター発表1グループが出場予定だったが、新型コロナウイルスのため中止となった

- ② コア学Ⅱ（〔前期 毎週木曜日2時間、10回の土曜日2時間〕）カリキュラム監修：本校 SGH 事業運営指導委員堀井愛士氏・本校教員黒宮康明、授業担当：本校教員5名、SGH 対象生徒56名。

[4月～8月] [フィリピンに関わる環境とビジネス及びフィールドトリップ]

- 5月6日～13日 ベトナムフィールドトリップ（選抜生徒10人、教員2人派遣）
- 5月24日～25日フィリピンの姉妹校 Saint Pedro Poveda College（以下「POVEDA」）教員 Lynne Manalac 氏による「フィリピンにおける格差問題」ワークショップ開催（対象コース2年生56人参加）
- 6月8日 堀場チャレンジBMC課題研究発表会（12グループ56人発表）
- 7月28日～8月2日 フィリピンフィールドトリップ（選抜生徒20人、教員2人派遣）

[7月] [茶の湯を通して見る日本の心]

- 7月22日～23日 本校 SGH 事業運営指導委員筒井優子氏 茶の湯・茶懐石実習

[8月～3月] [Overseas Writing Project]

SGH 対象生徒は高2の8月末から7ヶ月間、または10ヶ月間の海外留学を行うが、その間に、SGHの課題研究をベースに一人ひとりが英語の卒業論文を制作する。それをヘルプするGoogle Classroom 上のオンライン講座を実施。

- ③ コア学Ⅲ（毎週水曜日2時間）カリキュラム監修：本校 SGH 事業特別顧問宮口貴彰京都外国語大学准教授、授業担当：本校教員7名、SGH 対象生徒65名

コア学Ⅲにおいては、東京大学と立命館大学が共同で開発した Global Simulation Gaming（以下「GSG」）を実施。4月から授業は全て英語で行い、KOA Global Skills の総合的実践的習得を目指した。また、Food Security の問題そのものに対する生徒の理解を助けるため65名の生徒に対して7名の本校教員を配当し、アクター単位でのきめ細かな指導ができる態勢を整えた。

1月27日～29日のGSG本番（本校での呼称は Super Global Congress）には、昨年同様フィリピンの姉妹校 POVEDA の生徒15名の来校を得て会議をすべて英語で実施。Congress 最終日の「小規模農業サミット」では共同宣言採択をすることができた。

【指導体制の確立】

SGH 指定後の2年間は、コンピテンシー開発の指導はほぼ全面的に本校 SGH 事業特別顧問の宮口貴彰先生、西本昌二先生にお願いしていたが、本校教員に対する指導法の研修を実施す

る中で、昨年度と今年度においては外部講師の指導は、新しいテーマの導入としての講演にほぼ限定して実施することができた。中でもコア学Ⅲは、元立命館大学准教授、現京都外国語大学准教授宮口貴彰先生そして立命館大学国際関係学部副学部長の安高啓朗先生の指導を仰ぎ研究開発に取り組んだ結果、平成28年度は4%の時間数しかなかった自校教員による指導時間を69%にまで高めることができた。次年度以降も新たなテーマの導入は外部講師に委託するが、分析技法やビジネスプランの作成法等の指導は本校教員が行っていく。

表1 自校教員による指導時間の推移

コア学Ⅰ		コア学Ⅱ		コア学Ⅲ	
H28年度	R1年度	H28年度	R1年度	H28年度	R1年度
34%	68%	54%	68%	4%	67%

【海外フィールドトリップ（SGH対象）】

- ① ベトナムフィールドトリップ：5月6日～5月13日、国立フエ農林大学へSGH対象生徒10名、教員2名を派遣。
 - (ア) アジア開発銀行ベトナム事務所副所長齋藤法雄氏講演「ベトナムにおけるアジア開発銀行の役割」
 - (イ) エースコック社 ハノイ Hung Yen 工場見学。工場長真島文宏氏から海外における起業について講演をいただき、生徒が用意してきたビジネスモデルをプレゼンした。
 - (ウ) フエ農林大学教員と学生の指導の下、ベトナム中部における農林水産業に対する持続可能な支援のあり方についての課題研究実施、成果発表。
- ② フィリピンフィールドトリップ：7月28日～8月2日、POVEDAへSGH対象生徒20名、教員2名を派遣。
 - (ア) POVEDAのGrade10～Grade12の有志とともにマニラ市立女子孤児院と同市立老人救護施設を訪問し「食の交流会」を持った。
 - (イ) スモーキーマウンテンのコミュニティ自治会の中心メンバーとの懇談会を持ち、いわゆる「スラム街」に生活する人々の実態についての洞察を得、あるべき国際開発協力モデルを考える契機とすることができた。
 - (ウ) アジア開発銀行本部でセミナー受講、同銀行のアジアでの役割について学んだ。特に同銀行に勤務する本校卒業生八田氏との昼食懇談会は国際開発協力モデル開発、国際ビジネスモデル開発に求められる多角的視点の重要性の理解に大いにプラスとなった。
- ③ Global College Network Student Ambassadors Conference: 12月1日～12月10日、イギリスのサセックス州のGCNメンバー校 Chichester College で開催された Global College Network Student Ambassadors Conference（6カ国10校参加）へSGH対象生徒2名、教員1名を派遣した。
- ④ 2月17日～22日 フィンランドの姉妹校 Sedu での食文化交流を目的とするフィールドワークにSGH対象生徒15名と教員2名を派遣した。

【国内フィールドトリップ（SGH対象）】

(株) 堀場製作所びわ湖工場訪問：3月下旬にビジネスにおける情報収集のあり方に関する研修の一環として(株)堀場製作所びわ湖工場へSGH対象生徒40名と教員3名を派遣する

予定であったが、新型コロナウイルス対策のため次年度の開催を目指し、延期とした。

【英語資格試験によるコミュニケーション能力の評価に関する研究】

- ① SGH 指定校とされて以来一貫して SGH 対象コース国際コースの英語科目の指導内容を大幅に見直し、改定を繰り返し、IELTS によって評価される生徒の英語コミュニケーション能力向上に努めてきた。その結果次セクションで示す成果を上げた。
- ② 昨年度特進 ADVANCED コースの英語会話の授業に導入した、IELTS のスピーキングテストに擬した、試験官の誘導で、自然な流れの会話の中でコミュニケーション力を測定する定期試験の形に即応した指導法の開発を継続した。
- ③ 同時に国際コース以外のコースでの CEFR B1 以上到達者数を増加させるべく英語科各教科の指導法の改善を進め、次セクションで述べるような成果を上げた。

【Overseas Writing】

1 年～2 年で実施した課題研究の中から各自が見つけたテーマについて、2 年次 9 月からの 7 ヶ月間、あるいは 10 ヶ月間の海外留学中にそれぞれが独自にリサーチを行い、それを留学中の 2 年次の 9 月～3 月の期間に 3 つの「エッセイ」としてまとめる Overseas Writing のカリキュラム（評価法、フィードバック法を含む）をさらに深化させ、その成果物を「卒業論文集」として発表した。

【評価法フレームワーク開発】

- ① KOA 学における研究発表評価用のルーブリックを整備した。
- ② KOA 学において、課題研究発表の中間発表後に、指導教員による課題研究グループ個々に対するフィードバックと、グループ構成メンバー一人ひとりの KG スキル到達度の評価を目的とするグループインタビューを継続実施した。
- ③ SGH 対象コースの国際コースの英語科の各科目のルーブリック整備を継続した。

【生徒の課題研究成果の普及のための取り組み】

- ① 7 月 10 日 南丹市立園部中学校への出前授業としてベトナムフィールドトリップに参加した生徒 2 名とオランダのライデン大学に留学する生徒（過年度にフィリピンフィールドトリップ参加）が「海外で学んだこと」をテーマに、同中学 1 年生 125 人に対する国際理解教育講座を担当した。
- ② 7 月 13 日 中村学園女子高等学校「『食』のサミット 2019」に生徒 4 人参加。
- ③ 8 月 10 日 第 1 回保護者生徒対象 SGH 事業生徒研究成果発表会（生徒保護者多数参加）
あ）SGH 対象コース 1 年生代表 2 グループ 8 人が SDGs に関する課題研究成果を発表
い）ベトナム及びフィリピンへのフィールドトリップ参加生徒合計 30 人がフィールドトリップの成果発表を行った。
- ④ 8 月 20 日 教員研修会でベトナムフィリピンへのフィールドトリップ 参加生徒 29 人が SGH 海外フィールドトリップ成果発表を行った。
- ⑤ 11 月 9 日 清風南海高校発表会でポスター発表（代表 3 グループ 12 人）
- ⑥ 11 月 15 日 関西学院大学総合政策学部主催「リサーチフェア」にて 4 グループ 16 人発表。
- ⑦ 12 月 22 日 2019 年度全国高校生フォーラムで高校 3 年生 4 人がポスター発表

- ⑧ 1月29日 第2回 SGH 生徒課題研究発表会（ポスター発表10グループ42人、口頭発表6グループ22人）
- ⑨ 1月27日～29日 Super Global Congress を開催し公開した。（対象コース3年生63人（大学受験のため2人公欠）、POVEDA の模擬国連部生徒15人参加）
- ⑩ 2月8日 イギリス Chichester College で、SGH 対象コースの高校2年生の2人が、独自に、「Sending a cow」（小規模農業支援活動を展開するボランティア団体）や「Feeding Futures」（飢餓救済活動を行う慈善団体）の活動家たちに呼びかけ、自分たちが1年次に行った長期課題研究の成果発表を行った。
- ⑪ 2月11日 大阪大学他主催「SGH 第7回高校生国際問題を考える日」に1年生2グループ8人が参加
- ⑫ 3月12日 全国 SGH 甲子園の口頭発表に高校1年生1グループ4人、ポスター発表に高校1年生1グループ4人が選抜され出場予定であったが中止となった。

7 目標の進捗状況、成果、評価

【検証及び評価の方法】

本校が開発した SGH ルーブリックを活用することで課題研究活動の成果を検証した。このルーブリックにおいては、ステージ毎に特にフォーカスされる KOA Global Skills は変化していくが、毎回共通してあるのは、1)情報アクセス力と分析力、2) 批判的思考力・問題解決能力、3) 口頭及び文書によるコミュニケーション力の3つである。そして評価は基本4段階で行った。これらのルーブリックは各回の課題研究開始時に生徒に提示し、身につけて欲しい能力や資質について説明した。また、発表当日には Google Form 上にルーブリックを提示し、生徒の相互評価を行わせ、その結果を集計し、発表グループ、また発表生徒個々へのフィードバック時の資料とした。

さらに、生徒教職員に対して SGH アンケート（一部「サーベイ」と呼んでいる）を実施した。

【研究開発の成果とその評価】

研究開発報告書（オンライン上に掲示）に示す「KOA Global Studies 3年間の流れ」に沿った3年間のシラバスを整備し、それに基づいて指導を行った結果、2017年度入学生の「卒業時点でのサーベイ」では、「KOA 学で、自分に批判的思考力が身についたと思いますか？」という質問に対して37%が「5＝すごく思う」と、そして38%が「4＝思う」と、つまり、65名中49名が KOA 学3年間の取り組みによって自らの批判的思考力が向上したと回答している。また、両者合わせて75%という数値は、彼らの「1年目終了時点でのサーベイ」の64%から11ポイント向上している。このことから、高校2年次の「堀場チャレンジ」そして高校3年次の Global Simulation Gaming（本校での呼称は Super Global Congress）での経験が、生徒たちの批判的思考力育成に寄与していると言えると考えている。また、「卒業時点でのサーベイ」で、「SGH の取り組みは面白かったですか？」という問いに対し「5＝すごく思う」、「4＝思う」と回答した生徒の割合で見ると、以下の表の通り年度を追うごとに高くなっており、本校のプログラムが着実に成果をあげていることを示している。

表2 卒業時点のサーベイ結果の比較

	入学年	2015年		2016年		2017年		2018年	2019年
	時期	1年目	卒業時	1年目	卒業時	1年目	卒業時	1年目	1年目
	回答数	59人	52人	70人	69人	67	65人	51人	38人
1. SGHの取組は面白かったですか？		46%	60%	73%	77%	54%	80%	88%	92%

【SGH中間評価に対する対応状況】

SGH中間評価では、「指導の多くを外部講師に頼っているため、自校教員による指導も増やすなどの改善が必要である」、加えて、「海外研修が課題研究の中に位置付けられていないため、効果的なフィールドトリップとなるよう再考する必要がある」との指摘を受けた。この指摘を受け、校内のSGH委員会で審議し、次の改善策を立案し実行した。

- ① SGH委員会によるKOA Global Skills 指導研修を実施し、自校教員による指導体制を整備し、上記の通りの改善を果たした。
- ② フィールドトリップ受け入れ機関であるベトナムのフエ農林大学のアン学長やフィリピンのセイントペドロポバダカレッジのマナラック先生などと協議を重ね、フィールドトリップに行くまでの、国際開発協力モデルの開発及びビジネスモデル開発に関する長期課題研究の成果検証が可能な現地プログラムを策定・実行した。

8 「5年間の研究開発を終えて」

(1) 教育課程の研究開発の状況について

- ① 教材のオンライン化：上述の通り、KOA 学 I~III の教材およびルーブリックを Google Classroom、Dropbox に蓄積し、担当者が共有できる体制を整えた。
- ② 海外の高校・大学、特にベトナムのフエ農林大学、フィリピンの POVEDA、アメリカのカリフォルニア州立大学スタニスラス校、そしてグローバルカレッジネットワーク（以下 GCN）加盟の各教育機関他との提携を深め、相互に恩恵のあるプログラムを開発し、実践している。
- ③ 特にフエ農林大学、POVEDA、GCN 加盟校との間では、本校生徒の探究活動を直接的にサポートすることができる提携関係を結び、本校生徒の課題研究の成果検証、成果発表の場を確保している。

(2) 高大接続の状況について

この5年間の取り組みの中で、海外においては、ベトナムのフエ農林大学とはMOUを交わし、ベトナムにおける持続可能な農業支援に関する課題研究活動の直接的支援をいただいている。また、国内にあっては、京都大学アフリカ地域研究資料センターの重田眞義先生をはじめ、同センター研究員の方々にはアフリカ研究の、立命館大学国際関係学部安高啓朗先生、京都外国語大学の宮口貴彰先生にはGlobal Simulation Gamingの研究に対し直接支援をいただいている。さらに京都先端科学大学とは特進 ADVANCED コースの Science Global Studies の探究学習全般に対し直接支援をいただいております、2020年度からは、APプログラムの導入をも見越した提携関係に入ることに向けての準備を開始する。

(3) 生徒の変化について

① 入学生の変容

この5年間で振り返ると、入学してくる生徒の本校国際コースに対する期待値に顕著な変化が認められる。表3は入学前のサーベイで、「京都学園高校では KOA 学をやっているということが、あなたが本校国際コースへの進学を決める上で大きなファクターとしてありましたか?」という質問に対して、「5=すごく思う」と「4=思う」と答えた者を合計した値である。これを見れば明らかのように、本校国際コースに入学してくる生徒の KOA 学に対する期待値は、アソシエイト校の実績を見てきた2015年度入学生では、入学した生徒の13%しかいなかったのに対して、指定校1期生の2015年度入学生の KOA 学の実績を見てきた2016年度生では54%にまで飛躍し、以後着実に増加し、2019年度入学生にあっては82%が KOA 学に対して高い期待を抱いて入学してきたことになる。これ自体が、本校の KOA 学に対する中学教員、中学生の間での認知度の高まりを反映している。そして、本校国際コースに入学してくる生徒たちの意識の変化、資質の変化を示している。

そして、表2に示した「1年目終了時点でのサーベイ」の結果を2019年度入学生についてさらに詳しくみると、「SGHの取組は面白いと思いますか?」という質問に対し、50%が「5=すごく思う」、42%が「4=思う」と回答している。このように高い期待を持って入学してきた生徒たちを満足させているという事実もまた、本校のプログラムが着実に成果をあげている証左と考える。

表4 入学前のサーベイ抜粋

入学前のサーベイ						
	入学年度	2015 ^注	2016	2017	2018	2019
24. 京都学園高校では KOA 学をやっているということが、あなたが本校国際コースへの進学を決める上で大きなファクターとしてありましたか?		13%	54%	59%	65%	82%

注) 2014年度も SGH アソシエイト校として KOA 学を行っていた。

② 海外大学への進学実績

京都という土地柄か、生徒保護者の間には進学先の選択において地元関西の有名校を志望する傾向が極めて強く、海外大学へ進学する生徒の数は例年3~4名でしかなかった。しかし SGH 指定2期生である2016年度入学生からその傾向が大きく変化した。2016年度生は、72名中12名(17%)が海外大学へと進学し、3期生である2017年度入学生は65名中9名(14%)が Yale-NUS College をはじめとする海外大学へと進学するにいたった。SGU への進学実績と並んで、これも本校の SGH 事業の成果の一つと考える。

(4) 教員の変容について

SGH 指定2年目の2016年以来、毎年夏期休暇中に「リトリート大会」として教員による研究発表会を開催し、11月には公開研究授業大会を開催し、アクティブラーニング、「主

体的・対話的で深い学び」の学内、学外への普及を試みてきた。その結果、表5に示すように2018年度においては専任教員の91%が、「あなたは今年度アクティブラーニングに取り組みましたか？」という質問に対して、「取り組んだ」と回答していた。

表5 「今年度中にアクティブラーニングに取り組みましたか？」

	2016年度	2017年度	2018年度
取り組んだ	88%	84%	91%

今年度は、質問を少し変え、「あなたは日頃からアクティブラーニングに取り組んでいますか？」と尋ねたところ、専任教員の71%が「① いる」と回答した。さらに、「公開研究授業大会に参加したことで、あなたは『主体的・対話的で深い学び』を心がけるようになりましたか？」という問いに対して、専任教員は、「以前から心がけているので特に変化はなかった」が34%、「どちらかといえばなった」が35%、そして「なった」が31%、合計100%が肯定的な回答をしている。

このように、2016年度から実施している夏期休暇中の教員研修会（学内呼称「リトリート大会」）及び「公開研究授業大会」をはじめとする様々な教員への働きかけが着実に本校教員の意識変革を引き起こしていることがわかる。

(5) SGH 対象国際コース生の英語運用能力

- ① 今年度も、卒業生全員がCEFR B1以上を達成した。
- ② 高校1年終了時に受検するIELTS（任意受験）の成績は表6の通り明確な向上を示している。

表6 高校1年終了時での取得IELTS Band（%値は対受験者数）

CEFR	A2 (対受験者数)	B1 (対受験者数)	B2以上 (対受験者数)	受験者数 (対在籍者%)
2019年度入学生		4人(31%)	9人(69%)	13人(33%)
2018年度入学生		12人(52%)	11人(48%)	23人(41%)
2017年度入学生		20人(80%)	5人(20%)	25人(38%)
2016年度入学生		31人(86%)	5人(14%)	36人(48%)
2015年度入学生		25人(96%)	1人(4%)	26人(45%)
2014年度入学生	4人(8%)	48人(91%)	1人(2%)	53人(75%)

- ③ 高校2年の4月末時点での取得IELTSで見ても同様な傾向が見られる。

表7 高校2年4月末時点での取得IELTS Band

CEFR	A2	B1	B2以上	総受験者数
2018年度入学生		39人(70%)	17人(30%)	56人(100%)
2017年度入学生	1人(2%)	47人(71%)	18人(27%)	66人(100%)
2016年度入学生		58人(77%)	17人(23%)	75人(100%)
2015年度入学生	1人(2%)	56人(97%)	1人(2%)	58人(100%)
2014年度入学生	1人(1%)	66人(93%)	4人(6%)	71人(100%)

- ④ 高校卒業時点までに取得した IELTS のバンドスコアも同様に、年毎に高いバンドに到達する生徒が増えている。(生徒は受験に必要なバンドを取得するとそれ以上のチャレンジをしない場合が多いので、必ずしもこれが卒業までに到達した最高のレベルを示しているわけではない。)

表 8 卒業時点までに取得した IELTS Band Score (人数)

CEFR	A2		B1			B2			C1	
IELTS Band	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0
2019年(65人)			4	13	25	16	4	1	1	1
2018年(72人)			2	23	25	12	7	2	2	
2017年(56人)			9	20	14	8	4			
2016年(72人)	2	7	12	15	18	13	2	1		
2015年(54人)		7	10	17	9	8	3	1		

表 9 卒業時点までに取得した IELTS Band Score (対在籍者数%)

CEFR	A2		B1			B2			C1	
IELTS Band	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0
2019年(65人)			6%	20%	38%	25%	6%	2%	2%	2%
2018年(72人)			3%	32%	35%	17%	10%	3%	3%	
2017年(56人)			19%	35%	25%	14%	7%			
2016年(72人)	3%	10%	17%	21%	25%	18%	3%	1%		
2015年(54人)		13%	18%	31%	16%	15%	5%	2%		

- ⑤ その他のコースの英語運用能力

SGH対象国際コース以外のコースで卒業時にB1 レベル以上を達成した生徒は16%と昨年度(12%)より微増。特進 ADVANCED コースで見ると、英検 2 級以上を取得した生徒数は 2017 年度の 18 名 (17%) に対して 2019 年度は 36 名 (40%) と昨年度に引き続き増加傾向にある。

(6) 海外提携校とのネット交流

SGH 対象の国際コースにおける海外提携校とのリアルタイムでの協働は、皮肉にも新型コロナウイルスのパンデミック化によって来年度大きく前進することとなった。本校の主唱により始まった Global College Network の Student Ambassador Conference の年次総会を今年度は Online で実施すべく準備が開始された。

ザンビアの Crested Crane Academy 及び Hope and Faith Community School との交流は現地のインターネット環境が十分整備されていないため、実施が極めて困難な状況にある。

(7) 社会貢献活動への取り組み状況

SGH 対象コースである国際コース生を他コースの生徒と比較した時いくつかの特徴があるが、その一つが、自発的で継続的なボランティア活動への参加率である。

国際コース生徒の間には、15 年以上にわたって、熱帯地域の開発途上国へ蚊帳を送る運動、エチオピアの子供に教育支援を送る運動が、クラブ活動のように、先輩から後輩へと引き継が

れてきている。また、SGH 指定校初年度から講演をお願いしている TFT International に触発され始めた「TFT 京都学園」にも多数が参加している。さらに今年度からは、9月に本校を訪問した Crested Crane Academy の生徒との交流に触発され発足した Club Zambia に参加する生徒も増えた結果である。

表 10 2019年度入学生1年次終了時の自発的ボランティア活動参加率

	1年国際	1年特A	1年特B	1年進学
ボランティア活動をしている	76%	4%	10%	9%

全校で見ると、今年度も「TFT 京都学園」の呼びかけで、「世界食糧デー・ソーシャルアクション TFT おにぎりプロジェクト」に全校生徒が参加した。また、生徒会の呼びかけに応え、19クラス705名が文化祭の模擬店の売り上げの一部を京都新聞社の善意の小箱に寄付した。そして個人的にボランティア活動をしている者235名と、昨年度の水準を維持している。

(8) 課題

① アフリカへのフィールドトリップ

治安面の不安から、結局5年間アフリカへのフィールドトリップを実現することができなかった。これからの日本を考えた時、アフリカとの心理的距離を縮める必要は自明であるが、「高校生」という枠組みの中でどのように実現するかが今後の課題だ。

② 取り組みの期間について

5年という時間の中では、例えば貧困問題に関わる国際開発協力モデル開発に向けて設定したターゲットコミュニティが、アジアの急速な経済成長の中で大きく変貌を遂げ、当初の研修内容がターゲットコミュニティの実態にそぐわなくなったケースがあった。

(9) 今後の持続可能性について

- ① この5年間で築き上げてきた探究学習プログラム (KOA Global Studies、Science Global Studies、光楠スピリッツスタディーズ) は、今後とも継続する。
- ② その一環としてのベトナム、フィリピンへのフィールドトリップも、それぞれの国のパートナーとの連携の下継続する。
- ③ 特にベトナムへのフィールドトリップについては、対象を高校全コースに拡大し実施する。

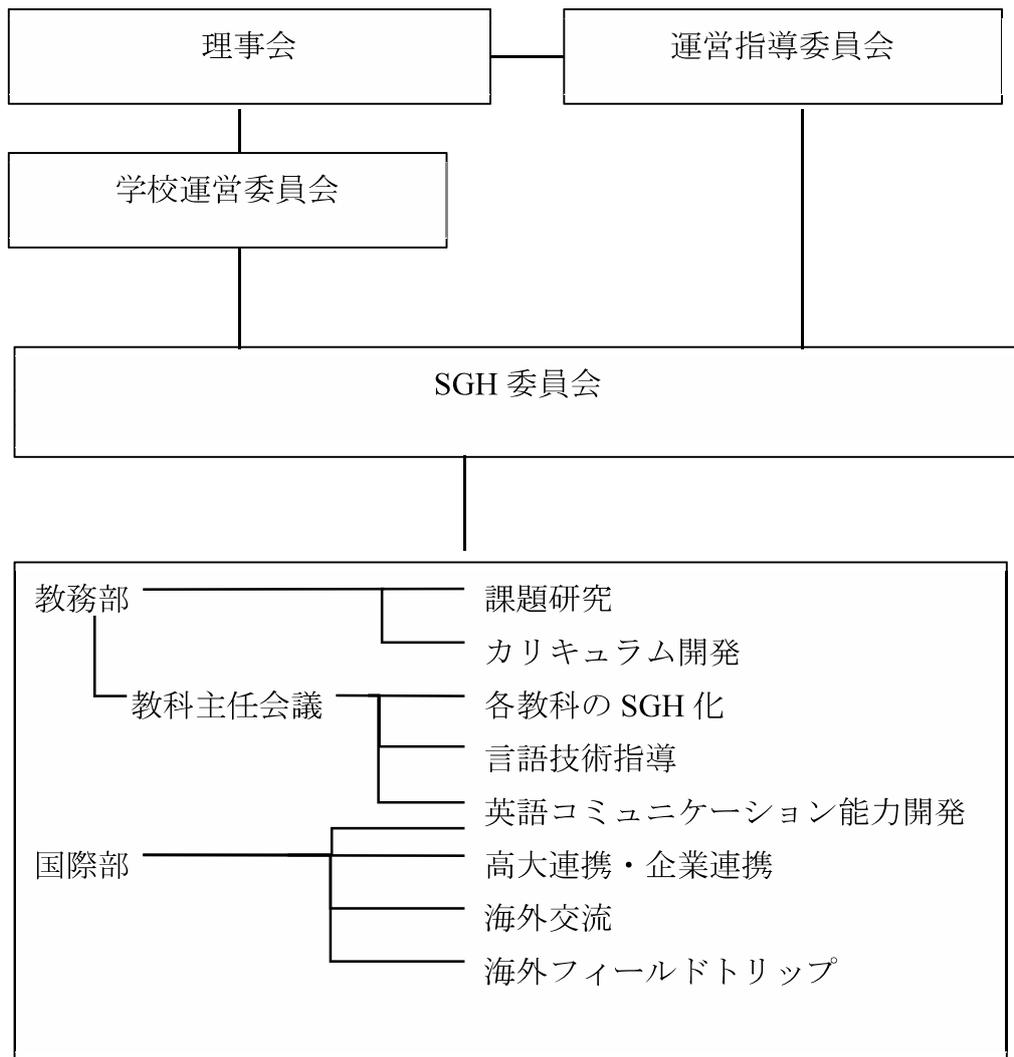
【担当者】

担当課	法人事務局企画調査室	T E L	075-461-5105
氏 名	辻 彰彦	F A X	075-461-5138
職 名	総務部長	e-mail	tsuji-a@kyotogakuen.ed.jp

2019年度

研究開発の経緯

研究開発組織の概要



◇ KOA Global Studies 3年間の流れ

(標準形であり、提携先の都合で講師、時期ともに変動することがある)

学年・時期	外部講師	テーマとねらい
1年5月	山はな平八茶屋当主 園部 晋吾氏	「日本食を通してみる日本の心」 命のつながりの大切さ、食育の重要性への気づきの醸成
1年6月	元全農京都副会長 藤田 正氏	「京野菜から見る農業ビジネス」 ローカルからグローバルへ
1年7月	Table For Two 代表理事 安東 迪子氏	「食でつなぐ日本と世界」 食の不均衡の問題への気づき、持続可能な開発支援のあり方を学ぶ
1年9月	世界食糧計画 (WFP) 上野 きより氏	「食糧問題に関する国際開発協力」 緊急人道支援の必要性への気づき・持続可能な開発支援のあり方を学ぶ
1年9月 ～12月	長期課題研究	SDGsの中で食に関連するゴールからテーマを選び課題研究を行い、関学リサーチフェア等の外部発表会にチャレンジ
1年1月 ～3月	(株)堀場製作所 堀井 愛士氏	「堀場プロジェクト」 (Phase 1) ベトナムを舞台にビジネスモデルキャンバスを利用してビジネスモデルを策定する
2年4月 ～6月	(株)堀場製作所 堀井 愛士氏	「堀場プロジェクト」 (Phase 2) フィリピンを舞台にビジネスモデルキャンバスを利用してビジネスモデルを策定する
2年5月 8月	ベトナムフィールドトリップ フィリピンフィールドトリップ	「仮説の検証」 アジア地域への実地調査
2年9月 ～3年6月	海外留学	卒業論文着手
3年7月 1月	Global Simulation Gaming	「食」をテーマに Global Simulation Gaming 国際関係への問題意識を高め外交政策の本質を学ぶ
3年1月	Super Global Congress	「食の安全保障」 フィリピンの高校生を交えての国際会議で3年間で培った KOA Global Skills の集大成を行う

◇ KOA Global Studies開発の経緯（5年目）

「KOA Global Studies I」授業実施報告書（高校1年生）（敬称略）

担当者:学内教員6名 アドバイザー: 宮口貴彰(京都外国語大学准教授、元国連開発計画職員)

日付	曜日	担当者	課題研究内容
春休課題			「21.3 世紀、自分が世界でナンバーワン、オンリーワンの存在になっているとしたら、どんな自分であるか」
4月11日	木	宮口貴彰	KOA 学とは何か 春休み課題のフィードバック
4月13日	土	学内担当者	黒宮先生ガイダンス アイスブレイク
4月18日	木	宮口貴彰	①学内担当者紹介、講師の先生の自己紹介・経歴紹介 ②春期課題のフィードバックを通して、KOA Globals Skills 7 (想像力)の訓練
4月20日	土	学内担当者	「ガイア地球交響曲」ビデオ視聴、生徒同士のディスカッション、まとめの講義、振り返り
4月25日	木	宮口貴彰 学内担当者	「日本における総人口に占める15歳未満人口の割合が減少した問題の原因を突き止める」をテーマとする課題研究の導入。ブレーンストーミングのやり方。課題研究に向け、Logical thinking, 批判的思考、問題解決について、問題に対する現状の理解と原因の特定のためのMECE分解、原因の特定のための仮説の立て方とその根拠となるデータの収集についての講義。
5月9日	木	宮口貴彰	インターネットから有効な情報を入手する方法。 具体的にグーグル検索の方法など、データの信頼性を確認することの重要性、2次資料では自分の意見とはならない
5月11日	土	学内担当者 宮口貴彰	「日本における総人口に占める15歳未満人口の割合が減少した問題の原因を突き止める」という課題研究の成果発表。
5月16日	木	園部晋吾	課題「和食の未来」についての講義及びワークショップ 「和食を通して日本人のアイデンティティを養う」
5月25日	土	学内担当者	「和食の未来」課題研究 新しく編成した10チームで取り組む
5月30日	木	宮口貴彰	問題解決エクササイズ MECE、Problem Tree 他
6月1日	土	藤田 正	京野菜の生産拡大とブランド化京都から首都圏、そして世界へ広げるための戦略について伺う。京都の食文化「京野菜」が世界ブランドとなる経緯を学び、ローカルがグローバルに繋がっていくダイナミズムを理解する。 課題研究②:「京野菜を広める戦略とは？」3つの観点(1. 社会的な戦略、2. 日常性を持った戦略、3. 自分でできる戦略)から、具体的な戦略を考える。
6月8日	土	園部晋吾	「和食の未来」についての課題研究発表会
6月20日	木	宮口貴彰	「クローズアップ現代」をみて環境問題、格差問題などについて考察する。その後、グループディスカッション。 TED 型プレゼンテーションの学び
6月27日	木	宮口貴彰	SDGs(持続可能な開発目標)の紹介と「そもそもなぜ我々人類はこのSDGs(1~6)を実現しなくてはいけないのか？」をテーマにグループディスカッションと発表を行う。
7月6日	土	安東迪子	NPO 法人 Table for Two の取り組みを通して、発展途上国の食料問題に関する国際協力の在り方を考える。 ビジネスの視点から5P(1.Purpose, 2.Partnering, 3.People, 4.Promotion, 5.Profit)を用いて説明いただく。さらに、支援先の現状について(フィリピン、アフリカ)お話ししていただいた後、生徒達は「自立を促す支援方法とは?」「先進国でさらにTFTを拡大するためのビジネス展開とは?」という課題において、ディスカッション・発表を行う。

日付	曜日	担当者	課題研究内容
7月13日 ～ 15日	土～ 月	学内担当者	イマージョン合宿(英語漬けリーダーシップ合宿) 「そもそもなぜ我々人類はこのSDGs(1～6)を実現しなくてはならないのか？」をテーマに課題研究を進め、8月10日に行われる国際フェスティバルで発表する。書き・考えるときに使うピラミッド構造、研究の目的などの、夏季課題研究に際しての重要なポイントについての講義。
夏季休暇 課題			課題図書「人間の安全保障」を熟読し、①「人間の安全保障」で語られている「貧困」とは何か。②世界においてそのような「貧困」をなくさなければならないと貴方は感じるか。それはなぜか。O.R.E(Opinion:意見、Reason:理由、Evidence:証拠)に注意しながら論じる。 この2つの質問について、課題図書、さらには他の書籍や文献、または自分の考え・経験などをできる限り参照し、論ぜよ。字数においては、各質問につき800字以上(上限はありません)。
7月17日 ～26日		学内担当者 宮口貴彰	課題研究 国際フェスティバル代表発表者選考
8月10日	土	学内担当者	生徒保護者対象 SGH 課題研究成果発表会(国際フェスティバル)
8月20日	火		第1回 SGH 成果発表会
8月24日	土	学内担当者	夏季課題内容についてフィードバック、①「人間の安全保障」で語られている「貧困」とは何か。②世界においてそのような「貧困」をなくさなければならないと貴方は感じるか。についてグループで議論し、まとめたものを発表する。
8月31日	土	吉山 昌	「人権とは」をテーマに、難民支援協会事務局長の吉山氏から同協会の活動、今の世界や日本の現状をお聞きした上で、日本の難民問題について共に考える。生徒本人が人権問題について「自分事」として肌で感じられるようになる。
9月5日	木	学内担当者	長期課題研究導入・グループ編制 ①SDGsの中からテーマとするゴールを一つ選ぶ。②食料・農業分野がいかにそのSDGに対して大きな(悪)影響を及ぼしているか。③食料・農業分野(種の製造から消費者が作物を消費して廃棄するところまでのFood Value Chain)の中でも特に1番その(悪)影響が大きいと思われる特定のインシユ(原因)は何か、それはなぜか。
9月7日	土	学内担当者	長期課題研究 リサーチプロポーザルの提出とそのフィードバック (関学リサーチフェア代表チーム選考会を兼ねる)
9月19日	木	学内担当者	長期課題研究
9月26日	木	宮口貴彰	「リサーチの進め方」 これまでに学内担当者が指導してきたリサーチの進め方について宮口先生による再整理 1) 現状の理解、2) 原因の特定(MECE 分析、問題の樹、暫定仮説、データ(比較)分析、仮説の設定)、3) 打ち手の決定(選択肢の洗い出し、最適な打ち手の選択、実行プランの作成)、4) 実行
10月3日	木	学内担当者	長期課題研究
10月5日	水	学内担当者	長期課題研究
10月10日	木	学内担当者	長期課題研究
10月19日	土	学内担当者	長期課題研究
10月24日	木	学内担当者 宮口貴彰	長期課題研究
10月26日	土	学内担当者	長期課題研究中間発表会
10月31日	木	学内担当者	中間発表会のフィードバック、それを踏まえての今後の課題研究の進め方に関するグループ内ディスカッション
11月7日	木	学内担当者	長期課題研究
11月9日	土	学内担当者	長期課題研究
11月14日	木	学内担当者	長期課題研究
11月19日	火		公開研究授業大会

日付	曜日	担当者	課題研究内容
11月15日	金		関西学院大学リサーチフェア
11月21日	木	学内担当者	関西学院大学リサーチフェアリフレクション①まだまだ足りなかった点②結構やれると感じた点③今後どう努力していくかについてグループで共有し、ポスターを作製。
11月28日	木	学内担当者 宮口貴彰	長期課題研究
12月12日	木	学内担当者	長期課題研究（ポスター提出期限）
12月16日 ～ 12月20日		学内担当者	長期課題研究
1月8日	水	宮口貴彰 学内担当者	長期課題研究発表会（SGH 研究発表会口頭発表グループ選考）
1月9日	木	宮口貴彰 学内担当者	長期課題研究発表会（SGH 研究発表会口頭発表グループ選考）
1月11日	土	石崎 優	「マッキンゼー式問題解決法及びグローバルに生きるということ」
1月16日	木	学内担当者	長期課題研究
1月23日	木	学内担当者	長期課題研究
1月25日	土	学内担当者	プレゼンテーション実習
1月29日	水		SGH 研究発表会
1月30日	木	堀井愛士 学内担当者	(株)堀場製作所総務部長堀井愛士氏によるアジアを舞台とするビジネスモデル構築に向けて、「ビジネスモデルキャンパス」講義
2月1日	土	上野きより 学内担当者	WFP 日本事務所広報官上野きより氏による講演:SDG2(End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture)を軸に
2月6日	木	学内担当者	アジアを舞台とするビジネスモデル策定
2月15日	土	学内担当者	アジアを舞台とするビジネスモデル策定
2月20日	木	学内担当者	アジアを舞台とするビジネスモデル策定
2月22日	土	学内担当者	アジアを舞台とするビジネスモデル中間発表とフィードバック
2月27日	木	学内担当者	アジアを舞台とするビジネスモデル策定
3月7日	土	学内担当者	アジアを舞台とするビジネスモデル発表会（書面発表会）
3月18日	火	堀井愛士 学内担当者	(株)堀場製作所びわ湖工場見学会を予定していたがコロナウイルスのため4月以降に延期

「KOA Global Studies II」授業実施報告書(高校 2 年生) (敬称略)

担当者:学内教員 5 名 アドバイザー:堀井愛士((株)堀場製作所総務部長)

宮口貴彰(京都外国語大学准教授、元国連開発計画職員)

日付	曜日	担当者	課題研究内容
4月11日	木	学内担当者	堀場チャレンジ②導入(フィリピンの PEST 分析)
4月13日	土	堀井愛士 学内担当者	堀場チャレンジ②(フィリピンが抱える食に関する課題を抽出し、その課題解決の方法をビジネスモデルとして提案する:PEST 分析により課題を抽出し、ビジネスモデルキャンパスによりビジネスモデルを提案する)
4月18日	木	学内担当者	堀場チャレンジ②
4月20日	土	学内担当者	堀場チャレンジ②
4月25日	木	学内担当者	堀場チャレンジ② 中間報告提出
5月6日 ～ 5月13日	木	学内担当者 フエ農林大学	ベトナムフィールドトリップ
5月9日	木	学内担当者	堀場チャレンジ② 中間報告フィードバック
5月11日	土	学内担当者	堀場チャレンジ②
5月16日	木	学内担当者	堀場チャレンジ②
5月18日	土	学内担当者	堀場チャレンジ②
5月24日	金	Lynne Manalac	St. Pedro Poveda College 教員の Manalac 氏によるワークショップ 食からとらえるフィリピンの格差問題 (Talaban 導入)
5月25日	土	Lynne Manalac	食からとらえるフィリピンの格差問題 貧困地域のコミュニティ研究
5月30日	木	学内担当者	堀場チャレンジ②
6月1日	土	堀井愛士 学内担当者	ビジネスモデルキャンパスの中間発表とフィードバック
6月6日	木	学内担当者	堀場チャレンジ②
6月8日	土	堀井愛士 学内担当者	堀場チャレンジ②最終発表会
6月20日	木	学内担当者	卒業論文作成指導
6月27日	水	学内担当者	卒業論文作成指導
7月6日	土	学内担当者	卒業論文作成指導
7月11日	木	学内担当者	卒業論文作成指導
7月22日	月	筒井優子 (表千家講師)	茶道を通して見る日本の心①
7月23日	火	筒井優子 (表千家講師)	茶道を通して見る日本の心② 海外で必ず調達できる食材を使用した懐石メニュー、和菓子作成
7月28日 ～ 8月3日	日～ 土	学内担当者 St. Pedro Poveda College	フィリピンフィールドトリップ
8月10日	土		第1回生徒保護者対象 SGH 研究発表会ベトナム・フィリピンフィールドトリップ報告会
8月22日	火		第1回 SGH 成果発表会
9月～			長期海外留学

KOA Global Studies (GSG) 実施報告書(高校第3年) (敬称略)

担当者: 宮口貴彰(元国連開発計画UNDP 職員・京都外国語大学准教授) 学内教員 6名

日付	曜日	担当者	課題研究内容
4月10日	水	学内担当者	“Roles of Actors for Solving Global Environmental Problems” Global Simulation Gaming(GSG)の説明と、3つの Actor(Nation / UN / NGO)の役割について考える
4月17日	水	学内担当者	Research on the Actors
4月24日	水	学内担当者	Research on the Actors
5月8日	水	学内担当者	Research on the Actors
5月29日	水	学内担当者	Interim Reports on Research on the Actors
6月5日	水	学内担当者	Bilateral Negotiations
6月12日	水	学内担当者	Bi- and Multi-lateral Negotiations
6月19日	水	学内担当者	Simulation 1
6月26日	水	学内担当者	Simulation 2
7月10日	水	学内担当者	Mock Summit
8月28日	水	宮口貴彰 学内担当者	Guidance: “What is GSG?” テーマの提示 (Investing in smallholder agriculture for food security) アクターの決定 グローバルシミュレーションゲーミングガイドライン提示
9月4日	水	宮口貴彰 学内担当者	Small Scale Agricultural Producers とは
9月11日	水	宮口貴彰 学内担当者	Actor 毎に自国での Small Scale Agriculture に関するリサーチ
9月18日	水	宮口貴彰 学内担当者	各 Actor がリサーチした情報の共有
10月2日	水	学内担当者	Full GSG に向けて各 Actor 内での役割を決める
10月7日	月		行動計画書提出〆切
10月9日	水	宮口貴彰 学内担当者	“Role and Expectations of Actors”の提示 Research on the Actors (Actor Group 毎に指導教員の下で)
10月23日	水	学内担当者	Brief on Actor Presentations The Role of Actors during International Negotiations/Conferences Assignment on GSG strategies
10月30日	水	宮口貴彰 学内担当者	Actor Presentation 準備
11月6日	水	学内担当者 宮口隆章	Actor Presentation 準備
11月13日	水	宮口貴彰	Actor Presentation
11月20日	水	学内担当者	Actor Presentation の Feed Back
11月27日	水	宮口貴彰 学内担当者	Actor Presentation を踏まえて bilateral negotiation GSG 各アクター予算決定・配布
12月11日	水	学内担当者	Draft Resolution 作成に向けて各アクターの Minutes 作成
1月8日	水	学内担当者	Parliamentary Procedure
1月15日	水		Mini GSG
1月22日	水		Mini GSG
1月27日	月		ポベダ生徒と顔合わせ、その後 Mini GSG
1月28日	火		Full GSG 1 日目
1月29日	水		Full GSG 2 日目 (Super Global Congress)

SGH サーベイ

この春 SGH 事業対象コースの国際コースを卒業した生徒たちは SGH 指定校としては 3 期生であった。この 3 期生の「卒業時のサーベイ」(次ページ参照)の結果を「入学前のサーベイ」、「1 年目終了時のサーベイ」と比べてみると、KOA Global Skills についての自己評価がいずれも「V 字型」に推移している。例えば、6 番の「自分に英語力があると思いますか?」という質問に対しては、入学前は 34% が「ある」と答えていたのに、本校国際コースで 1 年間の学びを終えた時点ではわずか 9% だけしか自分の英語力を肯定的にとらえることができていない。そこから 2 年の学習を経て卒業時には 23% が自分の英語力を肯定的にとらえるようになっている^{注1}。これと同様の現象が、8 番、10 番、12 番、14 番、16 番、18 番で起こっている。

その理由は、1 年間の KOA 学での探究活動を通して、グローバルナビゲーターとして求められるスキルレベルの高さに気づかされ、自分の非力さを認識するが、それ以後の 2 年間の学びを通して入学前とは異なる、高次のスキルレベルを獲得したという自覚の反映であると考えられる。

「入学前のサーベイ」の結果からは、本校国際コースの KOA 学への期待が年を追うごとに高まってきていることが読み取れる。24 番の「京都学園高校では KOA 学をやっているということが、あなたが本校国際コースへの進学決める上で大きなファクターとしてありましたか?」という質問に対する答えが、1 期生では、「5 = 大いにそう思う」と「4 = 思う」と回答したものがわずかに 13% であったものが、5 期生の 2019 年度入学生にあっては 82% となっている。

その KOA 学に対する満足度を、1 番の質問「SGH の取り組みは面白かったですか?」への回答からみる。「卒業時」に「5 = 大いにそう思う」、「4 = 思う」と回答した者は、1 期生 60%、2 期生 77%、3 期生 80% と右肩上がりが増えていく。

まだ在学中の 4 期生、5 期生の満足度を「1 年目終了時」でみてみても極めて高い数字が得られている。

このことから、本校の KOA 学は一定の成果をあげていると結論づけることが可能であると考えられる。

注1) この 23% という数値は入学前の 34% には及ばない低い値ではあるが、しかし、彼らの英語力を CEFR でみてみると、C1 レベル 3 人 (5%)、B2 レベル 45 人 (69%)、B1 レベル 17 人 (26%) であり、ほぼ全員が、1 月下旬の Super Global Congress (Global Simulation Gaming の校内呼称) でも、フィリピンの姉妹校 Saint Pedro Poveda College の模擬国連クラブ員 15 名と十分に渡り合える英語力を示していた。

入学年 時期	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年	
	入学前	1年目								
1. SGHの取組は面白かったですか？		46%		73%		54%		88%		92%
2. 高校卒業後、海外に留学したり仕事で国際的に活躍したいと思っていますか？	92%	80%	95%	94%	93%	85%	98%	88%	92%	
2a. あなたは将来仕事で国際的に活躍したいと思っていますか？										98%
2b. あなたは大学や大学院で留学したいと思いますか？										76%
3. 高校卒業後、自主的に社会貢献や自己研鑽活動に取り組みたいと思っ ていますか？	50%	70%	67%	74%	72%	64%	67%	78%	77%	92%
4. 国際化に重点をおく国内の大学へ進学しようと思いませんか／思いま したか？	72%	61%	74%	63%	62%	66%	68%	75%	67%	84%
5. 英語力の重要性がわかっていると思いませんか？	86%	93%	96%	94%	90%	93%	95%	98%	97%	97%
6. 自分に英語力があると思いませんか？	13%	7%	21%	17%	34%	9%	25%	10%	13%	21%
7. あなたは、問題解決能力の重要性がわかっていると思いますか？	32%	78%	79%	93%	69%	64%	67%	76%	69%	97%
8. 自分に問題解決能力があると思いませんか？	5%	19%	18%	53%	31%	16%	23%	29%	26%	32%
9. コラボレーション力の重要性がわかっていると思いませんか？	35%	47%	55%	81%	54%	60%	60%	71%	39%	97%
10. 自分にコラボレーション力があると思いませんか？	13%	17%	29%	51%	24%	18%	32%	37%	23%	74%
11. リーダーシップの重要性がわかっていると思いませんか？	70%	86%	83%	91%	71%	81%	84%	82%	72%	95%
12. 自分にリーダーシップがあると思いませんか？	26%	19%	29%	39%	29%	24%	40%	35%	39%	50%
13. 俊敏性と適応力の重要性がわかっていると思いませんか？	42%	69%	76%	94%	63%	70%	75%	80%	74%	97%
14. 自分に俊敏性と適応力があると思いませんか？	13%	20%	28%	56%	22%	21%	28%	39%	26%	47%

	入学年 時期	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		
		入学前	1年目									
15. 起業家精神の重要性がわかっていると思いますか？		30%	61%	65%	80%	81%	41%	58%	42%	78%	33%	68%
16. 自分に起業家精神があると思いますか？		7%	17%	17%	12%	26%	21%	16%	16%	20%	8%	26%
17. コミュニケーション力の重要性がわかっていると思いますか？		80%	90%	90%	96%	93%	88%	87%	95%	94%	90%	100%
18. 自分にコミュニケーション力があると思いますか？		38%	29%	54%	49%	62%	49%	42%	46%	51%	39%	58%
19. 情報アクセス力と分析力の重要性がわかっていると思いますか？		41%	83%	94%	80%	91%	65%	75%	65%	92%	56%	97%
20. 自分に情報アクセス力と分析力があると思いますか？		44%	42%	58%	22%	57%	34%	39%	18%	41%	13%	47%
21. 好奇心と想像力の重要性がわかっていると思いますか？		63%	83%	90%	91%	91%	78%	84%	86%	86%	69%	92%
22. 自分に好奇心と想像力があると思いますか？		45%	58%	73%	71%	68%	71%	60%	54%	65%	62%	76%
23. KOA学で、自分に批判的思考力が身についたと思いますか？				75%		80%		64%		86%		87%
24. 京都学園高校ではKOA学をやっているということが、あなたが本校国際コースへの進学を決める上で大きなファクターとしてありましたか？		13%			54%		59%		65%		82%	

*パーセントの値は「5=とても思う」と「4=思う」という回答の合計。
 小数点以下第1位を四捨五入した

Framework of Assessment and Evaluation

Nordine Lafdal / Michael Wales / Ian Wilson

When Kyoto Gakuen High School attained SGH in 2015, it gave us the incentive and opportunity to reform our courses. Since this time, we have continually set out to improve and experiment with the content, materials and assessments of our classes. All of these strands have been given direction by the skills outlined in Kyoto Gakuen's KOA skills, but the assessment of skill acquisition has proven to be challenging, as it strays away from quantitative assessment procedures to more qualitative methodology.

To bring greater clarity to our assessment it is important to understand the nature of our classes. The importance of immersive content classes has been paramount for the students to truly acquire the ability to succeed with the KOA Global skills. This belief is also strengthened by exposure of the students to a broad range of topics, teaching methods (strong focuses on scaffolded student-centered learning).

In the beginning of SGH we had the daunting task of transforming all our classes from teacher-centered classes to classes which instruct and allow our students to develop the following skills: Research, English, Collaboration, Independence, Initiative, Curiosity, Agility, and Entrepreneurialism. This transition gave us a great opportunity to create a student-centered curriculum that was focused around skill acquisition and not entirely on information acquisition.

With this, we realized that for us to have the greatest success in instilling the skills in the students, we needed to scaffold our course, focusing on English language fundamentals in their first year and then using this foundation to develop the other 7 skills in their second and third years. In addition to this, since we had moved away from what we had been doing previously we had to completely recreate the ways of ascertaining the progress of the students. In light of this, there were 6 hurdles to overcome to provide a robust assessment of the students as detailed below:

1. Diversifying Platforms and Methodology

Utilizing different mediums of instruction is important. By using different forms of instruction, you can increase the attention of the students. It also extends the contact time you can have with the student but also the ability to create a portable classroom. Wherever a student has a smart phone or PC they can access information. That is why we began to include online elements and a digitization of the materials needed for our classes. All classes now have Google Classrooms that we use to provide materials and instructional videos to the students. For the teachers, we digitized all teaching materials and syllabi using Evernote to store the information. This year we have further digitized the speaking elements with the inclusion of Flip Grid as a way of assigning speaking homework to students. This has led to us needing assessments that can quickly be adapted to the given target ability.

2. Assessing Critical Thinking and the Analysis of Data

As analyzing data is a 'skill', it is important that the improvement comes about through practice. Without the proper skills and experience this is challenging for students to do. We start this in the first year but it carries on throughout their 3 years. Although students see data in different forms be it in statistics, infographics or diagrams, the method of teaching students how to interpret and delineate the information is shared. In their second and third year, students are given more abstract topics and problems which they have to. This is where it becomes more challenging to assess progress. Critical thinking is based on utilizing previous knowledge gained to delineate ideas based on this knowledge. The assessment of this has led us to developing the components of our classes in both second and third year. The essays, lectures, and SlideDocs students must complete frames their critical thinking ability in a manner we can begin to evaluate.

3. Assessing Qualitative Understanding of Quantitative Data

Closely tied to the previous point regarding critical thinking, the assessment of delineating understanding. Qualitative understanding of quantitative data is closely connected with being able to make inferences. This instruction is done through content-based instruction; quite often students lack the base knowledge and critical thinking ability to understand the consequences and make connections between data and other sources. In the beginning through content based instruction we try to build a base of information in the target component that the students can use in the class. In so doing the students, although not given the answers, can think about it critically. Throughout their time studying, the students have built a base knowledge of many different areas over the three years through what they study in our courses. Also, the content they have studied in their other classes (especially KOA Global Studies, social studies and history classes). The assessment of their progress is measured through the amount of times they actually practice analyzing information and. By the time students have finished their third year in the Kokusai Course, they have significantly practiced analyzing information in SlideDocs and essays. We check their essays and give feedback so that students can target weak points and improve their writing for the next time.

4. Qualitative Grading

Regarding the methodology taken in the assessment of the students, it is important to have qualitative understanding of quantitative data, but also transitioning towards more qualitative assessment. We needed to update the way we grade our students. This has been achieved through the use of rubrics in all our classes. The rubrics we have developed are specific to each class we teach, focusing on specific goals and assessment. These rubrics consist of written assignments, classroom participation, presentations, PowerPoint slide design, speaking tests, and student peer reviews. We encourage the students to have a strong understanding of the rubrics we use, which allows them to understand what areas they must focus on to improve a specific area where they are lacking in skills or knowledge.

5. Feedback as a Form of Deepening Understanding of Assessment

As mentioned in the previous point, feedback after they complete their work identifies what English skill they are developing, but also identifies the time constraints of both the student and the teacher. Regarding reading and writing, frequency is important but feedback is as

important. The more a student is required to produce written work the more they will improve, this is when feedback is important since if a student is unaware of the mistakes they are making, then it is difficult for them to improve their deficiencies. This is where time constraints of the teacher, due to class size or other duties, can restrict the ability of the teacher to support each student equally.

6. Frequency of Assessment

Once again as mentioned above, frequency is extremely important for the support of the students, but we needed to minimize the impact of time constraints. Flipping our classrooms helped us to do this. Flipping classrooms increased opportunities for students to maximize class time for either individual feedback with the teacher, supervised writing, or to practice speaking and listening the teacher allocates. Also, the nature of speaking tests is another way for students to receive the necessary support. Quite often speaking tests are done by memorizing a set text which they must repeat verbatim, this really doesn't measure their communicative ability. A speaking test between two students in which questions and answers are given would be a better use of time. This can also be done one-on-one between the student and the teacher. In addition to written assessments as a form of evaluation given in class, the reservation system we use for students to meet their teachers is a good way for the students that require support but is also to receive a more detailed feedback regarding each individual students progress as a form of assessment.

In summary, with the hurdles and resolutions stated above we have built a well-structured methodology for assessing the students' progress , but also provided the necessary continuity for both the teachers and the students. Each year we further develop the assessments to adapt to the changing resources and tools we use in our classes. Although it is difficult to develop, we hope to look at how we can streamline our evaluation methodology into a more concise manner in the years to come.

Communication English I

In this advanced communication course, we adhere fairly closely to our governing ethos of creating true Japanese that have the ability to act on the global stage. **Communication English I** is taught in the students' first year. This course overlaps with our advanced **Eigo Kaiwa (English Conversation)** course, thus allowing for more presentations, discussions and debates in various formats across a range of topics. There is one-on-one feedback with the teacher and collaboration between students.

We have added two new elements to the curriculum: a seminar/workshop format for both courses in Terms 3 and 4. Teachers schedule at least 1 seminar (lecture-based) class per week with all students for content instruction. The remaining classes are used for workshop instruction and discussions with smaller classes of students that one teacher can take and give targeted instruction. This also makes it easier for teachers to collaborate in the course and be able to teach more effectively even if they are unfamiliar with the material.

Research Skills	Students are given homework based around reading news articles or journals. Students are also regularly tasked with producing vocabulary notebooks. In doing so students learn how to use resources such as dictionaries and thesauruses.
English	Students are taught English academic writing using only English terminology, immersive classes (English only classroom) Classes are delivered entirely in English by native speakers. Students form strong powers of reasoning and description in the target language.
Collaboration	Collaborative discussions prior to essay writing. External examinations create a strong collaborative atmosphere
Critical Thinking	Self-directed learning Independent essays
Initiative	Work at their own pace with clear deadlines Flexible classroom and after school bookings allowing students to maximize instruction and exposure to in-class materials.
Oral/Written Communication	Academic writing focus. Group discussions
Curiosity and Imagination	Independent writing, Reasoning and supporting their arguments
Agility and Adaptability	Multiple essay questions are used to increase students' ability to adapt.

Instructional Methodologies implemented:

A combination of seminar and workshop classes mixing student-centered and teacher-centered instruction. Seminar classes are used to introduce broader topics and study points (e.g. an essay type, topic sentence structure) and workshops are then used to explore the study point in a variety of ways. The vast majority of classes are workshop based.

This is the second year in which we have used a seminar class structure and as a result various improvements have been implemented both in terms of timing (at what point in the term these seminars are held) and in how they are delivered (using AV materials, print-outs, lectured).

Workshops and how they are being used are also an iterative process and individual teacher's approaches can obviously differ somewhat. We also stream our students meaning that classes have varying needs and differences in speeds of comprehension. For the most part workshops have been used to encourage student collaboration, practice writing, facilitate thoughtful debate and encourage deeper understanding of seminar topics at a level appropriate to each individual streamed class.

Materials created:

A number of worksheets have been created and these methodically explain broader topics and study points thus connecting to the seminar approach outlined above. At the beginning of the academic year worksheets are used to explain paragraph structure, topic sentences and word families. Later in the year worksheets address topics such as essay structuring, supporting arguments and using transitions effectively. Many of these worksheets are used in class (both seminar and workshop) but others are designed for self-study and homework assignments.

Quizzes and reading comprehension questions were created and set as homework using Google Classroom. These assignments required students to read articles on contemporary topics and then answer multiple choice questions.

Evaluation methods used:

As can be seen from the appended rubrics, there are a variety of evaluation methods although the emphasis is necessarily on writing ability.

Each student's writing is assessed on criteria based on IELTS exam rubrics. This is broken down throughout the year so that students are not overwhelmed. Earlier on student work is evaluated on fewer and broader points, for example on whether a topic sentence was used or not. Later, evaluation criteria become significantly more specific - was the topic sentence accurate, did it use a transition, was it relevant to the question and so on.

We also evaluate the student's efforts and attitude. They are scored on their collaboration, their use of and willingness to use English in the classroom and their attentiveness to other students in their group. They are evaluated on their readiness for class and also their timely completion of homework assignments. Students are also given credit for making bookings with their workshop tutor and for making efforts at self-directed learning.

The weightings of some criteria change throughout the year to reflect a shift from teacher set homework assignments (e.g., Google Classroom reading quizzes) to self-directed learning and extra-curricular work on in-class assignments. This encourages a gradual progression toward students taking on more responsibility for their learning.

Communication English II and Presentation

When our Kyoto Gakuen students enter into their second year of studies their English language ability is sufficient enough to not only focus on the development of their English but also the development of the KOA Global skills. This focus on the other skills requires us to develop alternative ways to grade each of the skills. As you can see from the given rubrics in the appendix of this document, most rubrics are geared towards measuring and assessing multiple skills. An example of which would be the SlideDoc assessment, this assessment measures their ability to collaborate, think critically, elucidate opinions as well as their ability to work independently. The key focus of **Presentation** class is to develop the students' interpersonal skills (collaboration), presentation skills, and independent studying skills. An important component of the class is the "controlled freedom" enjoyed by the student. This scaffolded approach to the project allows students to develop their independence in a controlled manner in which students benefit from the guidance of a teacher while being able to enjoy the benefits of a student-centered class.

Instructional Methodologies and Assessments

Group based research and presentation projects: group members given distinct roles with specific duties and responsibilities, necessitating collaboration and teamwork. Individual research projects and essay projects: Scaffolded introduction to research-based academic writing. Students learn to research independently, beginning with teacher-guided research, and culminating in completely independent research-based essay writing on a topic of students' own choosing.

As stated above the focusing on skills compared with knowledge, means we have to diversify the assessment criteria created. This includes Rubrics created and revised for evaluating various skills: research comprehension (teacher-guided research), bibliography creation, essay style, English ability (written), research depth (independent research), teamwork and collaboration, SlideDoc design and detail, Presentation ability, Interview performance.

Eigo Hyogen 2 and Presentation

Third year classes are based on two important ideas: Knowledge and Skills. With most of the English language instruction occurring in their first two years and in the time they spend studying abroad. Capitalizing on their experience of western classroom methodology, we have developed a system of evaluation that emphasizes competency skills as well as a deepening of knowledge that students sorely lack. We have divided the topics into a wide range of areas to stimulate the students' adaptability and curiosity. These topics allow us to

develop competencies, and in return develop the skills necessary for students to move beyond a superficial understanding of topics. The areas and skills that we assess include:

- **Observation:** Research gathering
- **Analysis:** Making connections looking at direct and indirect consequences
- **Interpretation:** Delineating the causes and underlying definitions
- **Reflection:** Inference and creating objectivity
- **Evaluation:** Explanation and decision making

Through assessing these competencies, we prepare students for both their future and the challenging university entrance system. To provide continuity we maintain rubrics from second year but choose to change point weightings depending on the target structures we are evaluating.

Junior High School (Eigo Enshu and Oral Communication)

Regarding creating a system in which to provide sound evaluation, there were a number of changes implemented in the way we evaluate the English course in junior high school. The process of developing a new system needed to:

- Give students evaluation which leads to an improvement in communicating in English.
- Create a system of evaluation that incorporates English taught in both the native and Japanese taught classes.
- Create a system of evaluation that fosters independence in language acquisition once graduated into high school.
- Create a system of evaluation that bridges the transition between junior and senior high school.

With these goals in mind, the course has been constructed to introduce spoken English to beginners, challenge those who enter first grade with a relatively high skill level in English, and facilitate students' progress between the two at every step of the way.

Understanding this reality, the English courses are all divided in the manner in which they are evaluated. This division occurs at the top of the ability spectrum in which year groups are divided into streams, typically 'A stream' contains the strongest students, 'B stream' those in the middle, and 'C stream' containing beginners and the weaker students. Because the purpose of junior high school is to foster the basic fundamentals of language usage, the lower classes have a stronger focus on quantitative assessment, being:

- A written exam
- In class participation
- Completion of homework activities in the course workbook.

Whereas, students in the A stream will be evaluated on an extra component, which we call "Project." The evaluation of the project coupled with the evaluation of each student's effort allows us to give greater qualitative assessment of the student, as a greater number of students progress to the A stream class over the three years this allows them to focus more on quality, and also allows the students in the lower streams to focus more on the basic components of language acquisition.

Instructional Methodologies and Assessments

Because we wanted to focus on the developing basics of language acquisition, we had to take a different approach to evaluation compared with evaluation in high school. The reason for this is that at the elementary level of language acquisition it is difficult to pursue a purely qualitative framework of assessment. The rudimentary nature that any qualitative assessment would take is better divided into quantitative evaluation and thus providing the opportunity to the teachers to provide qualitative evaluation. This is why the students' evaluation combines a focus on recall and comprehension (Morning Vocabulary, Exam, Homework) with a focus on measuring qualitatively (Effort and Project).

Morning Vocabulary

This activity is taught in the Choei session on every day possible. This activity teaches 16 pieces of vocabulary every week, each term. Typically, there are 5 weekly lists per term. Half of the vocabulary provided is from the English course textbook. Half is from the Eigo Enshu course textbook. Morning Vocabulary takes on the form of quantitative evaluation as it is used to strengthen language acquisition. There are two graded evaluations carried out in a regular week.

- Spelling test. Students are tested on their ability to spell the words from a spoken prompt. Eight words are spoken by the teacher and the students have to spell the words correctly.
- Definitions quiz. The students are given a definition or example sentence using the vocabulary word. The students are never give the target vocabulary during this quiz.

Exam

Once again, as most of the assessments in JHS are quantitatively assessed, this follows a similar framework to further strengthen the foundation of the students' language acquisition.

Homework

Homework activities are set weekly by individual teachers. Those teachers will allot activities from the workbook on a class-by-class basis and collect the workbooks for grading and feedback.

Effort

In evaluating effort, we had to create a method that was qualitative, flexible, so that it could be applied to different streams, but also encourage the students to participate more, relative

to which stream they are in. This flexibility not only allows for a greater mean of distribution in scores, but also allows us to foster greater participation and quality of answers, making it easier for the teacher to provide greater qualitative assessment of the students' language use and acquisition thereof.

Projects

Project work is only done by A stream students. The purpose of every project is to evaluate students' ability to convert passive language into an active use of language that they've acquired in their English class in a conversational manner focusing more on quality. As the number of students in the A stream increases year to year, the project gives us a further opportunity to provide greater qualitative evaluation of the students.

Appendix

First Year

- A-1 Effort Rubric
- A-2 Effort Rubric
- A-3 Essay Rubric Pros and Cons
- A-4 Paragraph Rubric
- A-5 Writing 2 Rubric
- A-6 Exam paragraph Rubric
- A-7 Describing Processes Rubric
- A-8 Describing Charts/Graphs

2nd Year

- B-1 Exam Rubric
- B-2 Essay Rubric Causes
- B-3 SlideDoc Feedback
- B-4 Presentation Interview
- B-5 Presentation Rubric
- B-6 Essay Rubric Effects
- B-7 SlideDoc Rubric
- B-8 Timed Write Checklist
- B-9 Pros and Cons Binge Watching assignment
- B-10 Communication Eigo II Effort Rubric
- B-11 Presentation Zenki 1 Effort Rubric
- B-12 Presentation Zenki 2 Effort Rubric
- B-13 Presentation Peer Evaluation

Junior High School

- C-1 Global Navigator Year 7 Project Point Sheet
- C-2 Global Navigator Year 8 Project Point Sheet
- C-3b Global Navigator Year 9 Project Point Sheet

Communication English I Effort Rubric

Student name _____

Score _____ /25

Category (possible points) and criteria (students must match all criteria for full marks)	Score (circle one)
Attendance (physically and mentally) (5) -Has no unexcused absences -Is prepared for class to begin when the chime rings -Pays attention in class -Does not sleep during class -Does not use phone for unrelated things during class -Does not work on outside classwork during class	0 1 2 3 4 5
Class Discussions (5) -Always attempts to speak in English -Regularly raises hand to answer questions or contribute to class discussions -Attempts to answer or contribute when called on by the teacher, and is usually able to answer correctly -Answers and contributions are not problematic or disruptive to the progression of the class -Shows interest in and respect for classmates' contributions	0 1 2 3 4 5
Group / Pair Work (5) -Always attempts to speak in English -Only uses Japanese as a last resort, but quickly returns to using English -Works well with others -Shows interest in and respect for classmates' contributions -Group or pair work stays on task	0 1 2 3 4 5
Overall Attitude and Effort (10) -Shows maturity in his/her approach to class and work -Always makes a clear effort to understand and improve -Homework assignments are always completed on time -Homework assignments are completed to an exemplary degree (always tries to go above and beyond the bare minimum requirement) -Ungraded worksheets or assignments are completed to an exemplary degree	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Bonuses Up to 2 points may be added at the teacher's discretion if the student <i>makes bookings with purpose</i> (i.e. doesn't just make a booking to try and get bonus points, but actually comes with a specific purpose/goal)	Plus
---	-------------

Penalties Up to 3 points may be taken away at the teacher's discretion for reasons such as: <i>Repeatedly disruptive, Disrespectful to teacher or classmates, Doesn't show up to bookings</i>	Minus
---	--------------

Reason for penalty:	
---------------------	--

Communication English I Effort Rubric

Student name _____

Score _____ /35

Category (possible points) and criteria (students should meet all criteria for full marks)	Score (circle one)
Attendance (physically and mentally) (5) -Has no unexcused absences -Is prepared for class to begin when the chime rings -Pays attention in class -Does not sleep during class -Does not work on outside classwork during class	0 1 2 3 4 5
Class Discussions (5) -Always attempts to speak in English -Regularly raises hand to answer questions or contribute to class discussions -Attempts to answer or contribute when called on by the teacher, and is usually able to answer correctly -Answers and contributions are not problematic or disruptive to the progression of the class -Shows interest in and respect for classmates' contributions	0 1 2 3 4 5
Group / Pair Work (5) -Always attempts to speak in English -Only uses Japanese as a last resort, but quickly returns to using English -Works well with others -Shows interest in and respect for classmates' contributions -Group or pair work stays on task	0 1 2 3 4 5
Homework (10) Degree of apparent effort in homework. This may include, but is not limited to: -Homework assignments completed on time -Homework is correct/done well -Effort is clearly evident in homework -Proactively follows up with the teacher about errors or unclear homework contents when needed -Re-attempts and revises assignments in an effort to improve	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
Overall Attitude and Effort (10) Degree of maturity in his/her approach to class and work. This may include, but is not limited to: -Always makes a clear effort to improve -Keeps an IELTS notebook and regularly takes notes in it -Completes in-class worksheets or other non-homework assignments to an exemplary degree -Proactively follows up with the teacher when class contents are unclear -Makes bookings with purpose (i.e. comes to bookings with a specific purpose or goal) -Submits extra practice work (from self-study) to be reviewed	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
Penalties Up to 3 points may be taken away at the teacher's discretion for reasons such as: <i>Repeatedly disruptive, Disrespectful to teacher or classmates, Doesn't show up to bookings</i>	Minus
Reason for penalty:	

Writing Practice Checklist

Name: _____

Introduction Paragraph	
Opening- Used different language or style as the prompt to introduce the topic.	
Background- Added some general extra information about the topic. (Background info can be used to give more detail about the history or current state of the issue, or why this issue is important/relevant, etc.)	
Thesis (Plan and Purpose)- Clearly and specifically stated what the essay will discuss, and subsequent paragraphs are ordered in the same way.	
Comprehension- Introduction and plan for the essay indicates correct interpretation of the task prompt	

Comments/Other Notes:

Body Paragraphs	1	2	(3)
Topic Sentences- Clearly said what this paragraph will discuss. Linking phrase used (First of all..., On the one hand..., etc.).			
Point(s)- Point(s) given fall under the umbrella of the topic sentence. Transitions/cohesive devices used to naturally connect sentences.			
Support- Logical and sufficient explanation for each point given.			
Transitions/Cohesive Devices- Sentences and ideas flow naturally.			

Comments/Other Notes:

Conclusion Paragraph	
Restate Thesis (summary)- Main points summarized.	
Purpose- Purpose of the essay addressed in some way / final message given.	

Comments/Other Notes:

Other things to be careful of
Word Count, Indenting, Spelling, Repetition of words or phrases (that could have been avoided), Articles (<i>a, an, the, some, any</i>), Misuse of singulars or plurals, Verb conjugation, Punctuation, Capitalization, Wordiness, Word order, Sentence fragments, Informal language, Contractions, Beginning sentences with conjunctions (<i>and, but, because, so</i>), Bad handwriting Lack of complex structures, Lack of higher level vocabulary, Misuse of words

Comments/Other Notes:

Paragraph Score Rubric

Student name _____

Category (possible points) and explanation	Score (circle one)										
Assignment achievement (10) Ability to effectively and correctly use the target grammar or vocabulary of the particular assignment	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Overall grammar (5) Overall ease of understanding. Simpler sentences are error-free. More complex sentences have not too many mistakes.	0	1	2	3	4	5					
On topic (3) Individual sentences do not stray from the topic. All sentences are about the topic as established in the topic sentence.	0	1	2	3							
Spelling (2) No spelling errors: 2 Up to 3 spelling errors: 1 More than 3 errors: 0	0	1	2								
Effort and Improvement (5) Student appears to be attempting to go beyond his or her capacity. Student tries to use higher level vocabulary and more complex grammar and sentence structures.	0	1	2	3	4	5					

Penalties Points may be taken away at the teacher's discretion for reasons such as: <i>late, incomplete, name written in Japanese, difficult to read,</i> or any other reason as your teacher decides	Minus
Reason for penalty:	

Comments:

Score:

/ 25

Writing 2 Rubric

Name:

Organization and Understanding (9 pts / 18%)		Pos.	Pts.		
Structure - Has introduction (1 pt.), body (2), and conclusion (1), indented (1)		5			
Comprehension - Understood and answered the given task (not off topic)		4			
Introduction Paragraph (6 pts / 12%)		Pos.	Pts.		
Opening and Background: <ul style="list-style-type: none"> - Used different language or style as the prompt to introduce the topic - Added some relevant extra background information about the topic. (Background info can be used to give more detail about the history or current state of the issue, or why this issue is important/relevant, etc.) 		3			
Thesis (Plan and Purpose) - Clearly and specifically stated what the essay will discuss, and subsequent paragraphs are ordered in the same way		3			
Body Paragraphs (12 pts / 24%)		Pos.	B 1	B 2	(B 3)
General Criteria: <ul style="list-style-type: none"> - Topic Sentences clearly say what the paragraph will discuss. Linking phrase used (First of all..., On the one hand..., etc.). - Point(s) given fall under the umbrella of the topic sentence. - Logical further explanation given for each point. - Transitions/cohesive devices used to naturally connect sentences. 		6 each (for 2) or 4 each (for 3)			
Conclusion Paragraph (6 pts / 12%)		Pos.	Pts.		
Restate Thesis (summary) - Main points summarized.		2			
Purpose - Purpose of the essay addressed in some way / final message given.		4			
Vocabulary/Grammar/Formality (17 pts / 34%)		Pos.	Pts.		
Overall vocabulary level (spelling, able to avoid repetition when possible, word choice rarely causes confusion, used less common vocabulary than others)		6			
Overall grammar usage (<i>calculated proportionately; 6 = about 85-90% accuracy</i>) <ul style="list-style-type: none"> - Errors can include articles, singulars/plurals, parts of speech, word order, conjugations, capitalizations, punctuation, fragments, run-ons, etc. 		6			
Sentences are not overly simple and/or repetitive in style/structure		3			
Used formal language and writing style (2 errors = minus 1, 5 errors = zero) <ul style="list-style-type: none"> - Errors can include contractions, beginning sentences with "and" "but" "because" or "so," or any slang or informal/conversational language usage 		2			
Word Count (PENALTY - up to 5 pts)		Pos.	MINUS		
Minus 1 per 5 words under 250 (e.g. 245-249=minus 1, 240-244=minus 2, etc.)		5			
TOTAL		50			

Communication English I Exam Paragraph Rubric

Student name _____ Topic number _____ Score _____

Category (possible points) and general criteria	Score (circle one)					
Assignment achievement and effort (5) -Task is completed to an outstanding degree (all points are thoroughly and clearly explained) -Main points/reasons are not opinion-based -Reasons/points and support are logical -Higher level vocabulary is used -At least 7 complete sentences written	0	1	2	3	4	5
Grammar (5) -Uses complex sentences -Complex sentences are nearly error-free -Simpler sentences are error-free -No fragments -Everything is understandable	0	1	2	3	4	5
Cohesion (5) -Paragraph begins with topic sentence -All sentences stay on topic -Transitions and cohesive devices are included and used correctly -Each sentence connects to, or flows from its preceding sentence	0	1	2	3	4	5
Variation (4) -Uses synonyms or rephrasing whenever possible to avoid over-repetition of key words or phrases -Uses varying sentence structures and transitions to avoid repetitiveness in style -Does not repeat any of the same points/reasons	0	1	2	3	4	
Writing formality (4) -No contractions or abbreviations used -No sentences begin with 'and,' 'but,' 'so,' or 'because' -No capitalization mistakes -Avoids references to self (e.g. 'I think' or 'My first reason is' etc.)	0	1	2	3	4	
Spelling (2) No spelling errors: 2 points Up to 4 spelling errors: 1 point More than 4 errors: 0 points	0	1	2			

Penalties Points may be taken away at the teacher's discretion for reasons such as: <i>dramatically incomplete, handwriting is difficult to read, completely off topic</i>	Minus
Reason for penalty:	

Graphs/Charts/Tables Rubric

Name:

Comprehension and Appropriateness (1 pt / 5%)	Pos.	Pts.
Understood and appropriately answered the given task (no guesswork or commentary / not off topic)	1	
Introduction (2 pts / 10%)	Pos.	Pts.
Introduced the diagram with relevant information that may include: type of diagram, categories, year(s), location(s) or other context needed to understand the features	1	
Successfully rephrased the topic from the prompt or diagram title (vocabulary)	1	
Overview (4 pts / 20%)	Pos.	Pts.
Includes an overview of appropriately selected highlights, major trends or comparisons between the groups on the chart.	1	
Used a transition to clearly denote the overview	1	
Vocabulary such as verbs, adjectives, and adverbs used correctly (includes sp.)	1	
Grammar accuracy (for full credit: intended meaning is always very clear)	1	
Descriptions of details and features (10 pts / 50%)	Pos.	Pts.
Adequately and accurately described relevant key features and trends in a way that demonstrates comprehension of the information	2	
Information and ideas arranged coherently with a clear overall progression.	2	
Transitions, cohesive devices, and/or referencing used to naturally connect ideas and sentences.	2	
Vocabulary such as verbs, adjectives, and adverbs used correctly to describe details, features, trends, etc. (includes spelling)	2	
Grammar accuracy (for full credit: intended meaning is always very clear)	2	
Higher level Vocabulary/Grammar/Formality (3 pts / 15%)	Pos.	Pts.
Vocabulary level is above average (used less common vocabulary than others that also does not appear on the diagram, able to avoid repetition of words or phrases whenever possible, word choice never causes confusion)	1	
Grammar level is above average (used a mix of simple and complex sentence forms to avoid mechanical or repetitious recitation of information with few errors)	1	
Used formal language and writing style (1 error = half, 2 or more errors = zero) - Errors can include contractions, beginning sentences with "and" "but" "because" or "so," or any slang or informal/conversational/colloquial language usage	1	
Word Count (PENALTY - up to 5 pts)	Pos.	MINUS
Minus 1 per 5 words under 150 (e.g. 145-149=minus 1, 140-144=minus 2, etc.)	5	
TOTAL	20	

Exam Point Sheet (Term 2)

NAME: _____

Introduction & Structure

- Opening sentence (1)
- Sufficient background to introduce topic (2)
- Thesis-forecast statement with purpose (2)
- Body paragraphs follow order listed in the thesis-forecast (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of **8**

Body Paragraph #1

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and cohesive devices (*including those used to introduce evidence*) (2)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling & punctuation (2)

_____ out of **10**

Body Paragraph #2

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and cohesive devices (*including those used to introduce evidence*) (2)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling & punctuation (2)

_____ out of **10**

Body Paragraph #3

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and cohesive devices (*including those used to introduce evidence*) (2)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling & punctuation (2)

_____ out of **10**

Conclusion

- Summary included, neither too detailed nor too vague (2)
- Purpose addressed (*including, but not necessarily limited to, the following*) (4)
 - Clear, committed opinion given and explained adequately
 - No new evidence introduced
 - Unified supporting sentences (on topic)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of **8**

Effort

- Length (*380+ words, 2 points; 350~379, 1; under 350, zero*)
- Performance above/below average (*above, 2 points; average, 1; below, zero*)

_____ out of **4**

Comments:

TOTAL: _____ out of **50**

Causes Essay Point Sheet

NAME: _____

Formatting & Structure

- Name, date, and teacher name in top right corner (1)
- Title (centered, capitalized) (1)
- Double spaced/Indented paragraphs/Consistent font (1)

_____ out of 3

Introduction

- Opening sentence (1)
- Sufficient background to introduce topic (2)
- Thesis-forecast statement with purpose (2)
- Body paragraphs follow order listed in the thesis-forecast (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 8

Body Paragraph #1

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and Cohesive Devices (1)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 9

Body Paragraph #2

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and Cohesive Devices (1)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 9

Body Paragraph #3

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and Cohesive Devices (1)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 9

Conclusion

- Restated thesis (1)
- Purpose addressed (3)
- Grammar & Punctuation (2)

_____ out of 6

Footnotes and Bibliography

- Footnotes (3)
 - Five or more different sources used
 - Footnotes used correctly in the essay
 - Formatted correctly at the bottom of the page
- Bibliography (3)
 - All sources from footnotes included
 - Formatted correctly on a new page, double-spaced, hanging indentation
 - Alphabetical order

_____ out of 6

Penalties

- Under 500 Words
- Late
- Plagiarism

Minus _____

Comments:

TOTAL : _____ out of 50

SlideDoc Feedback Sheet

Team: _____

Score: _____ out of 40

Structure (Organization)	
<input type="checkbox"/> Cover page with topic title & team member names (team name optional) <input type="checkbox"/> Table of contents page correctly lists the order of pages <input type="checkbox"/> No. of Content pages equal to 2x No. of group members <input type="checkbox"/> Glossary <input type="checkbox"/> Bibliography	comments:

Visual Design (Creativity)	
<input type="checkbox"/> Color palette includes 1~2 color(s) that can be used for highlighting <input type="checkbox"/> Theme of colors and fonts used across all slides <input type="checkbox"/> Cover page image effectively represents the topic <input type="checkbox"/> Images and icons used to visually communicate major points on every content page <input type="checkbox"/> Visual design has a clear aesthetic, but does not distract from the content	comments:

Infographics (Representing Data)	
<input type="checkbox"/> 5 original infographics included <input type="checkbox"/> Infographics are simple and clear <input type="checkbox"/> Relevant data points are highlighted for emphasis <input type="checkbox"/> Each infographic is accompanied with a text explanation of 20~70 words <input type="checkbox"/> Sources given for all data	comments:

Text Compiling (English)	
<input type="checkbox"/> Text is organized in a logical manner on pages, separated into blocks if/when possible ("Wall of text" is effectively avoided) <input type="checkbox"/> Page Headings, sub-headings, and block headings are used effectively <input type="checkbox"/> Key information is emphasized by highlighting, special placement on the page, and/or increased size <input type="checkbox"/> Spelling <input type="checkbox"/> Grammar	comments:

SlideDoc Feedback Sheet

Team: _____

Score: _____ out of 40

Structure (Organization)	
<input type="checkbox"/> Cover page with topic title & team member names (team name optional) <input type="checkbox"/> Table of contents page correctly lists the order of pages <input type="checkbox"/> No. of Content pages equal to 2x No. of group members <input type="checkbox"/> Glossary <input type="checkbox"/> Bibliography	comments:

Visual Design (Creativity)	
<input type="checkbox"/> Color palette includes 1~2 color(s) that can be used for highlighting <input type="checkbox"/> Theme of colors and fonts used across all slides <input type="checkbox"/> Cover page image effectively represents the topic <input type="checkbox"/> Images and icons used to visually communicate major points on every content page <input type="checkbox"/> Visual design has a clear aesthetic, but does not distract from the content	comments:

Infographics (Representing Data)	
<input type="checkbox"/> 5 original infographics included <input type="checkbox"/> Infographics are simple and clear <input type="checkbox"/> Relevant data points are highlighted for emphasis <input type="checkbox"/> Each infographic is accompanied with a text explanation of 20~70 words <input type="checkbox"/> Sources given for all data	comments:

Text Compiling (English)	
<input type="checkbox"/> Text is organized in a logical manner on pages, separated into blocks if/when possible ("Wall of text" is effectively avoided) <input type="checkbox"/> Page Headings, sub-headings, and block headings are used effectively <input type="checkbox"/> Key information is emphasized by highlighting, special placement on the page, and/or increased size <input type="checkbox"/> Spelling <input type="checkbox"/> Grammar	comments:

Presentation Interview Test Rubric

Name: _____ Score: _____ /20

Category	1 point	2 points	3 points	4 points	5 points
Knowledge and Lexical Resource	<p>Unable to answer several questions or answers are wildly incorrect/off-topic.</p> <p>Cannot use topic-specific vocabulary correctly.</p>	Between 1 and 3	<p>Can answer most questions, but answers are lacking in detail.</p> <p>Uses a small range of topic-specific vocabulary with a lot of repetition.</p>	Between 3 and 5	<p>Demonstrates a detailed understanding of the topic content.</p> <p>Uses a range of topic-specific vocabulary effectively and with few errors.</p>
Fluency and Coherence	<p>Is unable to speak without long pauses.</p> <p>Little to no use of discourse markers.</p>	Between 1 and 3	<p>Mid-sentence pausing/ hesitation is present to search for language.</p> <p>Discourse markers are used, but can be repetitive.</p>	Between 3 and 5	<p>Can speak at length with minimal difficulty.</p> <p>Attempts a range of discourse markers to connect ideas, with few errors.</p>
Grammatical Range and Accuracy	Can barely use simple sentences.	Between 1 and 3	<p>Simple sentences are used fairly well.</p> <p>Complex structures are used, but usually have errors.</p>	Between 3 and 5	<p>Uses a variety of sentence structures.</p> <p>Most sentences are error-free.</p>
Pronunciation	<p>Katakana pronunciation is present.</p> <p>Can be difficult to understand.</p>	Between 1 and 3	<p>Mispronunciation is present, and there is lack of stress/intonation, but meaning is generally clear.</p>	Between 3 and 5	<p>Displays some effective use of chunking, intonation and stress.</p> <p>Can be easily understood.</p>

Effects Essay Point Sheet

NAME: _____

Formatting & Structure

- Name, date, and teacher name in top right corner (1)
- Title centered; capitalized (1)
- Double spaced/Indented paragraphs/Consistent font (1)

_____ out of 3

Introduction

- Opening sentence (1)
- Sufficient background to introduce topic (2)
- Thesis-forecast statement with purpose (2)
- Body paragraphs follow order listed in the thesis-forecast (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 8

Body Paragraph #1

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and Cohesive Devices (1)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 9

Body Paragraph #2

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and Cohesive Devices (1)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 9

Body Paragraph #3

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and Cohesive Devices (1)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar, spelling, & punctuation (2)

_____ out of 9

Conclusion

- Restated thesis (1)
- Purpose addressed (3)
- Grammar & Punctuation (2)

_____ out of 6

Footnotes and Bibliography

- Footnotes (3)
 - Five or more different sources used
 - Footnotes used correctly in the essay
 - Formatted correctly at the bottom of the page
- Bibliography (3)
 - All sources from footnotes included
 - Formatted correctly on a new page, double-spaced, hanging indentation
 - Alphabetical order

_____ out of 6

Penalties

- Under 500 Words
- Late
- Plagiarism

Minus _____

Comments:

TOTAL : _____ out of 50

Exam Point Sheet (Term 1)

NAME: _____

Introduction & Structure

- Opening sentence (1)
- Sufficient background to introduce topic (2)
- Thesis-forecast statement with purpose (2)
- Body paragraphs follow order listed in the thesis-forecast (1)
- Grammar & punctuation (2)

_____ out of **8**

Body Paragraph #1

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and cohesive devices (*including those used to introduce evidence*) (2)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar & punctuation (2)

_____ out of **10**

Body Paragraph #2

- Topic sentence (1)
- Sufficient details & factual information (4)
- Transitions and cohesive devices (*including those used to introduce evidence*) (2)
- Unified supporting sentences (on topic) (1)
- Grammar & punctuation (2)

_____ out of **10**

Conclusion

- Summary included, neither too detailed nor too vague (2)
- Purpose addressed (*including, but not necessarily limited to, the following*) (4)
 - Clear, committed opinion given and explained adequately
 - No new evidence introduced
 - Unified supporting sentences (on topic)
- Grammar & Punctuation (2)

_____ out of **8**

Effort

- Length (*380+ words, 2 points; 350-379, 1; under 350, zero*)
- Performance above/below average (*above, 2 points; average, 1; below, zero*)

_____ out of **4**

Comments:

TOTAL: _____ out of **40**

SlideDoc Point Sheet

Team: _____

Structure (Organization) - 10 points

- Cover page with topic title & team member names (team name optional)
- Table of contents page correctly lists the order of pages
- No. of Content pages equal to 2x No. of group members
- Glossary
- Bibliography

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Visual Design (Creativity) - 10 points

- Color palette includes 1~2 color(s) that can be used for highlighting
- Theme of colors and fonts used across all slides
- Cover page image effectively represents the topic
- Images and icons used to visually communicate major points on every content page
- Visual design has a clear aesthetic, but does not distract from the content

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Infographics (Representing Data) - 10 points

- 5 original infographics included
- Infographics are simple and clear
- Relevant data points are highlighted for emphasis
- Each infographic is accompanied with a text explanation of 20~70 words
- Sources given for all data

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Text Compiling (English) - 10 points

- Text is organized in a logical manner on pages, separated into blocks if/when possible ("Wall of text" is effectively avoided)
- Page Headings, sub-headings, and block headings are used effectively
- Key information is emphasized by highlighting, special placement on the page, and/or increased size
- Spelling
- Grammar

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

TOTAL: _____ out of **40**

Timed Write Checklist

Name: _____

Introduction Paragraph	
Opening- Catches attention	
Background- Evidence used to introduce topic appropriately / sufficiently	
Thesis-Forecast (Plan and Purpose)- Clearly and specifically stated what the essay will discuss, and subsequent paragraphs are ordered in the same way / purpose included	

Comments/Other Notes:

Body Paragraphs	1	2	(3)
Topic Sentences- Clearly and accurately said what this paragraph will discuss.			
Explanation- Sufficiently explains the point(s)			
Evidence- Relevant evidence used (and cited correctly) to give detail			
Transitions/Cohesive Devices- Sentences and ideas flow naturally.			

Comments/Other Notes:

Conclusion Paragraph	
Restate Thesis (summary)- Causes summarized.	
Purpose- Purpose of the essay addressed in some way / final message given.	

Comments/Other Notes:

Other things to be careful of
Word Count, Indenting, Spelling, Repetition of words or phrases (that could have been avoided), Articles (<i>a, an, the, some, any</i>), Misuse of singulars or plurals, Verb conjugation, Punctuation, Capitalization, Wordiness, Word order, Sentence fragments, Informal language, Contractions, Beginning sentences with conjunctions (<i>and, but, because, so</i>), Bad handwriting Lack of complex structures, Lack of higher level vocabulary, Misuse of words

Comments/Other Notes:

Communication English II Pros and Cons of Binge Watching assignment rubric

Student name _____

Each checkbox is 1 point. Half credit is OK for minor errors (such as spelling or punctuation) Zero for larger errors like missing information or incorrect formatting				
Heading has student name, date, and teacher's name written correctly	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Footnotes done correctly for 1 point each	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Page break at the end of the essay to start the bibliography on a new page	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
"Bibliography" title is in the center	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Bibliography entries each done correctly	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Bibliography entries arranged in alphabetical order	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Hanging indentation on all bibliography entries	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SUB-TOTAL: (17 possible)				<input type="checkbox"/>

Conclusion (5 points)	Score (circle one)			
Summary (2) -Summarizes main points without being too detailed nor too vague -Grammar/spelling/punctuation	0	1	2	<input type="checkbox"/>
Purpose (3) -Gives judgment about the new trend of binge watching and explains their opinion -Reason(s) given are sufficiently different from body paragraph points, but also not off topic -Grammar/spelling/punctuation	0	1	2	3

**TOTAL
SCORE**

	/ 22
--	------

Communication English II Effort Rubric

Student name _____

Score _____ /20

Category (possible points) and criteria (these are more or less guidelines, but students should generally match all criteria for full marks)	Score (circle one)
Attendance (physically and mentally) (5) -Has no unexcused absences -Is prepared for class to begin when the chime rings -Pays attention in class -Does not sleep during class -Does not use computer for unrelated things during class -Does not work on outside classwork during class	0 1 2 3 4 5
Class/Group Discussions (5) -Always attempts to speak in English when contributing -Regularly contributes to class discussions -Is generally not disruptive to the progression of the class -Shows interest in and respect for classmates' contributions -Group or pair work stays on task	0 1 2 3 4 5
Overall Attitude and Effort (10) -Shows maturity in his/her approach to class and work -Always makes a clear effort to understand and improve -Homework assignments are always completed on time -Homework assignments are completed to an exemplary degree (i.e. doesn't just do the bare minimum requirement every time) -Ungraded worksheets (in class) or assignments are completed to an exemplary degree	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Bonuses Up to 2 points may be added at the teacher's discretion for reasons such as: <i>student makes bookings with purpose</i> (i.e. doesn't just make a booking to try and get bonus points, but actually comes with a specific purpose/goal), or <i>submitted extra practice work or revisions that were not required, etc.</i>	Plus
Reason for bonus:	

Penalties Up to 2 points may be taken away at the teacher's discretion for reasons such as: <i>repeatedly disruptive, disrespectful to teacher or classmates, doesn't show up to bookings, etc.</i>	Minus
Reason for penalty:	

25 Presentation Team Teacher Evaluation

Team Name: _____

Topic: _____

Team Member Name	INDIVIDUAL SCORES			GROUP SCORE		
	Preparation	Engagement	Slides	Coordination / Teamwork	PENALTIES	TOTAL (out of 20)
	0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+	-	=
	0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+	-	=
	0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+	0 1 2 3 4 5	-
	0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+	-	=
	0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+ 0 1 2 3 4 5	+	-	=

INDIVIDUAL SCORES:**Preparation**

- Memorization / Level of reliance on notes/slide text
- Eye contact
- Paced well, smooth delivery
- Correct pronunciation
- Faithfulness to the script (doesn't need to be exact, but the message should be on target; i.e. if they're ad libbing, it's still focused and not meandering)

Engagement

- Posture / Facing audience
- Gesturing / Body language
- Voice variation and volume
- Able to give emphasis to important points
- Interesting to watch / keeps attention
- Urgency / importance of the issue effectively communicated

Slides

- One message/idea per slide (or animations used to space out the timing of how much information appears at once)
- Visual medium used effectively (not an over-reliance on text)
- Color/size/contrast used effectively to draw focus
- Creativity

GROUP SCORE:**Group Coordination / Teamwork**

- Transitions between slides and speakers are smooth and well-coordinated
- Choreography (standing position and movement) appear planned and rehearsed
- Overall message remains consistent throughout the group presentation
- Slides generally follow the same theme
- Timing shared roughly equally and hits the target range
 - 4 students: 8 – 10 minutes
 - 5 students: 10 – 12.5 minutes

PENALTIES (individual)

- Distracting from the speaker (when not speaking)
 - minus 1 – 2 points
- Extremely overlong or short on time
 - minus 1 – 4 points

COMMENTS:

2年 Presentation Zenki 1 Effort Point Sheet

Name: _____

GLOSSARY (Research Document) - 5 points						
<ul style="list-style-type: none"> - Completion (requirements met) - Accuracy of definitions - Accuracy, complexity, and originality of sentences - Grammar/spelling 						
0	1	2	3	4	5	

RESEARCH QUESTIONS (Research Document) - 5 points						
<ul style="list-style-type: none"> - Completion (requirements met) - Accuracy of answers - Depth of research - Grammar/spelling 						
0	1	2	3	4	5	

SLIDE CONTENTS (Research Document) - 10 points											
<ul style="list-style-type: none"> - Completion (requirements met) - Accuracy of contents - Depth of research - No plagiarism - Grammar/spelling 											
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

Usage of Class Time - 10 points											
<ul style="list-style-type: none"> - Actively collaborated with group members in class - Stayed on task during class hours - Basically: Didn't waste the class time 											
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

After totaling the points from the above categories, adjustments (positive or negative) may be made at the teacher's discretion based on the peer evaluation survey results.	adjustment + or -
Reason for adjustment:	

TOTAL: _____ out of **30**

2年 Presentation Zenki 2 Effort Point Sheet

Name: _____

SCRIPT CONTENTS - 10 points										
- Completion (requirements met) - Good editing and adaptation of SlideDoc text for presentation format - Creativity / Originality - No plagiarism - Grammar/spelling										
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

OVERALL Effort and Usage of Class Time - 10 points										
- Took the task seriously and attempted to do a great presentation - Showed some growth / development of skills - Actively collaborated with group members in class - Stayed on task during class hours - Basically: Didn't waste the class time										
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

After totaling the points from the above categories, adjustments (positive or negative) may be made at the teacher's discretion based on the peer evaluation survey results.	adjustment + or -
Reason for adjustment:	

TOTAL: _____ out of **20**

Presentation Audience Sheet **Class:** **No.:** **Name:** _____

Use the top part of this paper as a memo for you to study with later.

Topic:

Japan's problem:

Effects:

Causes:

What the government should do:

Use the bottom part to give feedback to the group. Circle a grade based on this scale:

A = Always

B = Mostly

C = About half the time

D = Rarely

Team Member Name	How much eye contact with the audience?	Was it easy to understand?	Was it interesting to watch?	Did you feel the importance of the issue?
	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D

Any other comments for the whole group?

Global Navigator 1st Year K3 Point Sheet.

Name _____

Task Description

Student must devise, write and carry out a survey based on spare time activities (or a topic of their own choosing). Students are encouraged to use at least 5 constructions (both in the questions and answer choices) taught within their Eigo class and reviewed in lessons 16 through 20:

Can, Should, Have to, How often, How long, How many, How + adj, adverbs of frequency and In order to.

In order to achieve a perfect score, the students must not only have their questionnaire graded by the teacher, but also have their response sheet monitored and checked. The questionnaires will be graded on accuracy of grammar, thematic consistency and comprehensibility. The students must then make graphs to illustrate their findings. The graphs will be graded on how well they convey the results as pertaining to the topic.

In this project, A =10%, B=8%, C=5%, D=2%, U (ungraded) = 0	Grade
Students were able to produce a somewhat <i>logically/logically/clearly</i> understandable set of questions that are clearly/perfectly sequenced.	
Students were able to produce a questionnaire with <i>at least 5/7/8</i> questions that use a somewhat <i>appropriate/appropriate/perfectly judged</i> question style.	
Students were able to produce 1/2/3 graphs or infographics to illustrate their results that <i>illustrate the findings / illustrate the findings well.</i>	

Overall Grade

(this project is 30% of your total grade)

/30

GN 2nd Year K3 Point Sheet.

Group Members 1) _____ 2) _____ 3) _____ 4) _____

Task Description

The students must prepare to record an **emergency broadcast** on one of the following topics; Earthquake, tsunami, flood and landslide or forest fire. The students can choose to deliver a **video** or **audio** "broadcast".

In order to get a perfect score the students must use **polite suggestion** language to give **warnings** and **advice**. Additionally, the **imperative** form must be used to show danger in some situations. Students should be careful to specify exactly where they are talking about when giving warnings. This could be achieved with **maps** and **images** on video, or with **highly specific** sentences on audio broadcasts.

In this project, A = 10%, B= 8%, C=5%, D=2%, U (ungraded) = 0	Grade
The students were able to describe situations of mild peril and give im-/ somewhat/polite language to warn of danger from natural disasters.	
The students were able to use the imperative form to warn of serious danger in a/ some/some specific situation(s) and give vague/ somewhat specific/highly specific survival advice.	
The broadcast was quite/somewhat/highly specific about geographical regions under threat from the disaster and used maps/detailed sentences on one/two/ multiple occasions	

Overall Grade

(this project is 30% of your total grade)

/30

GN 3rd Year K3 Point Sheet.

Name _____

Task Description

In this activity the student has to respond in an interview situation to all the ways that their English skill has improved over the course of the year. First the student will have to make a preparation sheet in order to collect enough ideas to discuss the topic freely. Additionally, hesitation devices will be practiced to aid fluency.

Once that is complete the students will work to develop interview questions that the teacher will ask. The students will be graded on how many questions they are able to submit. The teacher will then collate and, if necessary, refine the questions in preparation for the interview.

Finally, the students will have to undergo an interview and answer questions as naturally as possible.



In this project, A =10%, B=8%, C=5%, D=2%, U (ungraded) =0	Grade
The preparation sheet for the interview has been prepared adequately/fully and the student has addressed some/many/all of the facets of their partner's progress in English.	
The student was able to contribute 1/2-3/4+ original questions for the teacher to distribute to the interviewers. The questions are of a reasonable/good grammatical standard (max. 1 error) at time of interview.	
The student's responses under interview conditions were somewhat fluent/ fluent and exhibited limited/ extensive use of hesitation devices. Responses were brief/ adequate in length and contained only a few/ grammar errors.	

Overall Grade

(this project is 30% of your total grade)

2019年7月12日

学 校

令和元年度 SGH 研究発表会兼リトリート大会

～はじめよう、総合的な探究の時間～

《午前》 実践報告（開会の辞、質疑応答も含む） 10:00～12:00

- ① 学校長挨拶
- ② KOA Global Studies での取り組み
担当：黒宮先生
- ③ SGH の取り組みとその成果について
 - ・高2年 KOA 学 ベトナム・フィールド・トリップ報告
担当：フィールドトリップ参加生徒、村上先生（国際部）
 - ・高2年 KOA 学 フィリピン・フィールド・トリップ報告
担当：フィールドトリップ参加生徒、片山先生（国際部）
- ④ 図書館教養講座の取り組み SDGs
担当：伊吹先生

《午後》 ワークショップ・夏期休暇の取り組み 13:00～15:30（休憩・閉会式も含む）

第1部 ワークショップ（いずれか一つを選択） 13:00～14:30

- ① SDGs カードゲーム 世界一大きな授業での実践
担当：木田先生、梅村先生
- ② クエストエデュケーション 特B・進学 総合的探究の授業
担当：教育と探求社
- ③ Papper を用いたプログラミング
担当：大西先生（情報科）、山下先生（理科、技術科）

第2部 実践報告 14:40～15:30

- ① 地球学の取り組み
担当：竹村先生
- ② SGS (Science Global Studies) の取り組み
担当：百田先生
- ③ 閉会の挨拶

以上

地球学の可能性

地球学の可能性

中学部 竹村 慎吾

Society 5.0

求められる力

- ① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ② 科学的に思考・吟味し活用する力
- ③ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力

取り組むべき政策の方向性として

- ① 『公正に個別最適化された学び』を実現する多様な学習機会と場の提供
- ② 基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得
- ③ 文理分断からの脱却

好奇心・探究力

ワクワク

ワクワク



学びの自立化

多くのワクワク

- 学内でのワクワク
 - 通常授業でのワクワク
 - 部活動でのワクワク
 - 学校行事でのワクワク
 - 地球学でのワクワク
- 学外でのワクワク

子どもたちにはそれぞれ異なるワクワクが

地球学

地球学の可能性

地球学とは

地球学とは、知的好奇心と国際理解の精神を伸ばし育てることを目的として、平成22年度より**教科の枠を越えて体験的な学習を取り入れ**、本校独自に展開している総合学習。

その目的は大きく5つを掲げ、

- ①環境を守り育てる
- ②多文化理解を深める
- ③平和を目指す
- ④資料収集力を養う
- ⑤表現力を養う

7

地球学とは

年度末には地球学で学んだことを発表する**プレゼンテーション大会**を実施。

特に3年生は自由テーマのもと、**卒業論文作成**にとりかかり、その成果をプレゼンテーション大会で発表している。

8

地球学とは

＝「自分は何者なのか」を考えるプログラム

広い視野
深い洞察力



地元→日本→世界と段階的に視野を広げ、体験的に学んでいく。

9

地元



深泥池観測

地元



芹生～京都は昔、海だった！？

地元



京野菜

地球学の可能性



地球学の可能性



地球学の可能性



3年間の地球学の学びを通して

ワクワク

課題と必要なアクション I

- ① 物事を分析することが苦手
⇒「考える手法」そのものの授業
- ② 事後指導の徹底が不足
⇒カリキュラムの再構築
PBLの要素を更に意識するための時間確保
- ③ 地球学と5教科の関連性をもっと密接なものにしたい
⇒文理融合の意識を持つ・デジタル教材を積極的に活用する

課題と必要なアクション II

- ④ 学校、家庭、地域との協働が不足
⇒地域社会と連携した体験的活動やボランティア活動、または探究的な学習を通じて、地域との結びつきを強固なものにする
- ⑤ ICTを活用しきれていない
⇒快適にPCを使用できる環境整備とハード面の充実。校内でのPC使用に関するルールの整備
- ⑥ 「地球学」を通して、実際に身に付ける力とは？
⇒何を学んだかというより、むしろ学びの中のプロセスに意識を持つべきなのかも。何らかの方法で特定・計測できないものか。

さいごに

予測不可能な時代を生き抜くために、「解のない問い」に対して取り組む力が問われています。「地球学」では、様々な経験・体験を学校内、学外、宿泊を伴うフィールドワークで行っています。こうした活動が「私はこの分野が好き」「これは面白い」など、自分は何に興味があり、何を好きなのかを探すきっかけになればと思います。

「地球学」を通して、**失敗を恐れず行動し続ける**ことの大切さを学んでほしいと思っています。

ご清聴、ありがとうございました

31

参考文献

“学校教育の重点2019” 京都教育委員会、
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kwoiku/cmsfiles/contents/0000221/221834/jyuten2019.pdf>
(2019年8月16日)

Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～ 文部科学省
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1405844_002.pdf (2019年8月1日)

“未来の教室ビジョン” 経済産業省
https://www.meti.go.jp/press/2019/06/20190625002/20190625002_01.pdf
(2019年8月1日)

32

SGS (Science Global Studies)
の取り組み

百田 洋

最高の授業とは？

- おもしろいことを
- おもしろがり
- みんなでワイワイして
- もっとおもしろくなる

- 意義のある内容を
- 主体的に
- 対話的に
- 深く学ぶ

- 「サイエンス」を
- おもしろがり
- みんなでワイワイして
- もっとおもしろくなる

ぶっちゃけ、
実際の授業は？

- おもんないことを
- 毎日やらされて
- 疲れる
となっていないか？

解決策はあるか？

ありました！

SGS とは？

SGS (Science Global Studies)

- 1年特Aが土曜午前に探究活動
- 科学的思考力
- グループ研究、プレゼン、論文作成
- 京都先端科学大学の先生方と連携

【年間計画】



ハレ と ケ

知っていますか？

七五三 と ブランコ



特別なやつ と いつものやつ



ハレ 非日常 と 日常 ケ



解決策は



非日常 と 日常



「ハレ」と「ケ」と「ケガレ」

- 日常生活を営むための「ケ」のエネルギーが枯渇するのが「ケガレ(褻・枯れ)」
- 「ケガレ」は「ハレ」の祭事を通じて回復する

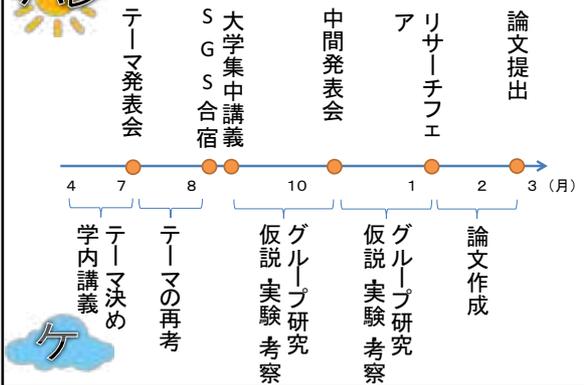
民俗学者 桜井徳太郎

「非日常」と「日常」と「疲れ」

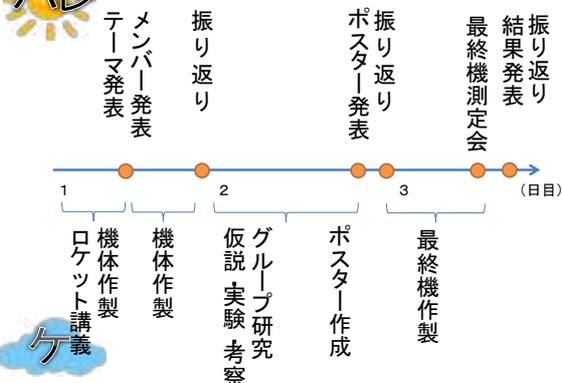
- 日常の「疲れ」は「非日常」の祭事を通じて回復する



⇒毎週ある「授業の疲れ」は
「非日常」の祭事を通じて回復する。



【SGS合宿】ペットボトルロケットを作る2泊3日



非日常 と 日常



 
試合 と 練習

 
試験 と 勉強

 
文化祭 と 準備

 
リトリート と 授業

普段の授業(ケ)に
効果的なハレを！

学校行事(ハレ)に
効果的なケを！

- おもんないことを 2年前のリトリートで解決!
⇒おもろいことをしよう
- 毎日やらされて
- 疲れる NEW!
⇒効果的な「ハレとケ」

図書館教養講座「京都学園からカエル 世界がカワル」

朝日新聞

2019年(令和元年)
8月20日
火曜日

SDGs 授業記念版
発行
朝日新聞
大阪本社
代表室CSR推進
TEL.06-6201-8700

SDGs 授業
京都学園中学校・高等学校
〒601-8036
京都市右京区
花園寺ノ中町8
TEL.075-461-5105

世界の課題へ みんなで一歩



図書館教養講座「京都学園からカエル 世界がカワル」のSDGsの授業の様子。生徒たちは積極的に参加している。



朝日新聞社の取り組み

朝日新聞社は、貧困や教育、気候変動など世界が直面する様々な課題を2030年までに解決することを目指すSDGs（持続可能な開発目標）に賛同し、2017年1月から、キースターの目標を軸に、年々ナビゲーター版に迎え、大企業企画「2030 SDGs」で変える。など紙面やデジタルでSDGsに関する報

生徒は「SDGs」を「持続可能な開発目標」として、図書館教養講座「京都学園からカエル」世界がカワルと題した特別講座が、京都学園中学校・高等学校で行われた。日程を振り返り、前半は1年からの振り返り、後半は中学生のクラス約50名が参加し、参加者は身近な課題から世界の課題までワークショップを通して考えた。SDGsの「誰ひとり取り残さない」という理念を理解するために、1つめのワークショップとして、「イマココ」をテーマに、17分野から課題を解決する過程を体験し、参加者は、チームに分かれて「問題」や「問題」のカードを使い、「ゴール」条件の成立をささげながらプロジェクトを進めた。ゲームが進行するにつれて、世界の経済や環境、社会の発展が刻々と変化し、経済の発展がもたらしたパンパンスナ状態に陥った。そこで、参加者は、自身のゴール条件の達成を目的とするのではなく、グループの様態を互いに助け合う「世界」の状態を改善し、持続可能な社会を築いていく。最後は経済・環境・社会のつながりや、SDGsをより深く知り、経済や社会、環境などの課題を解決し考えた。SDGsをより深く知り、経済や社会、環境などの課題を解決し考えた。SDGsをより深く知り、経済や社会、環境などの課題を解決し考えた。

～SDGsで世界に目を向ける、自分を見つめ直す～ 山田 尊文 教頭

先日、ニュースを見ていると、ベトナムのある農村がプラスチックごみで埋められているという衝撃的な映像が目に飛び込んできました。この村では、経済的な理由から高収入のリサイクル業に転じる人が増えて、世界中からプラスチックごみが集まっています。もちろん、日本から輸出されるプラスチックごみもあります。弁当のカップ、トレイ、ペットボトルのキャップ、コンビニやスーパーのビニール袋。再利用できないものは焼却処分や川に不法投棄されます。さらにそのごみは海へ流れ込み、海洋汚染につながる可能性があります。ベトナムでの出来事は、実は私たちの生活にも直結しているのです。

21世紀の世界は驚異的な速さでグローバル化が進んでいます。グローバル化とは、私たちが世界とつながること。図書館教養講座を受講した中学3年生の皆さんは、6月に研修旅行でカナダを訪問し、多様性を認め合う社会を目の当たりにし、日本の違いを肌で感じたことでしょうか。国同士の行き来による、目に見えるつながりはもちろんですが、中には、目には見えにくいつながりもたくさん増えています。地球温暖化、貧困や飢餓、経済格差などのグローバル・イシュー（地球的な課題）は、国境を越えて、世界の人々から知恵を出し合い、協力して解決しなければならぬものばかりです。

学校の学びでSDGsの視点を取り入れることで、子どもたちが世界に目を向け、自分を見つめ直すきっかけになると信じています。一人ひとりの意識を変える、そのことが組織や社会に変革をもたらすのです。より良い未来をデザインするのはみなさん自身です。本校での授業や研修旅行、地球学などさまざまな学びを通して、未来を担う皆さんが21世紀（2030年）に世界を牽引するグローバルナビゲーターになってほしいと願っています。



イベント・プレゼント・アンケート・グッズ一覽

朝日ID by 朝日新聞社

朝日新聞社が実施するイベント募集やアンケート、プレゼント応募、グッズ販売のご紹介ページです。

カテゴリ別
有料イベント・無料イベント・プレゼント・アンケート・グッズ販売・テーマ・地域

朝日新聞 EduAは、(スマホ)

学齡期の子どもを持つ保護者のみなさんと、学習や教育に関する様々な迷いや悩みを共有し、よりよい選択を共に考えるメディアです。

2020教育改革にともない入試かわります。EduAは「お役立ち」の教育情報を掲載！
ご家庭でできる新聞活用方法も必見です。

- イチャかわり入試特集
- 充実の教育連載&コラム
- 読解力アップ! 新聞活用方法
- など内容盛りだくさん!

ウェブサイト EduA 検索
https://edua.asahi.com/

朝日新聞・朝日小学生新聞の購読及び無料お試し読みについてのお問い合わせは 0120-33-0843 (受付 7時～21時)

京都学園中学校・高等学校

7班 現代の人種差別

現在、世界には数多くの人種差別が残されている。黒人への差別、白人至上主義的な考え等も現在では否定されているとはいえず、未だに完全に解決されているとは言えない。では、何故人種差別の考え方が否定され、何年も経った今でも人種差別は無くならないのだろうか。

その考え方を無くし、人種差別という問題を解決できる唯一の手段は、根本的な教育であろう。現代における人種差別の殆どは昔の考え方が尾を引いているものと考えられる。親から子へ、子から孫へとそのような考え方が伝わり、その考え方に染められた子らはまた差別的な感情を持つ。これを断ち切るには、しっかりと学校等で差別という考え方を否定し、他者の尊重をできる人間へと育てなければならない。更に、貧困地域等への教育を充実させ、全世界から差別を無くす事ができれば、SDGsの理念にもある「No one will be left behind」を達成できるだろう。

中学3年1組
奈尾 拓真・苅屋 幸乃・
山本 海鈴



1班 子供の労働

この前、第三学年のみんなで『2030 SDGs』というカードゲームをした。色々なカードがある中、『子供の労働』というカードが気に入った。これは『2030 SDGs』の中では珍しく『時間』が手に入る、お得すぎるカードだった。このゲームを終えてから私達はこのカードの恐ろしさに気付いた。これまでは、なぜ雇用主が子供を強制的に労働させるのかを理解しようとして頭に悩まして否定してきていた事に気付いた。確かに子供に労働させることにはメリットがあった。しかし、教育を受ける機会がなくなると、大人になり、大人になっても搾取され続ける未来しかないというのには余りにも酷い。そこで開発途上国はまず教育を義務化するべきだ。教育を施すのは来年の収穫を期待して畑に種を撒く事と比べると変わらない。ただ、目に見えるか見えないかという違いだけだ。もし目先の利益に流されて種を食べてしまると、未来には飢えが待つだけになってしまうだろう。

中学3年1組
井上 笙・阪下 輝来・
中井 陽太



8班 捨てる概念を「捨てる」

日常生活で「捨てる」ということは誰しもが意識なく行っていることである。だが最近、海にマイクロプラスチックゴミがふられて、生態系に影響をもたらしていることで問題になっている。このことをきっかけに、プラスチックゴミを減らすように、プラスチックストローを廃止したり、レジ袋を紙製のものに変更したりと企業や消費者も意識するようになってきた。

『捨てる概念を「捨てる」』、そのキャッチコピーで、社会から出るゴミを減らそうと活動している企業がある。テラサイクルという企業は、リサイクルが難しいものでリサイクルに挑戦している。その最たる例がタバコの吸い殻を肥料としてリサイクルするのだ。私達も「捨てる」前に、何かにリサイクルできないか、発想の転換によって、ゴミをアップサイクルすることで、もっとゴミを減らすことができ、地球の資源を守ることに繋がると思う。

中学3年1組
岡野 晃生・藤井 千聖・
杉浦 夏碧



2班 持続可能な「川」

私たちは1日に約300リットルの水を使用している。そのうちの99%は体、衣服、使用した皿などを洗ったりしている。だから、私たちは、汚れている水は使用せず、きれいな水を大量に使用している。カンボジアのトレンサップ湖では、10万人が湖の浮かぶ家で暮らしている。ここでは生活に必要な水は、湖から得て排水などはそのまま湖に流している。現在その水を飲んだ子供が病気に苦しんでいる。そこで、湖の汚染を食い止めようと、水上浄水設備ハンディボットを普及するプロジェクトが始まった。排水などに含まれる有害物質をドラム缶内で処理し、植物や微生物の働きによって吸収・分解する仕組みだ。地元にある素材でつくることができ、比較的値段も安い。多くの水上生活者が取り入れてくれれば生活に役立とうだろう。普段何気なく流してしまっている生活排水の汚れを少なくし、再利用することはできないか。こうした発想が水環境生活を守ることに繋がらう。

中学3年1組
岩谷 采音・田代 輝・
山下 莉咲子



9班 「差別」に向き合う

世界では多くの人々が差別によって、それぞれの人が痛み、苦しみを、悲しい思いをしている。差別にも様々な種類がある中で、私達は人種差別に向き合った。人種差別は、肌の色など顔などところまで見た目の違いで差別される。実際に日本においても、見た目や判断した嫌がらせやいじめが起こっている。差別の対象は、年齢に関係なく、小さい子から大人まで幅広い。

私達に「世界を変える」という大きな動きはできないが、小さな行動ならたくさんできる。例えば、差別を受けている人やいじめられている人を見た時、周りの人が一人でもその人に寄り添ってあげれば、つらく悲しい気持ちも和らぎ、心の落ち着きを取り戻すことができるにちがいない。そうしたいよとした心がけが、人の救いになる。一人ひとりが差別に向き合うことで、人と自分との違いを気にしなくなり、平和な世界になることを願って。

中学3年2組
青木 佑紀・ゆめ・
石原 康成



3班 ハイヒールは誰のため？

「#KuToo」は、ハイヒールを強制的に履かせるなどということに異議を唱える運動である。海外のメディアで大きく取り上げ話題となった。このことから、日本のジェンダーへの理解が進んでいると思わがちだが、実は日本のジェンダーシップ指数は2018年で110位とG7の中では最下位だった。アメリカではハリウッド女優のアリッサ・ミラノさんがツイッター上で始めた #MeToo運動により、アメリカの様々な有名女優が声を上げ始めた。その結果、例えばピクサー社の有名プロデューサーのジョン・ラセターが半年間の謹慎の末、辞任するなど反響が大きい。このように、アメリカ国内のジェンダーの問題は改善されつつあり、ジェンダーシップ指数は51位を保っている。日本のジェンダー問題を解決するには、身近なところから考えることが大事だと思う。ハイヒールは誰のために履いているのか？一度考えてみてほしい。

中学3年1組
倉田 侑馬・竹本 朱里・
星野 帆貴



10班 世界の貧困をなくすには

世界の貧困をなくすために、今まで多くの人々が解決策を考え行動してきた。しかし、現状は打破できていない。なぜだろうか。もちろん、この問題を解決するうえで、世界の国々の協力は欠かせない。そして、貧しくて生活に困っている人に寄付や物資の供給をするという直接的な支援という方法もある。しかし、この方法では、支援が途絶えてしまうと、また貧困状況に戻ってしまう。だからこそ、継続的に活動できるように、貧困地域みずから立ち上がり、自分たちで食料やお金を得る手段を身につけなければ、根本的な解決にはならない。とはいうものの、貧困地域の人々は今の生活をやりくりするだけで精一杯で、よりよくするために行動するまで手が回らないから、世界の貧困を脱却するのは難しいのだろう。世界から貧困がなくなることで、すべての人が望み、少しずつでも行動していけば、きっと世界は素晴らしいものになるはずだ。

中学3年2組
井上 瑞稀・勝井 勇樹・
川田 瑛基



4班 「売れ残りゼロへ」

私たちの身の回りには、大量の商品であふれかかっている。これらの商品は、生産されても、すべてが消費されるわけではない。消費されなかったものは、一度も使われないうちに、ゴミとして捨てられていく。これらのゴミをいかに減らすのか、世界中で、常に議論されている。この問題を解決するためには、作る方も使う方も責任を持つことが必要だ。そこで、世界の人々が「つくる責任・つかう責任」を持てるようにするには、どうすれば良いのだろうか。今の消費社会では、販売するお店から業者へほしい数の商品を注文して、消費者へ売るという形式だ。しかし、この方法では、必ず売れ残りの商品が出てしまう。売れ残りをゼロにするために、例えば、消費者が業者に直接注文するオーダー制にするといった、商品の入手方法を変えるだけでも、商品の作り過ぎによるゴミを減らすことができるのではないだろうか。

中学3年1組
下川 日向・松木 柚衣・
山下 弘登



11班 木材伐採の現実を知って

木の伐採のし過ぎで資源が減少しつつあると聞き、どのくらい減っているのか調べてみた。世界において、1990年は森林の面積が14億haだったところ、2019年には13億haと、約20年間で、1億haも減少していることが分かった。1億haと聞いてあまりピンとこなかったもので、どのくらい大ききか単位換算をしてみた。1ha=100m×100mなので1億haだと、1,000,000m×1,000,000m=1,000,000,000,000m、つまり1,000km×1,000kmということになる。1,000kmというと東京から札幌ぐらいの距離になるので、あまりの面積の大きさに大変ショックを受けた。ダムを例に出すと、ダムに降った雨はそのまま溜まるが、ダムの横にある森林に雨水が浸透すると、木が水をきれいに流してくれるので私達の暮らしに木材は欠かせないものである。木は生活に欠かせないものなので、未来の人々のためにも、新たに木を植えることで、資源として、環境保全として役に立つように、将来に残していきたいと思う。

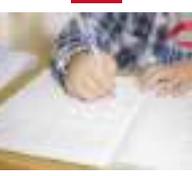
中学3年2組
坂口 克磨・澤邊 あかり・
高橋 要



5班 すべての人に学ぶ機会を

僕たちが住んでいる日本では、すべての子供が教育を受ける権利を持っている。しかし、世界では学校に通えない子どもたちが約6100万人もいる。また字の読み書きができない15歳以上の人は世界に7億人以上いるという現状である。また、教育を受けることは大人になって生きていくために必要なことである。そこで性別や経済力、年齢に関わらずすべての人が質の高い教育を受けられるようにするにはどうすればよいか。まずは性別を解決することが必要だ。例えば、海外では、女性は学校に行かずに家で仕事をするという考えがある。女性も教育を平等に受ける権利があることを知らなければならないし、意識の変革が必要だ。そして学校の教員の知識や技術不足、学習環境を見直さなければならない。すべての人が、よい教育を受けるためには、教員、親、地域の人が協力して話し合うべきだ。教育の大切さをみんなに理解してほしい。

中学3年1組
児玉 智哉・田代 晴菜・
松本 翔太



12班 生物の減少を防ぐには

1970年と比べると現在は「生きている地球指数」が58%低下している。特に熱帯地域では60%も低下しており、生物の多様性が脅かされている。絶滅危惧種の実に10種以上が温暖化の影響によることが発覚した。野生動物の虎の生息地では環境破壊が絶えず個体数の減少が拍車をかけている。また、その美しい毛皮や漢方薬の原料とされる骨を狙い密猟が繰り返されてきた。虎を絶滅に追い込んでいるのは薬や装飾品を求めたいのは森を伐採している「人間」なのだ。WWFでは現地の政府と協力して密猟の監視と罠の撤去を目的としたパトロールを実施し、野生動物の国際取引の監視などを行っている。さらに保護地域の設立やレンジャーの育成など生息地を守る活動も展開している。WWFのロゴマークはパンダである。みなさんどこかで見たことがあるだろう。例えば、ネピアの商品にもついている。このようなWWFの活動を支援している企業の商品を買うことも生物の減少につながるだろう。

中学3年2組
竹藪 大翔・竹下 俊順・
春山 葉



6班 教育と水の関係

世界で勉強ができない人は何人いるか。ユニセフによると、子供の11.5%、1億2300万人いる。しかもそのうちの40%の子供の住む所は途上国に集まっている。そこで彼らの勉強を妨げる障壁がある。それは水だ。途上国にはインフラや水道設備が整っていない。女性や子供が長い距離を自分で歩いて水くみ場に行く必要がある。人間の生命線である水は勉強を諦めてまでもしなければいけないことだ。だから、子供に満足な教育を受けさせるためにはまず、水の問題を解決しなければならない。途上国では水に関する設備があまり整っていない。全ての国はまず、水道設備を整備すべきだ。安全な水が飲めなければ健康を害し、その命をも危険にさらされる。それ故水はSDGsの17の目標全てを支える重要なものだ。我々日本人は水資源が豊富である。しかし、地球上の水の0.01%を世界70億人と共有していることを忘れてはならない。

中学3年1組
道上 雄海・春本 萌香・
嶋村 康



京都学園中学校・高等学校

A班 食べ物から見る本当の豊かさ

あなたは食料問題が途上国だけの問題と見ていいだろうか？
 今、食の豊かな先進国では肥満や生活習慣病が深刻な問題となっている。だから食料問題というのは、飢餓と肥満という一見、相反する2点を同時に解決していかなければならない。この問題は、一方的な援助や寄付では持続可能なシステムを構築できない。だから、互いの利益も考えた取り組みをする必要がある。
 この解決策として、学校の学食などを利用したTable For Twoというものがある。これはヘルシーメニューを1食食べることで、アフリカに食料1食分の20円を寄付できるシステムである。ヘルシーメニューを指定するため、生活習慣病にも有効なのだ。京都学園高校でも取り組まれ、高校生に質の高い食事が提供され、勉強や部活動にもよい効果が期待されている。同時にアフリカへの寄付が達成され、両者のwinwinも成功した。このようにSDGsにはあなたの身近なことを世界の貢献へと変える力があることに気づいてほしい。

- (高校2年 寺尾 皓)
- (高校1年 黒川 颯太)
- (高校1年 吉田 開)



13班 「未来を変える水」

Warka Water (ワルカウォーター)とは、電気を使わずに大気中の霧や雨露を集めて飲み水を確保できる装置である。アフリカのエチオピアには清潔な水が得られない人がたくさんいるため、空気中の水蒸気を目をつけ、ここを水源として水を集めることが考えられた。
 この装置は、ナイロンやポリプロピレンなどの繊維でできた網に、水滴をくっつけられる仕組みで、一日100リットル程度を集めることが可能である。低コストで移動も簡単なことから、他地域への広まりも期待されている。他のプロジェクトも進行中だという。この取り組みがもっと広まれば、世界で水を簡単に手に入れない人が減っていくだろう。
 まず、どのような地域が水不足もしくは安全な水が手に入っていないかを知ること、そして、そのような地域にこのプロジェクトを広められるように、多くの人がサポートできればと思う。

- (中学3年2組 日置 心乃・竹村 賢)
- 中川 正宗



B班 土台からではなく、地面から

世界各地でみられる違法採採を防ぐために、国際NGOは、生物多様性ホットスポットを優先的に保護していく運動を行っている。生物多様性ホットスポットとは、多様な生物が生息し、急速に自然破壊が進んでいる地域である。その地域に指定された場所として、マダガスカルやスタンランドの他、なんと私たちの住んでいる日本列島も含まれている。日本で「違法採採」が行われている事実を知っている人はどのくらいいるだろうか。私達は、日本でも、このような活動に取り組まれていることを知るべきだと思う。そして、身近にできることとして、ごみ拾いなどの地域の清掃活動に尽力するべきだ。
 しかし、私達はもっと重要なことに気づいた。それは、日本人がSDGsに関する知識をあまりもちあわせていないという現状だ。これは日本が先進国でありながら、SDGs後進国であることを示している。まず日本でSDGsを広めること、それが、私たちにできるいちばん身近なSDGsの活動だと考える。

- (高校2年 下村 元普)
- (高校2年 中村 僚二)
- (高校1年 加藤 雄星)



14班 自身に自信を持つために

世界には様々な不平等が存在する。その代表的なものとして性別の差別、人種の差別、貧富の差などがある。東京医科大学でこのような問題があった。女性の点数を一律に減点していた。それは、女性の入学人数を3割に抑えるためであった。2010年前後から行われていたものだと言われた。その理由として育児や家事で病院の仕事量が男性よりも女性のほうが少ないということがあった。このような偏見は、私達の考え方を考えることでジェンダー平等の実現につながると思う。
 差別を受ける当事者に自信をもたせること。問題を社会に訴えること。その2つを可能にする方法の一つとしてシャクティ舞踊団がある。インド社会に根付いている宗教身分制度、カーストの最下層であるダリットの少女たちが美しい衣装に身を包み力強く踊る。踊りを通して、身分や立場を超えて声を上げられる。シャクティ舞踊団のようなものがこれからも増え続け、いずれかジェンダー平等が実現できることを願う。

- (中学3年2組 平山 萌々香・廣田 志帆)
- 中島 裕一郎



C班 日本にいる難民を知って

みなさんは日本に難民がいるということをご存知だろうか。そして、難民にすまなければならない人達がいるということも。その難民にすまなければならない人達は非認定難民と呼ばれ、彼らは収容所に入れられる。そこで理不尽とも言えるような生活を強いられるのだ。また、仮放免という制度によって一時的に収容所から脱することができるものの、就労権がないなどの条件を課せられ、再収容される数も多い。
 私たちは、2019年6月に開催されたG20ユースサミットに参加して、神戸市外国語大学で行われているTRY(外国人労働者・難民と共に歩む会)という活動を知った。ここでは、非認定難民と面会したり、保護したりするなどして彼らを全面的に支援している。
 ここで問題なのは彼らの存在を知っている人が少なすぎるということ。世界平和を願うこの世の中でこれは如何なことであろうか。難民条約にしても改訂の必要性を感じる。もっとメディアによって報じられるべき問題なのではないだろうか？

- (高校2年 林 大貴)
- (高校1年 鮫島 良太)



15班 無駄な食材を減らすには

皆さんはご存知だろうか？日本では賞味期限が過ぎたものだけでなく、期限切れ間近の商品も、すぐに捨てる習慣がある。日本の賞味期限は、半日ほど短く設定されているため、日本は食品ロスの割合が世界上位を占めている。2017年での軌道人口は8億2,100万人にも上る。この現状を変革することはできないのだろうか。日本の飲食店では、大量に仕入れることで、お客さんに頼む確率が低かったメニューの食材が、何も手をつけられていないまま、無駄に捨てられている現実がある。そこで私たちが提案するのは、今話題になっている「食品ロス防止アプリ」の活用だ。「TABETE」というアプリは、石川県金沢市で実施されていて、余った食材を利用して調理することで、とても安く提供されている。このような取り組みを全国に広げて行くことで、食品ロスを少しでも防げる。一人ひとりでの取り組みを知ること、そして実際に使うことから始めたい。

- (中学3年2組 藤田 和馬・藤田 更紗)
- 堀 慶吉



D班 地球が抱える深刻な水問題

「24億人」これは、世界中で「安全で衛生的なトイレ」を使えない人の数だ。日本では当たり前なことでも、そうではない国もある。24億人のうち、9億5千万人は屋外で排泄する生活を余儀なくされている。また、その環境が原因で幼い子どもが1日に800人も命を落としている。衛生面こそ整っているものの、日本も人ごとではない。食事やトイレの生活用水で、水に頼りすぎている現状がある。災害の多い日本は、異常気象による渇水や地震による断水に、どう向き合っていくべきなのだろうか。
 まず、日頃から「もったいない」を意識し、いざという状況を想定して備えるべきだ。それが、「有限の水」を保全することに繋がる。日本の「LIXIL」が開発した簡易式トイレ「SATO」は、設置が簡単で洗浄に使う水もごくわずか。多くの人々に役立っている。限りある資源をどう分け合い、保っていくのか、これは地球規模での課題だ。誰ひとり取り残さず、美しい水を使うためには、まずは1人ひとりが現状を知り、主体的に行動するべきではないだろうか。

- (高校1年 宮井 ちひろ)
- (高校1年 林 ちはな)
- (高校3年 山本 莉子)



16班 GENDER QUALITY

今は、性別や国籍、家計によって差別が起こりうる時代だ。差別を批判するデモやプロジェクトが行われているものの、すべてなくなることはない。どうすれば、少しでも減らすことができるのだろうか。
 パワハラ又はセクハラをされたことがあるというアンケート調査で「ある」が38%と、約4割の人が受けたことがあるということがわかった。パワハラやセクハラをされる理由は様々だが、それでも性別や国籍などによって差別されるのは、絶対に許されないことである。
 この課題を解決するためには、一人ひとりが、人々や国同士を尊重しあい、「女性なのに」や「日本人じゃないくせに」などの差別を思わせるような言葉や発言をしないことが大切だ。この言葉を聞いたら相手はどう思うかという気遣いの心と多様な生き方、考え方、価値観を認め合うことこそが、平等への第一歩といえるだろう。

- (中学3年2組 武藤 啓倫・村田 朱里)
- 森 美月・山岸 都斗



E班 日本の課題にも目を向けて

私たちの班は、南米やアフリカなど発展途上国の生活をよりよいものにするにはどうすればいいかについて考えた。まず、「貧困をなくそう」という目標を達成するために、私たちができることは募金をしたり、フェアトレードの商品を買ったりすることが挙げられる。「飢餓をなくそう」という目標については、先進国で消費されなかった商品を発展途上国に送ったり、京都学園高校も行っているおにぎりプロジェクトなどの取り組みを行うなどして給食を送ったりできる。「質の高い教育をみんなに」という目標では、遠隔授業を行うことで、先進国の先生が発展途上国の生徒にも教育することだって可能だろう。
 しかし、SDGsの達成に向けて、海外ばかりに目を向けてしまうのは少し着眼点が違うと思う。日本でも、貧困や飢餓、十分な教育を受けられていない子どもがいるのだ。海外のことだと思って、距離を置くのではなく、まずは私たちの身の周りの問題に目を向け、手を差し伸べていくことから始めるべきだと思う。

- (高校1年 大川 ゆうか)
- (高校1年 今井 彩寧)
- (高校3年 林 里奈)



「2030SDGs」から見える世界の課題



伊吹 侑希子

京都学園中学校・高等学校がある京都市は、日本経済新聞の「全国市区・サステナブル度・SDGs先進度調査」(2018)において、1位と紹介されました。皆さんにそのような実感はあるでしょうか。また、「SDGs」の課題に取り組もうと奮起しても、心のどこかで中高生の行動によって、世界の潮流を変えることは難しいと諦観してしまいがちな「自分ごと」として捉えられていない部分もあるのではないのでしょうか。
 社団法人イマコラボによって開発された「2030SDGs」は、さまざまな価値観や違う目標を持つ人々の世界で、SDGsに掲げられた目標をどのように実現していくのか、現在から2030年までの道のりを体験するゲームです。
 参加した生徒たちは、ゲーム形式の楽しみやすさから夢中になって取り組む中で、ゴール条件の達成という目標に向かって活動をしている際、周りやどのような状況が見えなくなってきたことに気づき、その行動は現在の「世界」の状況と同じであることを認識しました。このゲームでは、世界の状況を「経済」「環境」「社会」の3つの要素に分けていますが、人々が自分の得や欲望を満たすことだけを考えようとして、「経済」ばかりが発展し、世界は不安定・不平等が広がり、皆が幸せにならず、豊かな世界を形成できないことも体得しました。
 SDGsに掲げられている目標をクリアするには、金銭的な支援や人々のアクションも必要ですが、根本として、相手を思いやり、自分以外の人も幸せになれるように、どう行動するかを常に念頭に置くことが大切といえます。このことは、SDGsの理念である「No one will be left behind(誰ひとり取り残さない)」につながります。この視点をもち、このゲームで、これからどのようにSDGsに関わっていくのか、世の中の課題に対してどう解決すればいいのか、そのヒントがみえてくるでしょう。

F班 私たちにできる貧困解決

アフリカではなぜ貧困が解消されないのだろうか。ユネスコによれば現在学校に通えない子供たちは世界中で約6700万人いるとされている。この原因として学校が少ないことや働く子供が沢山いること、教育費が払えない、教育の重要性が理解されていないなどが挙げられる。他にも衛生面や栄養不足など様々な原因によって貧困の悪循環に陥っているのが現状だ。
 では、貧困を解消するにはどうすればいいのだろうか？募金活動というものも考えられるが、貧困問題解決には25万円ほど必要と言われており、募金だけでは到底、解決できない。だから、まずできることとして、貧困の現状を知り、身近な人と深く考え、周りに広めていくことだと思う。たとえば貧困問題について何十年、何百年かかるとしても、一歩一歩着実に進めることしかないだろう。私達はとても裕福な国に住んでいることを理解し問題意識を共有することで解決までの時間は短縮されるはずだ。

- (高校1年 川窪 琉生)
- (高校2年 松尾 知恵)
- (高校2年 橋路 知樹)





2019年度 公開研究授業大会

授業が変われば、社会が変わる ～京都学園中高で取り組むSDGs～



今年度の公開研究授業大会では、どの教科もSDGsをテーマに据えて教材研究を重ね、公開研究授業を実施する運びとなりました。SDGsにご関心のある先生方、ぜひご参加ください。

1. 日 時: 2019年11月19日(火) 13:00～17:00

2. プログラム 13:00～13:15 開会のご挨拶 【場所】翠嵐館ホール
 13:30～14:20 I部 公開研究授業 【場所】各教室

申込番号	1	2	3	4	5	6	7	8
教科	国語	英語	数学	理科	社会	美術	情報	保健
授業者	伊吹侑希子 坂本智子	金田向平	梅村大貴 谷澤篤志	百田 洋	高田美菜	米田実	大西庸平 木村恒隆	前田浩志
対象学年	高1	高2	高3	高3	高1	中1	高2	高1
取り扱う 目標番号								

14:30～15:10 分科会 【場所】各教室

15:20～16:50 II部 講演・ワークショップ 【場所】翠嵐館ホール

演題「SDGsを題材にした探究学習」

講師: 保本 正芳 氏(近畿大学)

〈講師紹介〉 近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻・1974年大阪生まれ。
 地上及び衛星データを活用した大気環境分析に関する研究などに従事。2002年『日本リモートセンシング学会論文奨励賞』
 受賞、日本リモートセンシング学会、日本エアロゾル学会、国際ICT利用研究学会などに所属。近著に『自分ごとからはじめよう SDGs探究ワークブック』(noa 出版,2019)がある。

* 17:00 から希望者には情報交換会を予定しております。

◇申し込みは 11月14日(木)までにお願い致します。

申込用紙は本校ホームページに掲載しております。

FAX(075-461-5138)にて申し込みをして下さい。

ご質問などがございましたら、教頭 山田^{たかふみ}尊文までご連絡下さい (TEL075-461-5105)。

【研究授業概要】

SDGs 目標 	授業番号：1 ☆教科：国語総合（古典）			
	対 象	特進 BASIC コース 1年6組	担当	伊吹 侑希子・坂本 智子
	主 題	らしさって何？「和歌」から読み解くジェンダー		
概 要	教科書に掲載されている作品とグループごとに示された作品をもとに、『万葉集』『古今和歌集』それぞれの歌風「ますらをぶり」「たをやめぶり」について、SDG5の「ジェンダー」の視点から考察し、根拠・理由・主張の3要素を踏まえた論理的思考力を育成する。			

SDGs 目標 	授業番号：2 ☆教科：英語表現 I			
	対 象	特進 BASIC コース 2年6、7、8、9組	担当	金田 向平
	主 題	ジェンダーとは？世界と日本の違いを知ろう。		
概 要	英語学習だからこそ海外に目を向けて、ジェンダーについて考えていく。そして、海外を知るからこそ日本の知識も深まる。海外研修を経験したクラスだからこそ、一歩進んだ内容に踏み込んでいく。			

SDGs 目標 	授業番号：3 ☆教科：数学			
	対 象	3年文系（数学演習Ⅱ履修者）	担当	梅村 大貴・谷澤 篤志
	主 題	格差を数学で解明しよう		
概 要	社会システムを、数理モデル等を用いて構築し、世界に蔓延る格差問題についてシミュレーションを行います。そこから見えてくる問題点を認識し、解決策を見出しましょう。			

SDGs 目標 	授業番号：4 ☆教科：物理			
	対 象	高校3年特進 ADVANCED コース	担当	百田 洋
	主 題	熱機関で考えるエネルギーの効率		
概 要	複数の熱機関の仕事率を計算し、比較することを通して、エネルギーを無駄なく有効に活用する方法について考える。			

SDGs 目標 	授業番号：5 ☆教科：現代社会			
	対 象	特進コース ADVANCED コース1年4組	担当	高田 美菜
	主 題	法の下の平等		
概 要	法の下の平等を SDGs5「ジェンダー平等」に焦点をあてて取り組む。男女平等に関する現在までの取り組みや法律を学びながら、アクティブラーニングを取り入れて実質的な男女平等について考えていく。			

SDGs 目標   	授業番号：6 ☆教科：美術			
	対 象	中学1年	担当	米田 実
	主 題	アートで広がる環境メッセージ		
概 要	いま環境を考えた文具・商品が様々な部門で考案されています。今回、環境に配慮された消しゴムを使った共同ワークショップを行い、海や環境の大切さについて大きな作品を通じてメッセージを伝えます。			

SDGs 目標   	授業番号：7 ☆教科：社会と情報			
	対 象	進学コース（部活動クラス）2年13組	担当	大西 庸平・木村 恒隆
	主 題	～特別授業 プログラミング教育～ アイデアを形にできる IoT ブロックでモノづくり体験		
概 要	IoTブロック（ソニー-MESH）を活用して「健康・防災」をキーワードに人々の暮らしを豊かにする「モノ」を考案する。課題解決力・プログラミング的思考力・コミュニケーション、コラボレーション能力を育成することを目的とする。			

SDGs 目標  	授業番号：8 ☆教科：保健			
	対 象	進学コース1年9組	担当	前田 浩志
	主 題	～WFP～ 世界の貧困と飢餓		
概 要	レッドカップキャンペーンを含め、WFP世界食糧計画が取り組んでいる内容を理解し、世界における、貧困と飢餓の状況を知ること、食料の大切さを痛感し、現状、そして未来の生活を見直す機会を作る。			



2019年度 京都学園中学高等学校 公開研究授業大会 研究授業指導案

1. 日 時 2019年11月19日(火) 13:00~17:00 (予定)
【場所】翠嵐館ホール
2. プログラム 13:00~13:15 開会のご挨拶
13:30~14:20 I部 公開研究授業
【場所】各教室 (下記ご参照ください。)

申込番号	1	2	3	4	5	6	7	8
教科	国語	英語	数学	理科	社会	美術	情報	保健
授業者	伊吹 侑希子 坂本 智子	金田 向平	梅村 大貴 谷澤 篤志	百田 洋	高田 美菜	米田 実	大西 庸平 木村 恒隆	前田 浩志
対象学年	高1	高2	高3	高3	高1	中1	高2	高1
授業・分科会 会場	中教室	特進棟3階 選択教室 A35	3号館1階 選択教室 AB	3号館1階 選択教室 CD	3号館2階選 択教室	翠嵐館1階 第2美術教室	翠嵐館2階第 2PC教室	翠嵐館3階 多目的室
取り扱う 目標番号	5	5	10	7	5	12, 14, 15		1, 2

14:30~15:10 分科会 【場所】各教科研究授業と同じ教室で行います。ぜひご参加ください。

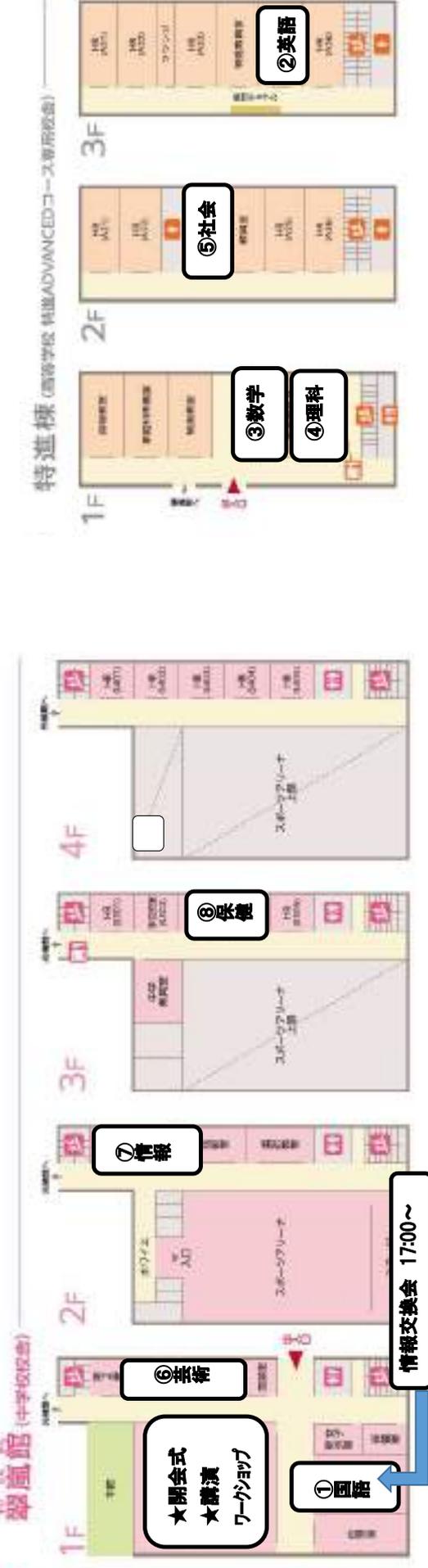
15:20~16:50 II部 講演・ワークショップ 【場所】翠嵐館ホール

演題 「SDGsを題材にした探究学習」 講師：保本 正芳 氏 (近畿大学)

17:00~中教室にて、アンケートにご協力くださいようお願い申し上げます。

お願い：本大会について、アンケートにご協力くださいようお願い申し上げます。受付の箱にご提出ください。

【会場案内図】



【国語科・芸術科】学習指導案

指導教諭 国語科 伊吹 侑希子

芸術科 坂本 智 子

1. 対象：特進 BASIC コース 1 年 6 組 (男子 19 名・女子 17 名 計 36 名)

2. 科目名：国語総合 (古典) 2 単位

3. 単元名：らしさって何? 「歌」から読み解くジェンダー

4. 教材名：万葉集・古今和歌集 (使用教科書：精選 国語総合 古典編 改訂版 [筑摩書房])

5. 単元について

< 研究主題 >

教科横断的な視点を取り入れた授業展開ができるように、古典教材と関連性の深い芸術科(書道)に着目し、一年間を通して国語科と芸術科の教科を横断した授業プログラムを考えた。7 月は、『伊勢物語』[芥川]の学習を發展させて、芸術科の坂本先生にお手本を書いていただき写本を作成した。そして、11 月は歌を取り上げ『万葉集』『古今和歌集』を学習材とし、修辞を含め学習した。

この学びの發展学習として、江戸期に活躍した賀茂真淵によって提唱された『万葉集』の歌風「ますらをぶり」と『古今和歌集』の歌風「たをやめぶり」をふまえ、男はこうあるべき、女はこうあるべきという性別による価値観が現代にも受け継がれているのか、それとも変化しているのか考察する。その方法として、新聞記事データベースを用いて、SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」にまつわる課題を探し、「根拠・理由・主張」の3要素を踏まえ考察し発表原稿をまとめる。そして、短冊に和歌を万葉仮名で書くことで書道の鑑賞も行う。

< 本単元で身につけたいスキルと学習活動 >

- ①和歌の修辞や表現を理解する。
- ②『万葉集』『古今和歌集』の特色について理解する。

6. 単元目標

教科書に掲載されている作品とグループごとに示された作品をもとに、『万葉集』『古今和歌集』それぞれの歌風について考えることを通じて、歌から読み解けるジェンダーについて、根拠・理由・主張の3要素を踏まえた論理的思考力を育成する。

7. 単元の評価規準

- 関 和歌の内容に関心を持っているか。
- 書 和歌を読んで感じたことを自分の意見として整理することができるか。
- 読 和歌の主題・作者の心情・時代背景について理解しているか。
- 知 『万葉集』『古今和歌集』について理解しているか。

8. 単元指導計画

(配当全5時間)

時限	学習活動	指導上の留意点
第1次 1~2	教科書に掲載されている万葉集・古今和歌集について学習を行う。	一首ずつ解釈・鑑賞を通して、『万葉集』『古今和歌集』それぞれの歌風の特徴や相違・変遷について理解する。
第2次 3~4	【協働学習】教科書教材をふまえ、グループごとに割り振られた歌について話し合い、新聞記事データベースより現代の課題を探し、根拠・理由を明確にした上で分析をした発表原稿を考える。グループ全員が短冊に歌を清書し、一番よい作品を発表時に提示する。	根拠となる資料として、新聞記事データベースや辞書・国語便覧を参照する。 ディスカッションの方法を理解する。 万葉仮名について理解する。
第3次 5	グループごとに、担当した歌について分析した内容を発表する。 他グループの発表を聞き、歌から読み解くジェンダーについて考えをまとめる。	『万葉集』『古今和歌集』の歌風について理解を深める。 各グループの書の作品を鑑賞する。

9. 本時の目標(第3次 5時限)

すでにグループ内で意見をまとめているので、この時間では、他のグループが、どのような結論を導き出したか発表を通じて聞き取り、さらに自分たちの考えがどう変わったのか、思考を深める。

10. 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	既習事項の確認	前時間に話し合った内容をもとに、発表の段取りについて確認する。	評価シートにどのような事項を書き込んでいくのか確認する。	
展開 40分	各グループの発表	●グループ内でまとめた文章を発表する。 ●それぞれの主張について、どのようなことを考えたか、質問など発言する。	●発表を聞きながら、評価シートに記入していく。	●グループごとの発表の仕方、聞く姿勢を評価していく。
まとめ 5分	総括	『万葉集』『古今和歌集』の歌風について理解を深める。		評価シートを回収する。

【外国語科】学習指導案

指導教諭 外国語科 金田 向平

1. 対象：特進 BASIC コース 2年6～9組（男子13名・女子16名 計29名）

2. 科目名：英語表現Ⅱ（2単位）

3. 単元名：Gender Inequality

4. 教材名：SDG5 ジェンダーに関して、教員が作成したプリントを使用

出典：ESL library の「Gender Inequality」より引用

5. 単元について

＜研究主題＞

SDGs におけるジェンダーについて、持続可能な開発目標という本来の趣旨に沿って、男性が、女性が、どのようにすれば平等な社会の中でいきいきとすることができるのかということ、今の生達の状況から考えられることを引き出し、社会に対する関心を向けさせる。また、自らが考えた内容を相手に発信し、その考えについてグループで議論することにより、さらにそのテーマについての理解を深めるだけでなく、相手に対する伝え方、自らの意見と他者の意見をまとめ、自らの考えを深めていく。

＜本単元で身につけたいスキルと学習活動＞

①状況に合わせて自らの意見を生み出す判断能力

②他者に対して自らの意見を伝えるというプレゼンテーション能力

6. 単元目標

教師が提示する、ジェンダーに関する社会の状況に対して、グループ内でそれぞれ意見を出し合い、意見をまとめめる。最終的に、まとめた意見をクラスで発表し、他のグループの生徒に基準に従って評価をつけさせる。客観的に状況を判断し、意見に対してグループ内で議論することで自らの意見を深めることができる。また、クラス内でプレゼンテーションをすることで、いかにして他者に自らの意見を効果的に伝えるかを学ぶと同時に、論理的思考力を育成する。

7. 単元の評価規準

それぞれの発表者に対して、①pronunciation②grammar③contents④attitude の観点から、5点ずつの点数をつけ、合計20点で点数をつけ、その平均点を評価点とする。

8. 単元指導計画(配当全5時間)

時限	学習活動	指導上の留意点
第1次 1～2	日本における男性、女性の社会的立場の差と、アメリカ等の海外における男女の社会的立場の差について学習を行う。	指導上の留意点 世界の現状を知ること、今の日本の状況を知ることができ、日本への理解を深め、今の社会に対する意識を深める。
第2次 3～4	日本、海外での男女の社会的立場の差を知った上で、様々な状況を生徒に提示していく。生徒達はグループごとで与えられた状況について話し合い、その状況に対する打開策を提案していく。その後、グループの中での意見をまとめて、プレゼンテーションの準備を行う。	ジェンダーに関して、今の社会の状況を生徒達に示していく。その際、どのようにすればその状況が改善されるのか、グループで話し合わせる。可能な限り英語でディスカッションを行い、英語で相手に意見を伝えていく。
第3次 5	グループ内で意見をまとめ、それを他のグループに対して発表する。発表を聞く側のグループは、評価基準に従って他グループの発表を採点していく。	他グループの発表を聞いて評価することも、自らの成長につながる為、客観的に判断することを促す。また、グループごとのプレゼンを聞き、自らの知識を深めることを促す。

9. 本時の目標(第2次 3時限)

すでに、現代におけるジェンダーに関する内容を英文で読んでいく為、この時間ではグループ内で、現代の状況に対して自らが考えられる打開策を発表していく。また、グループ内で他者の意見を聞き、自らの考えに他者の意見を取り入れ、自らの意見をまとめられるように思考を深める。

10. 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入5分	既習事項の確認	前時間に示した内容を改めて生徒達に確認する。		
展開40分	各グループの発表	グループ内で、自らの意見を発表していく。 それぞれの主張について、どのようなことを考えたか、質問など発言する。	発表を聞きながら、評価シートに記入していく。	グループごとの発表の仕方、聞く姿勢を評価していく。
まとめ5分	総括	今回のプレゼンテーションに向けての注意を行う。		評価シートを回収する。

【数学科】学習指導案

指導教諭 数学科 谷澤篤志・梅村大貴

1. 対象:特進 ADVANCED コース 3 年生 (文系・数学演習Ⅱ履修者) 21 名 (男子 9 名・女子 12 名)
2. 科目名:数学演習Ⅱ (単位数 2)
3. 単元名 「平等社会と格差社会」
4. 単元目標
 - ・自由で公正な競争社会では、格差が生まれてしまうことをシミュレーションを通して理解する。
 - ・モデルとシミュレーションを通して、格差とは何かについて考える。

5.指導に当たって

(1)生徒観
3 年生特進 ADVANCED コースの文系の中で、選択で数学を受講している生徒 21 名で行っている授業である。文系であっても数学を学ぶことの重要性は普段から指導しており、生徒たちもそれを十分理解して、意欲的に授業に取り組んでいる。

(2)教材(題材)観

本教材は、長崎大学教育学部の福田正弘氏の論文「社会化における数理的モデルの認識(2)：小単元『自由・公正な社会は平等な社会か』」を参考にしている。投資ゲームを行い、それによって生まれる所得格差をジニ係数とローレンツ曲線を用いて数値化する。

(3)指導観

今回の授業では、平等に行っているはずのシミュレーションの結果、所得格差が生まれてしまい、不平等が生まれることを実感させる。その上で、格差を無くすにはどうすればよいか、また、そもそも格差を無くす必要性があるのかについても考えさせたい。

6. 本時の指導と評価の計画

(1)本時のねらい

- ・シミュレーションの結果から、所得格差が生まれていることを理解する。
- ・SDG10「人や国の不平等をなくそう」をテーマに、格差の生まれる原因や格差をなくすための方法などについて考える。所得格差について、自分の感覚と、数値化したものを比較して、その違いについて考察する。

(2)準備・資料等

記録用プリント

(3)本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5分	投資ゲームの説明	投資ゲームのやり方を学ぶ	パラメータについての説明を丁寧に行い、資金がどのよう動いていくかある程度想像させる
20分	投資ゲームを繰り返し行う	投資ゲームを繰り返し行い、資金の増え方を観察する	
10分	結果を用いて、グラフを表す パラメータの確認	グラフを見て、どのように格差が広がっていかを実感する どのパラメータが、格差に影響を与えたかを確認する	グラフを表示し、格差となる部分を示しながら、回数を追うごとに変化していく様子を見せる パラメータを変えて、シミュレーションを行う
10分	格差について、議論を深める まとめ	格差が生まれる事のは非や、格差を無くすための方法などを考察する	様々なパラメータを表示して、考えを深めさせる
5分		様々な社会問題を数学的観点からアプローチできることを知る	数学を用いて社会問題にアプローチすること、様々な解決方法を模索できることを実感させる

(4)本時の評価

- ・投資ゲームにおけるパラメータが、結果にどのような影響を与えているかを考察する。
- ・格差について、自分の考えを周りと共有できたかを確認する。
- ・こちらの発問に対して、じっくり考えて発言出来たかを確認する。

【理科】学習指導案

指導教諭 理科 百田 洋

1. 対象：高校特進 ADVANCED コース 3 年生 3・4・5 組 34 名（男子 30 名・女子 4 名）

2. 科目名：物理・物理演習（4 単位）
使用参考書 総合物理①〔教研出版〕

3. 単元名：気体のエネルギーと状態変化 熱機関と熱効率

4. 単元目標

- ①熱効率を求めることができる。
- ②SDG7 のエネルギーの目標について理解する。

5. 指導に当たって

(1)生徒観
積極的に理解しようとする生徒が多い。身近な現象と理論を結び付けて考えることができている。SDGs などの大きな社会問題と物理の理論を結び付けて考える機会が少ないように見える。

(2)教材(題材)観

SDG7 の目標の 1 つである「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」について説明し、エネルギーを効率よく使う方法を、熱機関を参考にしている。

(3)指導観

生徒にやるべき内容を明確に伝える。結果グループ内でのコミュニケーションは基本的には生徒に任せるが、教員は常に議論や実験などの取り組みの様子を観察し、サポートする。

6. 本時の指導と評価の計画

(1)本時のねらい

熱効率の考え方をを用いて、SDG7 の目標について考える。

(2)準備・資料等

プリント教材

(3)本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5分	授業テーマを明示する。 SDGsの目標の一つに「エネルギー」があることを述べる。	話を聞き、プリントに記入する。	質問し、生徒の反応から理解度を確認する。 生徒に問いかけながら進める。わかりにくいようであれば、解説する。
5分	熱機関、熱効率の求め方を説明する。		グループをつくること。 熱機関を選び、その熱効率を求めることを説明する。
15分	熱機関を選択し、その熱効率を計算する。	各班1つの熱機関を選び、2から3人組で熱機関の熱効率を計算する。 終了した班は、別のサイクルについて計算する。	
15分	各班の熱機関の熱効率を比較する。	プリントに各班の計算結果を記入する。計算した熱効率を記入した熱効率のプリントを黒板に貼り、見比べる。	熱機関によって効率が異なることを、再認識する。
10分	発電のエネルギー効率について説明しクイズを出す。	班で話し合い、クイズに答える。	発電についての効率を、熱効率の考え方をを用いて計算する。

(4)本時の評価

【知識・技能】

熱効率を求めることができるか。

【思考力・判断力・表現力】

熱効率の考え方をを用いて、発電の効率について考察できているか。

【主体性】

自ら考え行動することができたか。

【社会科(現代社会)】学習指導案

指導教諭 社会科 高田 美菜

(3)本時の展開

1. 対象:特進 ADVANCED コース1年生 33名 (男子22名・女子11名)
 2. 科目名:現代社会(2単位)
 使用参考書 高校現代社会新訂版 (実教出版)
 2019ズームアップ現代社会資料新訂版 (実教出版)

3. 単元名:「法の下での平等」「社会のなかの差別」

4. 単元目標

- ・憲法で定義された「法の下での平等」を理解する。
- ・社会に残る差別を認識し、差別のためにとられた施策を理解する。

5. 指導に当たって

(1)生徒観
 当該クラスは、学習意欲は非常に高く、集中して授業に取り組むことができる。現代社会については得意な生徒も多く、定期考査の平均点も他クラスと比較して高い。また授業中にはアクティブラーニング型の授業を取り入れることもあり、自分の意見をクラス全体の前で発表することには躊躇する生徒も少なくないが、ほとんどの生徒が意欲的に話し合いをする。深く考えさせるテーマについては、一人一人良い意見を持っているので、様々な生徒の意見を聞くことができ、より題材について深く学ぶことができよう。

(2)教材(題材)観

「法の下での平等」は基本的人権の保障がなければ必要かについて理解するためにも大事な題材である。また憲法で「法の下での平等」を定義されながらも、現在の社会にはなおも差別が残っていることを知る必要がある。さらに差別解消のためにもどのような施策がとられてきたかを知ること、法律の制定が社会に及ぼす影響を知ることができる。さらに社会に呼びかけられれば世の中を変えられることもできると知ること、政治参加に対して興味を喚起したい。

(3)指導観

意欲的に話し合いや考えることが出来る生徒が多いので、アクティブラーニングを取り組んだ授業展開を行う。また特進クラスということも踏まえ、ただ話し合うことのみ重点を置くのではなく、知識を身に付けさせることも重視したい。その点を考慮し、まずは社会にのこる差別について授業プリントを使用して理解させる。

また差別の定義は時代ごとの価値観によって違いため、現代社会の価値観に合わせた差別の定義と、その解消に向けた活動をする必要があることを理解させたい。そして差別解消のために過去の人が行動してきたことを教授することで、社会へ働きかければ法律や世の中が変わることを認識させたい。最後に、差別を解消するため自分たち自身で動けることがないか当事者となって考えさせることで、より深く内容を理解させたい。

6 本時の指導と評価の計画

(1)本時のねらい

- ・時代ごとに価値観や社会は変化していくことを知る。
- ・SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」にそって女性差別とその解消のための国の施策を理解する。
- ・女性差別とその解消について自分の考えをもつ。

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
～10	ジェンダーとセックス(生物学的な性差)の違いを知る	男らしさ、女らしさについてポストイットを使い、自分の意見をグループに用意された紙へ貼っていく 教師の説明を聞いて自分たちが挙げた男・女らしさをジェンダーとセックスに分ける	ジェンダーとセックスの違いについて説明する そもそもなぜ男女差別があるのか、いつから始まっているかを生徒へ問題提起
～15	現在ある男女差別について考える	ジェンダーのカテゴリに含めた内容をもとに、現在ある男女差別についてグループ内で話し合う	様々な時代の男女の役割について取り上げた資料をグループごとに配布
～35	時代ごとにジェンダーの定義がどのように変化されたか知る	グループごとに時代ごとの男女の役割について資料をもとにまとめる 各時代の人々が男女の役割についてどのように認識していたか資料をもとに考える	時間を使いすぎないように注意する
～40	昔は男女不平等と思われていなかったことでも、時代がたれて変化したこと、男女不平等を解消するために過去の人たちが戦ってきたことを知る	2, 3のグループにまとめた内容を発表してもらう	発表内容を振り返りながら、ジェンダーの定義は時代ごとに変化したことを説明する。
～45	男女平等社会の実現のためには何が必要か考える	野村証券の男女コーポレート人事差別訴訟、KuToO運動をもとに差別解消のための活動について学ぶ 男女平等社会を実現するために必要なことを考え、プリントに記入する	時間が足りなければ宿題にする
～50			

(4)本時の評価

- ・社会のなかに残る男女差別と、それを解消するための国の施策を理解することができたか。
- ・男女平等について自分の意見を考えることができたか。

【芸術科(美術)】学習指導案

指導教諭 芸術科 米田 実

1. 対象: 中学GN一貫コース1年1組 (男子9名、女子10名) + 中学1年生美術部 (3名) 計22名
 2. 科目名: 美術 I
 3. 単元名: アートでSDGs「日常の文具から環境問題を考える」(SDG12・14・15)

「非塩ビ・PVCフリーの消しゴム版で作った魚の版 (スタンプ) を使った

ワークシヨップ」

4. 単元目標: 世界につながる美しい海と魚、海洋プラスチックごみの問題も含めたメッセージを伝える

5. 指導観

「消しゴムのカスは、燃えるゴミですか？ 燃えないゴミですか？」と問いかけ、日常の文具を見直すきっかけにしていきたい。

普段から使う消しゴム、その多くにはポリ塩化ビニル (塩ビ、PVC) という成分が入ったものが多い。柔軟性に富んで加工がしやすく様々な分野で素材として用いられてきたが、塩素を含むため、燃やすとダイオキシンが発生し、またPVCの可塑剤(柔軟性をあたえて加工しやすくするための添加物質である)「フタル酸エステル」が環境ホルモんとされているなど、環境問題の視点から問題があり、世界の多くが廃止の方向に向かっている。

今回は地球に優しい非塩ビ材 (プラスチック成分ではない) PVCフリーの消しゴム版を使って、アークトから環境問題を作品にしたい。

6. 生徒観

何事にも興味関心が高く、集中力、創造性に優れた生徒が多く在籍している。

7. 単元指導計画

- ・PVCフリーの消しゴム版 (10cm×7cm) で日本の魚をテーマに魚の版 (消しゴムハンコ) を作る。
- ・魚の版 (消しゴムハンコ) のインクには特殊な「のりスタンプ」「金、銀色パウダー」を使用しエンボスドライヤーで熱を加える事で魚の (スタンプ) が膨らむエンボス版画に取り組む。
- ・作った魚のスタンプを約3m×1mの紺色の紙に何回もスタンプし、巨大な魚の大群を作る。
- ・スタンプが終わればエンボスドライヤーで熱して膨らませる (エンボス効果)。
- 一匹の魚が大きくなるとキラキラとうごめくイメージを共同で作品にする。

8. 本時の指導と評価の計画

(1) 本時のねらい

環境に優しいPVCフリーの消しゴム版を使い、日本の魚をテーマに魚の版 (消しゴムハンコ) を作る。そこには海洋プラスチックごみの問題もメッセージとして含まれている。全員が魚を何個もスタンプすることで、一匹の魚が大きくなるとキラキラとうごめくイメージを共同で作品にする事で、世

界につながる美しい海と魚を守るというメッセージを伝える。

(2) 準備・資料等

PVCフリーの消しゴム版 (10cm×7cm) で日本の魚をテーマに魚の版 (消しゴムハンコ) を作る。
 (事前に製作・2時間)
 約3m×1mの紺色の紙
 エンボスパウダー (金・銀) エンボスバット (のり) エンボスドライヤー6台

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
3分	導入 今回のSDGsプログラムの説明、趣旨を説明	共同で作品を制作するので、あらかじめ準備した魚ハンコから制作プランを説明。 全体で大きな制作イメージを共有する。	全体で大きな制作イメージ・コンセプトを共有する。 それぞれの役割分担を決める。 スタンプする場所などを分担して制作していく。
2分	エンボススタンプの材料・やり方を説明	工程の説明	
10分	全員でエンボスバット (のり) 付けでスタンプ制作	紺色画用紙にスタンプをする大きな魚の形を描いておく。前もって準備した魚ハンコをエンボスバット (のり) に着けてスタンプする。それぞれのスタンプする場所などを分担して制作していく。	積極的な制作参加を促す (制作しながら気づき、ひらめき、創造性を引き出す) 教員も一緒にサポートしながら、気になるポイントを指摘する。
10分	エンボスパウダー制作	のりが乾かないうちにエンボスパウダーを振りかける。 金と銀色をまばらに合わせる 余分なパウダーをはらい取る パウダーが解けて、金、銀色に膨らみ、輝く。	パウダーをふる 余分なパウダーをはらう ドライヤーで熱する 様々な工程を協力して制作する。
15分	エンボスドライヤー制作	完成した作品を前に生徒達と合評、感想を聞く。	今回の制作のコンセプトが表現できたか、また意識したところなどの意見も言ってもらおう。
5分	鑑賞・批評		ホールに作品を展示し、他の生徒にも鑑賞してもらおう。
5分	後片付け		

(4) 本時の評価

普段、何気なく使う文具や道具が環境にどのような影響が及ぶのかを制作を通して学ぶ。共同作品では自分の考えと他の人の意見も受け入れ、共に創造する事を学ぶ。
 大きな作品にすることで、世界につながる美しい海と魚、海洋プラスチックごみの問題も含めたメッセージを伝える。

【情報科】学習指導案

指導教諭 情報科 大西庸平・木村恒隆

1. 対象:2年進学コース(部活動クラス) 33名(男子33名)

2. 科目名:社会と情報(2単位)

参考 web サイト <https://meshprj.com/jp/>

3. 単元名

プログラミング教育 ～人々の豊かな暮らしを“モノ作り”を通して考える～
アイデアを形にできる IoT プロックでモノ作り体験

4. 単元目標

IoT プロック(ソニー-MESH)を活用してSDGsの目標である「3.すべての人に健康と福祉を」と「11.住み続けられるまちづくりを」を軸として「健康・防災」をキーワードに人々の暮らしを豊かにする「モノ」を考案する。モノ作りを体験することで「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」という目標も達成できるのではないかと考える。

本時では作成した作品を各グループがプレゼンする時間とする。この授業を通じて、課題解決力・プログラミング的思考力・コミュニケーション能力及びコラボレーション能力を育成することを目的とする。

5. 指導に当たって

(1)生徒観

部活動クラスの生徒であり、全生徒が強化部に所属をしている。日頃、部活動を通じて心身を鍛えている生徒たちであるが、発想力を磨くことや自分の考えをまじめ人に伝えるということに関してはスポーツにおいても非常に大切な部分だと思ふ。また、モノ作りを体験させることで今後の進路に対しても様々な興味関心を持つてもらいたいとしている。

(2)教材(題材)観

今回、ツールとして使用する IoT ブロック(ソニー-MESH)はアイデアを形成できるというのが一番のポイントである。発想は無量大であり、生徒の想像力を鍛えるには非常に有効な教材といえる。プログラミング教材としての対象年齢は設けられず、様々な教育機関の教材として使用されている。

テーマをSDGsの目標と絡めることで、より深い学びへと進めることができるのではないかと考える。

(3)指導観

基本的に生徒たちが主体的に進めていくことが大切であるので、教員はサポート役に徹する形をとる。グループ間で問題を解決する力も養ってほしいという思いから解決する方法としてはWebサイトで調べたりすることで十分対応できると考える。

6. 本時の指導と評価の計画

(1)本時のねらい

本時は約6時間の準備期間を経て各グループが考えたアイデアを発表する時間とする。各グループの発表を見て、聞いてそれぞれのグループ間で相互評価ができる機会としたい。最終的

ループのプレゼンが一番良かったかを投票してもらおう。(投票結果は後日発表)

(2)準備・資料等

●準備物

- ①プレゼンテーションで使用するスライド(Googleスライドで作成)
- ②MESH発表で使用するブロック
- ③スマートフォン ※グループで1機あればよい(MESHを動かす為が必要 アプリは事前にダウンロードされている。)

(3)本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5分	挨拶 本時概要説明	司会進行役も生徒が主体として行う。	進行が滞りなく進められているかをチェックする。 必要であればサポートをする。
40分	グループ発表 (各3～4分)とする。	スクリーン前で発表する。 <役割分担> ・スライダ操作 ・発表者 ・実演(動画を流す場合もある)	発表時のスライドを準備 使用するMESHブロックのスタンプバイを準備する。 ※時間に限りがある為、スムーズに次のグループが発表できる準備を整える。
5分	まとめ投票	各グループの発表を聞いて投票を行う。 投票用マークシートの裏面にコメントを記入する。	事前に投票用マークシートを準備、配布する。 ※参観していただいた来訪者の方にも投票を行っていただく。 投票結果は後日、授業で発表し検証を行う。

(4)本時の評価

自分たちの生活をよりよくしていく為に必要なもの作りを体験することでSDGsの目標を達成すると同時にMESHを使用することで課題解決力・プログラミング的思考力・コミュニケーション及びコラボレーション能力の向上を図る。

【保健体育科】学習指導案

指導教諭 保健体育科 前田 浩志

1. 対象：進学コース 1年9組（男子21名・女子16名 計37名）

2. 科目名：保健（1単位）

使用参考書：現代高等学校 保健体育 改訂版（大修館書店）

3. 単元名：～WFP～貧困、飢餓の現状把握、そして未来のために今できること

4. 単元について

< 研究主題 >

以前に取り組んだSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みに関するの内容を再確認し、さらに理解を深められるようにすること。

この学びの発展学習として保健の授業内で取り組んだ「食事と健康」と関連付けて、授業展開ができるように今回取り入れる題材のSDGs1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」にまつわる課題を深し、資料を用いて世界の現状を把握する。また、日本の現状にも目を向け、世界と比較することで現在の実態を知る。その中でレッドカップキャンペーンの取り組みを一例に挙げ、紹介すること。先日実際に取り組んだ「おにぎりプロジェクト」の取り組みにも関連付ける。そして世界の未来のためにできることを理解し、現在具体的にどのようなことに取り組むことができるかに対して意欲的に関心を持たせ、考察する。その方法として「貧困」、「飢餓」にまつわる資料を配布し、「根拠・理由・主張」の3要素を踏まえ考察し、発表準備を進める。そして、互いのグループの意見を共有し、理解を深める。

< 本単元で身につけたいスキルと学習活動 >

- ① 「飢餓」・「貧困」の現状を理解する。
- ② 未来のために取り組めることに關しての知識、理解を深める。

5. 単元目標

グループごとに、授業内で掲載した資料に基づいて、「貧困」・「飢餓」に關して考えることを通じて、根拠・理由・主張の3要素を踏まえた論理的思考力を育成する。

6. 単元の評価規準

関心 [貧困]・[飢餓]の内容に關心を持ちグループでディスカッションできているか。

思考 [貧困]・[飢餓]の内容に關しての対策を積極的に考えているか。

知識・理解 世界の[貧困]・[飢餓]の現状を理解できているか。

7. 単元指導計画(配当全4時間)

時限	学習活動	指導上の留意点
第1次 1～2限	教科書に掲載されている「食事と健康」について学習を行う。	食事の役割には、単に栄養素を摂取するだけでなく、様々な意義があるということの意味を理解し、食に關して世界に目を向けさせる。
第2次 3限	【協働学習】教科書教材をふまえ、グループごとに「貧困」・「飢餓」について話し合いより現代の課題を探し、根拠・理由を明確にした上で分析をした発表を考える。「貧困」・「飢餓」で苦しんでいる国をグループで一つ決め、一人一枚その国の現状についてレポート作成する。作品を発表時に提示する。	根拠となる資料として、「貧困」・「飢餓」に關する資料を参照する。グループ内でディスカッションの方法を理解させる。
第3次 4限	グループごとに、「貧困」・「飢餓」に關して分析した内容を発表する。他グループの発表を聞き、「貧困」・「飢餓」に關しての考えをまとめる。	「貧困」・「飢餓」の現状について理解を深めさせる。各グループの発表作品を鑑賞させる。

8. 本時の目標(第3次4時限)

「貧困」・「飢餓」に關しての理解を深め、保健の授業を通して、体育同様に主体性を身につけさせ、リーダー性を培わせたい。グループワークを取り入れ、発言する機会を設けることで主体性を身につけさせ、さらに内容の把握と同時に自信をつけさせる。

9. 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入5分	既習事項の確認	前時間に話し合った内容をもとに、発表の段取りに關して確認する。	評価シートにどのような事項を書き込んでいくのか確認する。	
展開40分	各グループの発表	●グループ内でまとめた意見を発表する。 ●それぞれの主張に關して、どのようなことを考えたか、質問など発言する。	●発表を聞きながら、評価シートに記入していく。	●グループごとの発表の仕方、聞く姿勢を評価していく。
まとめ5分	総括	「貧困」・「飢餓」の現状に關して理解を深める。		評価シートを回収する。

国語科と芸術科の教科横断型授業の試み

指導教諭 国語科 伊吹 侑希子
芸術科 坂本 智子

1. 対象：特進BASICコース 1年6組（男子19名・女子17名 計36名）

2. 日時：2019年11月19日（火）

3. 場所：1年6組ホームルーム教室

4. 単元名：らしさって何？「歌」から読み解くジェンダー

5. 教材名：万葉集・古今和歌集

6. 単元について

<研究主題>

教科横断的な視点を取り入れた授業展開ができるように、古典教材と関連性の深い芸術科（書道）に着目し、一年間を通して国語科と芸術科の教科を横断した授業プログラムを考えた。7月は、『伊勢物語』『芥川』の学習を發展させて、芸術科の坂本先生にお手本を書いていただき写本を作成した。そして、11月は歌を取り上げ『万葉集』『古今和歌集』を学習材とし、修辞を含め学習した。

この学びの發展学習として、江戸期に活躍した賀茂真淵によって提唱された『万葉集』の歌風「ますらをぶり」と『古今和歌集』の歌風「たをやめぶり」をふまえ、男はこうあるべき、女はこうあるべきという性別による価値観が現代にも受け継がれているのか、それとも変化しているのか考察する。その方法として、新聞記事データベースを用いて、SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」にまつわる課題を探し、「根拠・理由・主張」の3要素を踏まえ考察し発表原稿をまとめる。そして、短冊に和歌を万葉仮名で書くことで書道の鑑賞も行う。

<本単元で身につけたいスキルと学習活動>

- ①和歌の修辞や表現を理解する。
- ②『万葉集』『古今和歌集』の特色について理解する。

7. 単元目標

教科書に掲載されている作品とグループごとに示された作品をもとに、『万葉集』『古今和歌集』それぞれの歌風について考えることを通じて、歌から読み解けるジェンダーについて、根拠・理由・主張の3要素を踏まえた論理的思考力を育成する。

8. 単元の評価規準

- 関** 和歌の内容に関心を持っているか。
書 和歌を読んで感じたことを自分の意見として整理することができるか。
読 和歌の主題・作者の心情・時代背景について理解しているか。
知 『万葉集』『古今和歌集』について理解しているか。

9. 単元指導計画

(配当全5時間)

時限	学習活動	指導上の留意点
第1次 1～2	教科書に掲載されている万葉集・古今和歌集について学習を行う。	一首ずつ解釈・鑑賞を通して、『万葉集』『古今和歌集』それぞれの歌風の特徴や相違・変遷について理解する。
第2次 3～4	【協同学習】教科書教材をふまえ、グループごとに割り振られた歌について話し合い、新聞記事データベースより現代の課題を探し、根拠・理由を明確にした上で分析をした発表原稿を考える。グループ全員が短冊に歌を清書し、一番よい作品を発表時に提示する。	根拠となる資料として、新聞記事データベースや辞書・国語便覧を参照する。 ディスカッションの方法を理解する。 万葉仮名について理解する。
第3次 5	グループごとに、担当した歌について分析した内容を発表する。 他グループの発表を聞き、歌から読み解くジェンダーについて考えをまとめる。	『万葉集』『古今和歌集』の歌風について理解を深める。 各グループの書の作品を鑑賞する。

10. 本時の目標(第3次 5時間)

すでにグループ内で意見をまとめているので、この時間では、他のグループが、どのような結論を導き出したか発表を通じて聞き取り、さらに自分たちの考えがどう変わったのか、思考を深める。

11. 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	既習事項の確認	前時間に話し合った内容をもとに、発表の段取りについて確認する。	評価シートにどのような事項を書き込んでいくのが確認する。	
展開 40分	各グループの発表	●グループ内でまとめた文章を発表する。 ●それぞれの主張について、どのようなことを考えたか、質問など発言する。	●発表を聞きながら、評価シートに記入していく。 ●グループごとの発表の仕方、聞く姿勢を評価していく。	
まとめ 5分	総括	『万葉集』『古今和歌集』の歌風について理解を深める。		評価シートを回収する。

外国語科

指導教諭 外国語 金田 向平

1. 対象：特進 BASIC コース 2年 6～9組 (男子 13名・女子 16名 計 29名)

2. 日時：2019年 11月 19日 (火)

3. 場所：2年 7組ホームルーム教室

4. 単元名：SDGs ジェンダー

5. 教材名：SDGs ジェンダーに関する内容の、教員が配布したプリント

6. 単元について

<研究主題>

SDGs におけるジェンダーについて、持続可能な開発目標という本来の趣旨に沿って、男性が、女性が、どのようにすれば平等な社会の中でいきいきとすることができるのかということを、今の生達の状況から考えられることを引き出し、社会に対する関心を向けさせる。また、自らが考えた内容を相手に発信し、その考えについてグループで議論することにより、さらにそのテーマについての理解を深めるだけでなく、相手に対する伝え方、自らの意見と他者の意見をまとめ、自らの考えを深めていく。

<本単元で身につけたいスキルと学習活動>

①状況に合わせて自らの意見を生み出す判断能力

②他者に対して自らの意見を伝えるというプレゼンテーション能力

7. 単元目標

教師が提示する、ジェンダーに関する社会の状況に対して、グループ内でそれぞれ意見を出し合い、意見をまとめめる。最終的に、まとめた意見をクラスで発表し、他のグループの生徒に基準に従って評価をつけさせる。客観的に状況を判断し、意見に対してグループ内で議論することで自らの意見を深めることができる。また、クラス内でプレゼンテーションをする中で、いかにして他者に自らの意見を効果的に伝えるかを学ぶと同時に、論理的思考力を育成する。

8. 単元の評価規準

それぞれの発表者に対して、①pronunciation②grammar③contents④attitude の観点から、5点ずつの点数をつけ、合計 20点で点数をつけ、その平均点を評価点とする。

9. 単元指導計画 (配当全5時間)

時限	学習活動	指導上の留意点
第1次 1～2	日本における男性、女性の社会的立場の差と、アメリカ等の海外における男女の社会的立場の差について学習を行う。	指導上の留意点 世界の現状を知ること、今の日本の状況を知ることができ、日本への理解を深め、今の社会に対する意識を深める。
第2次 3～4	日本、海外での男女の社会的立場の差を知った上で、様々な状況を生徒に提示していく。生徒達はグループごとで与えられた状況について話し合い、その状況に対する打開策を提案していく。その後、グループの中での意見をまとめて、プレゼンテーションの準備を行う。	ジェンダーに関して、今の社会の状況を生徒達に示していく。その際、どのようになればその状況が改善されるのか、グループで話し合わせる。可能な限り英語でディスカッションを行い、英語で相手に意見を伝えていく。
第3次 5	グループ内で意見をまとめ、それを他のグループに対して発表する。発表を聞く側のグループは、評価基準に従って他グループの発表を採点していく。	他グループの発表を聞いて評価することも、自らの成長につながる為、客観的に判断することを促す。また、グループごとのプレゼンを聞き、自らの知識を深めることを促す。

10. 本時の目標(第2次 3時限)

すでに、現代におけるジェンダーに関する内容を英文で読んでいく為、この時間ではグループ内で、現代の状況に対して自らが考えられる打開策を発表していく。また、グループ内で他者の意見を聞き、自らの考えに他者の意見を取り入れ、自らの意見をまとめられるように思考を深める。

11. 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	既習事項の確認	前時間に示した内容を改めて生徒達に確認する。		
展開 40分	各グループの発表	グループ内で、自らの意見を発表していく。 それぞれの主張について、どのようなことを考えたか、質問など発言する。	発表を聞きながら、評価シートに記入していく。	グループごとの発表の仕方、聞く姿勢を評価していく。
まとめ 5分	総括	今回のプレゼンテーションに向けての注意、		評価シートを回収する。

【数学科】公開研究授業 学習指導案

【指導者氏名】 谷澤篤志・梅村大貴

指導日時・教室 2019年 11月 19日(水) 5限目 教室名 3号館 A35
対象生徒・集団 特進 ADVANCED コース 3年生(数学演習Ⅱ履修者) 21人
科 目 名 数学演習Ⅱ(単位数2)

1 単元(題材)名

「平等社会と格差社会」

2 単元(題材)の目標

- ・自由で公正な競争社会では、格差が生まれてしまうことをシミュレーションを通して理解する。
- ・モデルとシミュレーションを通して、格差とは何かについて考える。

3 指導に当たって

(1) 生徒観

3年生特進 ADVANCED コースの文系の中で、選択で数学を受講している生徒 21名で行っている授業である。文系であっても数学を学ぶことの重要性は普段から指導しており、生徒たちもそれを十分理解して、意欲的に授業に取り組んでいる。

(2) 教材(題材)観

本教材は、長崎大学教育学部の福田正弘氏の論文「社会化における数理的モデルの認識(2): 小単元『自由・公正な社会は平等な社会か』」を参考にしている。投資ゲームを行い、それによって生まれる所得格差をジニ係数とローレンツ曲線を用いて数値化する。

(3) 指導観

今回の授業では、平等に行っているはずのシミュレーションの結果、所得格差が生まれてしまい、不平等が生まれることを実感させる。その上で、格差を無くすにはどうすればよいか、また、そもそも格差を無くす必要性があるのかについても考えさせたい。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時のねらい

- ・シミュレーションの結果から、所得格差が生まれていることを理解する。
- ・所得格差について、自分の感覚と、数値化したものを比較して、その違いについて考察する。

(2) 準備・資料等

記録用プリント

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5分	投資ゲームの説明	投資ゲームのやり方を学ぶ	パラメータについての説明を丁寧に行い、資金がどのように動いていくかをある程度想像させる
20分	投資ゲームを繰り返し行う	投資ゲームを繰り返し行い、資金の増え方を観察する	
10分	結果を用いて、グラフに表す	グラフを見て、どのように格差が広がっていくかを実感する	グラフを表示し、格差となる部分を示しながら、回数を追うごとに変化していく様子を見せる
	パラメータの確認	どのパラメータが、格差に影響を与えたかを確認する	パラメータを変えて、シミュレーションを行う
10分	格差について、議論を深める	格差が生まれる事の是非や、格差を無くすための方法などを考察する	様々なパターンを表示して、考えを深めさせる
5分	まとめ	様々な社会問題を数学的観点からアプローチできることを知る	数学を用いて社会問題にアプローチすることで、様々な解決方法を模索できることを実感させる

(4) 本時の評価

- ・投資ゲームにおけるパラメータが、結果にどのように影響を与えているかを考察する。
- ・格差について、自分の考えを周りと共有できたかを確認する。
- ・こちらの発問に対して、じっくり考えて発言出来たかを確認する。

理科 学習指導案

指導者氏名 百田 洋

指導日時・教室 令和元年11月19日(火) 5限目 教室名 3年3組
対象生徒・集団 高校特進 ADVANCED コース 3年生 3, 4, 5組 32名
科目名 物理・物理演習 (単位数 4)
使用参考書 総合物理① [数研出版]

1 単元(題材)名

気体のエネルギーと状態変化 熱機関と熱効率

2 単元(題材)の目標

- ①熱効率を求めることができる。
- ②SDGs のエネルギーの目標について理解する。

3 指導に当たって

(1) 生徒観

積極的に理解しようとする生徒が多い。身近な現象と理論を結び付けて考えることができている。SDGs などの大きな社会問題と物理の理論を結び付けて考える機会は少ないように見える。

(2) 教材(題材)観

SDGs の目標の1つである「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」について説明し、エネルギー

(3) 指導観

生徒にやるべき内容を明確に伝える。結果グループ内でのコミュニケーションは基本的には生徒に任せるが、教員は常に議論や実験などの取り組みの様子を観察し、サポートする。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時のねらい

熱効率の考え方をを用いて、SDGs の目標について考える。

(2) 準備・資料等

プリント教材

(3) 本時の展開

時間	学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5分	授業テーマを明示する。	話を聞き、プリントに記入する。	質問し、生徒の反応から理解度を確認する。
5分	SDGsの目標の一つに「エネルギー」があることを述べる。 熱機関、熱効率の求め方を説明する。		生徒に問いかけながら進める。わかりにくいようであれば、解説する。 グループをつくること。熱機関を選び、その熱効率を求めることを説明する。
15分	熱機関を選択し、その熱効率を計算する。	各班1つの熱機関を選び、2から3人組で熱機関の熱効率を計算する。 終了した班は、別のサイクルについて計算する。	
15分	各班の熱機関の熱効率を比較する。	プリントに各班の計算結果を記入する。計算した熱効率を記入した熱効率のプリントを黒板に貼り、見比べる	熱機関によって効率が異なることを、再認識する。
10分	発電のエネルギー効率について説明しクイズを出す。	班で話し合い、クイズに答える。	発電についての効率を、熱効率の考え方をを用いて計算する。

(4) 本時の評価

【知識・技能】

熱効率を求めることができているか。

【思考力・判断力・表現力】

熱効率の考え方をを用いて、発電の効率について考察できているか。

【主体性】

自ら考え行動することができたか。

【公民科(現代社会)】学習指導案

【指導者氏名】高田 美菜

指導日時・教室 令和元年 11月19日(火) 1限目 教室名 1—4HR
対象生徒・集団 特進 ADVANCED コース 1年生 33人
科 目 名 現代社会(単位数2)
使用参考書 高校現代社会新訂版 実教出版
2019ズームアップ現代社会資料新訂版 実教出版

1 単元(題材)名

「法の下での平等」「社会のなかの差別」

2 単元(題材)の目標

- ・憲法で定義された「法の下での平等」を理解する。
- ・社会に残る差別を認識し、差別のためにとられた施策を理解する。

3 指導に当たって

(1) 生徒観

当該クラスは男子22名、女子11名の特進クラスであり、学習意欲は非常に高く、集中して授業に取り組むことができる。現代社会については得意な生徒も多く、定期考査の平均点も他クラスと比較して高い。また授業中にはアクティブラーニング型の授業を取り入れることもあり、自分の意見をクラス全体の前で発表することには躊躇する生徒も少なくないが、ほとんどの生徒が意欲的に話し合いをする。深く考えさせるテーマについては、一人一人良い意見を持っているので、様々な生徒の意見を聞くことができれば、より題材について深く学ぶことができるだろう。

(2) 教材(題材)観

「法の下での平等」は基本的人権の保障がなぜ必要かについて理解するためにも大事な題材である。また憲法で「法の下での平等」を定義されながらも、現在の社会にはなおも差別が残っていることを知る必要がある。さらに差別解消のためにどのような施策がとられてきたかを知ること、法律の制定が社会に及ぼす影響を知ることができる。さらに社会に呼びかければ世の中を変えることもできると知ること、政治参加に対して興味を喚起したい。

(3) 指導観

意欲的に話し合いや考えることが出来る生徒が多いので、アクティブラーニングを取り組んだ授業展開を行う。また特進クラスということも踏まえ、ただ話し合うことのみ重点を置くのではなく、知識を身に付けさせることも重視したい。その点を考慮し、まずは社会にのこる差別について授業プリントを使用して理解させる。

また差別の定義は時代ごとの価値観によって違うため、現代社会の価値観に合わせた差別の定義と、その解消に向けた活動をする必要があることを理解させたい。そして差別解消のために過去の人が行動してきたことを教授することで、社会へ働きかければ法律や世の中が変わることを認識させたい。最後に、差別を解消するために自分たち自身で動けることがないか当事者となって考えさせることで、より深く内容を理解させたい。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時のねらい

- ・時代ごとに価値観や社会は変化していくことを知る。
- ・女性差別とその解消のための国の施策を理解する。
- ・女性差別とその解消について自分の考えをもつ。

(2) 準備・資料等

教科書、資料集、授業プリント、付箋、パワーポイント

(3) 本時の展開

時間	学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
~10	ジェンダーとセックス(生物学的な性差)の違いを知る	男らしさ、女らしさについてポストイットを使い、自分の意見をグループに用意された紙へ貼っていく 教師の説明を聞いて自分たちが挙げた男・女らしさをジェンダーとセックスに分ける	ジェンダーとセックスの違いについて説明する
~15	現在ある男女差別について考える	ジェンダーのカテゴリーに含めた内容をもとに、現在ある男女差別についてグループ内で話し合う	そもそもなぜ男女差別があるのか、いつから始まっているかを生徒へ問題提起
~35	時代ごとにジェンダーの定義がどのように変化されたか知る	グループごとに時代ごとの男女の役割について資料をもとにまとめる 各時代の人々が男女の役割についてどのように認識していたか資料をもとに考える	様々な時代の男女の役割について取り上げた資料をグループごとに配布 時間を使いすぎないように注意する
~40	昔は男女不平等と思われていなかったことでも、時代がつれて変化したこと、男女不平等を解消のために過去の人たちが戦ってきたことを知る	2, 3のグループにまとめた内容を発表してもらう 野村証券の男女コース別人事差別訴訟、KuToo運動をもとに差別解消のための活動について学ぶ	発表内容を振り返りながら、ジェンダーの定義は時代ごとに変化したことを説明する。
~45	男女平等社会の実現のためには何が必要か考える	男女平等社会を実現するために必要なことを考え、プリントに記入する	時間が足りなければ宿題にする
~50			

(4) 本時の評価

- ・社会のなかに残る男女差別と、それを解消するための国の施策を理解することができたか。
- ・男女平等について自分の意見を考えることができたか。

【美術】学習指導案

【指導者氏名】米田 実

指導日時・教室 令和元年11月19日（火）

第二美術教室

対象生徒 中学GN一貫コース1年1組（男子9名、女子10名）＋中学1年生
美術部（3名）計22名

科目名 美術I

1 単元（題材）名 アートでSDGs「日常の文具から環境問題を考える」
「非塩ビ・PVCフリーの消しゴム版で作った魚の版（スタンプ）を使ったワークショップ」

2 単元（題材）の目標

世界につながる美しい海と魚、海洋プラスチックごみの問題も含めたメッセージを伝える

3 指導観

「消しゴムのカスは、燃えるゴミですか？燃えないゴミですか？」と問いかけ、
日常の文具を見直すきっかけにしていきたい。

普段から使う消しゴム、その多くにはポリ塩化ビニル（塩ビ、PVC）という成分が入った
ものが多い。柔軟性に富んで加工がしやすく様々な分野で素材として用いられてきたが、塩
素を含むため、燃やすとダイオキシンが発生し、またPVCの可塑剤（柔軟性をあたえて加
工しやすくするための添加物質である）「フタル酸エステル」が環境ホルモンとされている
など、環境問題の視点から問題があり、世界の多くが廃止の方向に向かっている。

今回は地球に優しい非塩ビ材（プラスチック成分ではない）PVCフリーの消しゴム版を使
って、アートから環境問題を作品にしたい。

4 指導に当たって

生徒観

何事にも興味関心が高く、集中力、創造性に優れた生徒が多く在籍している。

5 単元指導計画

- ・PVCフリーの消しゴム版（10cm×7cm）で
日本の魚をテーマに魚の版（消しゴムハンコ）を作る。
- ・魚の版（消しゴムハンコ）のインクには特殊な「のりスタンプ」「金、銀色パウダー」を
使用 エンボスドライヤーで熱を加える事で魚の（スタンプ）が膨らむエンボス版画
- ・作った魚のスタンプを約3m×1mの紺色の紙に何回もスタンプし、巨大な魚の大群
を作る。
- ・スタンプが終わればエンボスドライヤーで熱して膨らませる（エンボス効果）。
一匹の魚が大きな魚となってキラキラとうごめくイメージを共同で作品にする。

6 本時の指導と評価の計画

(1) 本時のねらい

環境に優しいPVCフリーの消しゴム版を使い、日本の魚をテーマに魚の版（消しゴムハンコ）を作る。そこには海洋プラスチックごみの問題もメッセージとして含まれている。全員が魚を何個もスタンプすることで、一匹の魚が大きな魚となってキラキラとうごめくイメージを共同で作品にする事で、世界につながる美しい海と魚を守るというメッセージを伝える。

(2) 準備・資料等

PVCフリーの消しゴム版（10cm×7cm）で
日本の魚をテーマに魚の版（消しゴムハンコ）を作る。（事前に製作・2時間）
約3m×1mの紺色の紙
エンボスパウダー（金・銀） エンボスパット（のり） エンボスドライヤー6台

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
3分	導入 今回のSDGsプログラムの説明、趣旨を説明	共同で作品を制作するので、あらかじめ準備した、魚ハンコから制作プランを説明。全体で大きな制作イメージを共有する。	全体で大きな制作イメージ・コンセプトを共有する。
2分	エンボススタンプの材料・やり方を説明	工程の説明	それぞれの役割分担を決める。スタンプする場所などを分担して制作していく。
10分	全員でエンボスパット（のり付け）でスタンプ制作	紺の色画用紙にスタンプをする大きな魚の形を描いておく。 前もって準備した魚ハンコをエンボスパット（のり）に着けスタンピングする。それぞれのスタンプする場所などを分担して制作していく。	積極的な制作参加を促す（制作しながら気づき、ひらめき、創造性を引き出す） 教員も一緒にサポートしながら、気になるポイントを指摘する。
10分	エンボスパウダー制作	のりが乾かなうちにエンボスパウダーを振りかける。金と銀色をまばらに合わせる	パウダーをふる 余分なパウダーをはらう ドライヤーで熱する
15分	エンボスドライヤー制作	余分なパウダーをはらいエンボスドライヤーで熱を加える。パウダーが解けて、金、銀色に膨らみ、輝く。	様々な工程を協力して制作する。
5分	鑑賞・批評	完成した作品を前に生徒達と合評、感想を聞く。	今回の制作のコンセプトが表現できたか、また意識したところなどの意見も言ってもらおう。
5分	後片付け		ホールに作品を展示し、他の生徒にも鑑賞してもらおう。

(4) 本時の評価

普段、何気なく使う文具や道具が環境にどのような影響が及ぶのかを制作を通して学ぶ。共同作品では自分の考えと他の人の意見も受け入れ、共に創造する事を学ぶ。大きな作品にすることで、世界につながる美しい海と魚、海洋プラスチックごみの問題も含めたメッセージを伝える。

【情報科】学習指導案

【指導者氏名】大西庸平・木村恒隆

指導日時・教室 令和元年11月19日(火)5限目 教室名 第2PC教室
対象生徒・集団 高校第2学年進学コース(部活動クラス)33人
科目名 社会と情報(単位数 2)
使用参考書 webサイト <https://meshprj.com/jp/>

1 単元(題材)名

SDGs Project ～人々の豊かな暮らしを“モノ作り”を通して考える～
(プログラミング教育:アイデアを形にできるIoTブロックでモノ作り体験)

2 単元(題材)の目標

IoTブロック(ソニーMESH)を活用してSDGsの目標である「3.すべての人に健康と福祉を」と「11.住み続けられるまちづくりを」を軸として「健康・防災」をキーワードに人々の暮らしを豊かにする「モノ」を考案する。モノ作りを体験することで「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」という目標も達成できるのではないかと考える。

本時では作成した作品を各グループがプレゼンする時間とする。この授業を通じて、課題解決力・プログラミング的思考力・コミュニケーション及びコラボレーション能力を育成することを目的とする。

3 指導に当たって

(1) 生徒観

部活動クラスの生徒であり、全生徒が強化部に所属をしている。日頃、部活動を通じて心身を鍛えている生徒たちであるが、発想力を磨くことや自分の考えをまとめ人に伝えるということに関してはスポーツにおいても非常に大切な部分だと思う。また、モノ作りを体験させることで今後の進路に対しても様々な興味関心を持ってもらうこともねらいとしている。

(2) 教材(題材)観

今回、ツールとして使用するIoTブロック(ソニーMESH)はアイデアを形成できるというのが一番のポイントである。発想は無限大であり、生徒の想像力を鍛えるには非常に有効な教材といえる。プログラミング教材としての対象年齢は設けられておらず、様々な教育機関の教材として使用されている。

テーマをSDGsの目標と絡めることで、より深い学びへと進めることができるのではないかと考える。

(3) 指導観

基本的に生徒たちが主体的に進めていくことが大切であるので、教員はサポート役に徹する形をとる。グループ間で問題を解決する力も養ってほしいという思いから解決する方法としてはWebサイトで調べたりすることで十分対応できると考える。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時のねらい

本時は約6時間の準備期間を経て各グループが考えたアイデアを発表する時間とする。各グループの発表を見て、聞いてそれぞれのグループ間で相互評価ができる機会としたい。最終的にどのグループのプレゼンが一番良かったかを投票してもらう。(投票結果は後日発表)

(2) 準備・資料等

●準備物

- ①プレゼンテーションで使用するスライド (Google スライドで作成)
- ②MESH発表で使用するブロック
- ③スマートフォン ※グループで1機あればよい
(MESHを動かす為に必要 アプリは事前にダウンロードされている。)

(3) 本時の展開

時間	学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
5分	挨拶 本時概要説明	司会進行役も生徒が主体として行う。	進行が滞りなく進められているかをチェックする。 必要であればサポートをする。
40分	グループ発表 (各3~4分)とする。	スクリーン前で発表する。 <役割分担> ・スライド操作 ・発表者 ・実演 (動画を流す場合もある)	発表時のスライドを準備 使用するMESHブロックのスタンバイをする。 ※時間に限りがある為、スムーズに次のグループが発表できる準備を整える。
5分	まとめ投票	各グループの発表を聞いて投票を行う。 投票用マークシートの裏面にコメントを記入する。	事前に投票用マークシートを準備、配布する。 ※参観していただいた来訪者の方にも投票を行っていただく。 投票結果は後日、授業で発表し検証を行う。

(4) 本時の評価

自分たちの生活をよりよくしていく為に必要なモノ作りを体験することでSDGsの目標を達成すると同時にMESHを使用することで課題解決力・プログラミング的思考力・コミュニケーション及びコラボレーション能力の向上を図る。

< 補足資料 >

本時で使用する教材「MESH」とは. . .

MESH ~つくれる、学べる、楽しめるアイデアを形にできる IoT ブロック~

URL : <https://meshprj.com/jp/>

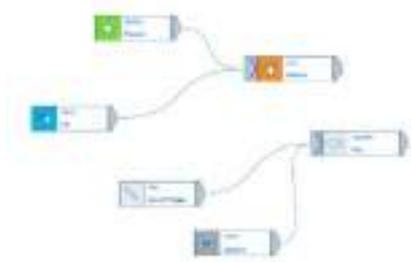
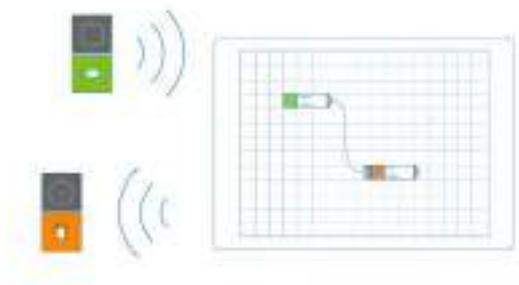
★可能性が詰まった MESH の IoT ブロック

センサーやボタンなどに機能毎に用意されたブロックが、あなたのプロトタイプやものづくりを簡単にします。もちろんインターネットとつながるプロジェクトも。



★無線でつながるブロック

センサーなどのブロックは無線でつながるので、身近なものや、あなたのプロジェクトにすぐに組み合わせてつくることができます。



★直感的なプログラミングアプリ

ドラッグ & ドロップで繋げていくだけだから、直感的に仕組みをつくることができます。

★拡張もすぐできる

Google スプレッドシートや LINE へのメッセージ、スマート照明など、様々なウェブサービスやスマートデバイスと連携して使えます。



保健授業を通じたSDGsの取り組み

指導教諭 保健体育科 前田 浩志

1. 対象：進学コース 1年9組 (男子21名・女子16名 計37名)
2. 日時：2019年11月19日 (火) 5限目
3. 場所：1年9組ホームルーム教室
4. 単元名：～WFP～貧困、飢餓の現状把握、そして未来のために今できること
5. 単元について

<研究主題>

以前に取り組んだSDGs (持続可能な開発目標) の取り組みに関しての内容を再確認し、さらに理解を深められるようにすること。

この学びの発展学習として保健の授業内で取り組んだ「食事と健康」と関連付けて、授業展開ができるように今回取り入れる題材のSDGs1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」にまつわる課題を探し、資料を用いて世界の現状を把握する。また、日本の現状にも目を向け、世界と比較することで現在の実態を知る。その中でレッドカップキャンペーンの取り組みを一例に挙げ、紹介する。先日実際に取り組んだ「おにぎりプロジェクト」の取り組みにも関連付ける。そして世界の未来のためにできることを理解し、現在具体的にどのようなことに取り組むことができるかに対して意欲的に関心を持たせ、考察する。その方法として「貧困」、「飢餓」にまつわる資料を配布し、「根拠・理由・主張」の3要素を踏まえ考察し、発表準備を進める。そして、互いのグループの意見を共有し、理解を深める。

<本単元で身につけたいスキルと学習活動>

- ① 「飢餓」・「貧困」の現状を理解する。
- ② 未来のために取り組めることに関する知識、理解を深める。

6. 単元目標

グループごとに、授業内で掲載した資料に基づいて、「貧困」・「飢餓」に関して考えることを通じて、根拠・理由・主張の3要素を踏まえた論理的思考力を育成する。

7. 単元の評価規準

関心 [貧困]・[飢餓]の内容に関心を持ちグループでディスカッションできているか。

思考 [貧困]・[飢餓]の内容に関しての対策を積極的に考えているか。

知識・理解 世界の[貧困]・[飢餓]の現状を理解できているか。

8. 単元指導計画

(配当全4時間)

時限	学習活動	指導上の留意点
第1次 1～2限	教科書に掲載されている「食事と健康」について学習を行う。	食事の役割には、単に栄養素を摂取するだけでなく、様々な意義があるということの意味を理解し、食に関して世界に目を向けさせる。
第2次 3限	【協同学習】教科書教材をふまえ、グループごとに「貧困」・「飢餓」について話し合いより現代の課題を探し、根拠・理由を明確にした上で分析をした発表を考える。「貧困」・「飢餓」で苦しんでいる国をグループで一つ決め、一人一枚その国の現状についてレポート作成する。作品を発表時に提示する。	根拠となる資料として、「貧困」・「飢餓」に関する資料を参照する。 グループ内でディスカッションの方法を理解させる。
第3次 4限	グループごとに、「貧困」・「飢餓」について分析した内容を発表する。 他グループの発表を聞き、「貧困」・「飢餓」に関するの考えをまとめる。	「貧困」・「飢餓」の現状について理解を深めさせる。 各グループの発表作品を鑑賞させる。

9. 本時の目標(第3次4時限)

「貧困」・「飢餓」に関しての理解を深め、保健の授業を通して、体育同様に主体性を身につけさせ、リーダー性を培わせたい。グループワークを取り入れ、発言する機会を設けることで主体性を身につけさせ、さらに内容の把握と同時に自信をつけさせる。

10. 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入5分	既習事項の確認	前時間に話し合った内容をもとに、発表の段取りについて確認する。	評価シートにどのような事項を書き込んでいくのが確認する。	
展開40分	各グループの発表	●グループ内でまとめた意見を発表する。 ●それぞれの主張について、どのようなことを考えたか、質問など発言する。	●発表を聞きながら、評価シートに記入していく。	●グループごとの発表の仕方、聞く姿勢を評価していく。
まとめ5分	総括	「貧困」・「飢餓」の現状について理解を深める。		評価シートを回収する。